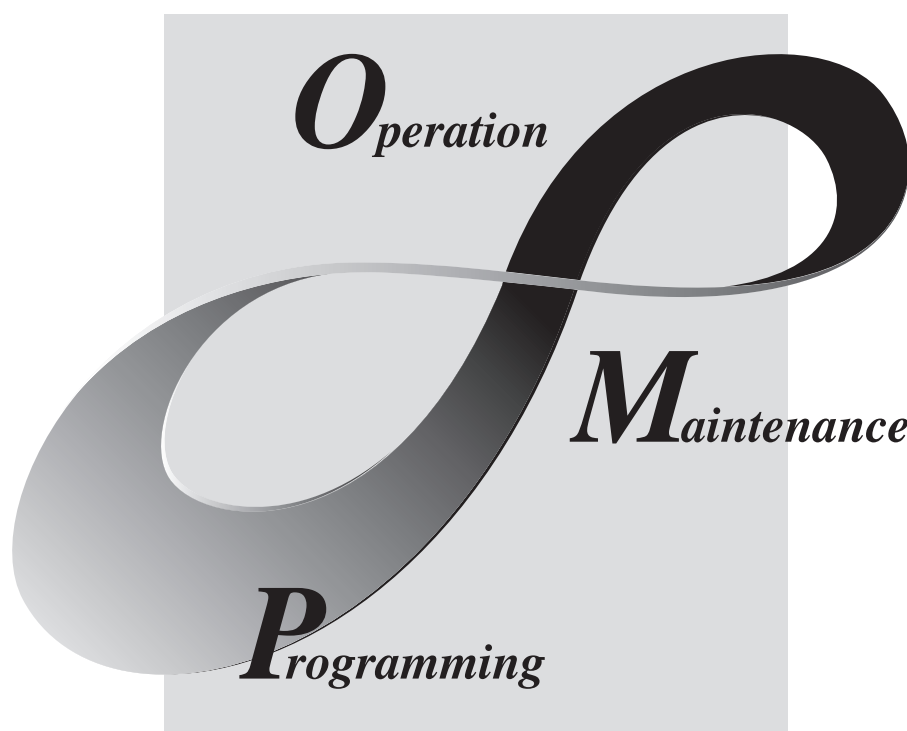


GX RemoteService-I Version 2

オペレーティングマニュアル

mitsubishi



統合FAソフトウェア
MELSOFT



SW2D5C-RAS-J

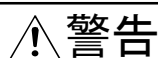
● 安全上のご注意 ●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、CPUユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「 警告」, 「 注意」として区分してあります。



警告

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】



注意

- インターネット経由の外部機器からの不正アクセスに対してシーケンサシステムの安全を保つ必要があるときは、ユーザによる対策を盛り込んでください。

● 製品の適用について ●

- (1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万一シーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 当社シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万一使用された場合は当社として当社シーケンサの品質、性能、安全に関する一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。
- ・ 各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
 - ・ 鉄道各社殿および官公庁殿など、特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
 - ・ 航空宇宙、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、乗用移動体、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など生命、身体、財産に大きな影響が予測される用途

ただし、上記の用途であっても、具体的に用途を限定すること、特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に、当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので、詳細につきましては当社窓口へご相談ください。

改 定 履 歴

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改 定 内 容
2004年1月	SH(名)-080437-A	初版印刷
2004年4月	SH(名)-080437-B	一部修正 2. 1. 1項, 6. 3. 3項
2004年7月	SH(名)-080437-C	一部修正 総称・略称について, 2. 1. 1項, 2. 3. 1項, 8. 1節
2004年10月	SH(名)-080437-D	一部修正 5. 3節, 5. 4節, 8. 1節
2008年6月	SH(名)-080437-E	一部修正 2. 1. 1項, 9. 2節
2008年9月	SH(名)-080437-F	一部修正 マニュアルの見方, 1. 1節, 2. 3. 1項, 5. 1節～5. 4節, 9. 1. 1項
2009年11月	SH(名)-080437-G	新規追加 製品の適用について 一部修正 安全上のご注意, ソフトウェア登録のお薦め, マニュアルについて, マニュアルの見方, 製品構成, 4. 2. 1項

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

ソフトウェア登録のお薦め

同梱の「ソフトウェア使用契約書」の内容を承諾いただいたあと，誠にお手数ですが，MELFANSwebホームページ(<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>)にアクセスし，ソフトウェア登録を行ってくださいようお願い申し上げます。(登録にかかる料金などは一切不要です。)

(1) ソフトウェア登録

MELFANSwebホームページより，ソフトウェア登録を行うことが可能です。

また，新製品ニュース，バージョンアップ情報，その他催しなどの最新情報をダイレクトメールにてご提供致します。

(2) お問い合わせに際しての注意事項

お問い合わせの内容はマニュアルで使用されている用語で，具体的かつ明確にお願い致します。

問題と思われる現象については，その現象を再現する情報が必要となりますので，詳しくお知らせください。

また，パソコンOSや弊社以外の市販ソフトウェアについてのお問い合わせなどは，それぞれのメーカーにお問い合わせください。

は じ め に

このたびは、三菱統合FAソフトウェアMELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございます。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、MELSOFTシリーズの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願いいたします。

目 次

安全上のご注意	A- 1
製品の適用について	A- 2
改定履歴	A- 3
ソフトウェア登録のお勧め	A- 4
目次	A- 5
マニュアルについて	A- 8
マニュアルの見方	A- 9
総称・略称について	A-12
製品構成	A-13

1 概 要	1- 1～1- 6
--------------	------------------

1.1 特 長	1- 1
1.2 自動運転・手動運転について	1- 5

2 システム構成	2- 1～2-28
-----------------	------------------

2.1 サーバ（パソコン）側の構成機器一覧	2- 1
2.1.1 シリアル/USBポートからの接続	2- 2
2.1.2 I/Fボードからの接続	2- 9
2.1.3 使用可能なユニットの形名一覧	2-11
2.1.4 パソコンCPUユニットからの接続	2-14
2.1.5 Webサーバユニットからの接続	2-20
2.2 ネットワークへの接続形態	2-21
2.2.1 接続構成	2-21
2.2.2 接続機器構成	2-22
2.3 動作環境	2-24
2.3.1 サーバ（パソコン）	2-24
2.3.2 i モード対応携帯電話	2-27

3 機能一覧	3- 1～3- 2
---------------	------------------

3.1 サーバ（パソコン）の機能一覧	3- 1
3.2 i モード対応携帯電話側の機能一覧	3- 2
3.2.1 モニタ機能	3- 2
3.2.2 i モード対応携帯電話の回線設定	3- 2

4 運転までの設定と手順	4- 1~4-14
4.1 サーバ（パソコン）の設定手順	4- 2
4.2 インストール，アンインストール	4- 4
4.2.1 インストール	4- 4
4.2.2 アンインストール	4- 9
4.3 USBドライバのインストール	4-11
4.4 i モード対応携帯電話の設定手順	4-14
5 Webサーバソフトウェアのインストール	5- 1~5-16
5.1 Windows® 98の場合	5- 1
5.2 WindowsNT® 4.0の場合	5- 4
5.3 Windows® 2000(Professional)の場合	5- 7
5.4 Windows® XP(Professional)の場合	5-11
6 GX RemoteService-Iの機能を設定する	6- 1~6-20
6.1 設定ウィザード	6- 2
6.2 メイン画面	6- 3
6.3 サーバ（パソコン）の機能を設定する	6- 5
6.3.1 セキュリティ設定	6- 5
6.3.2 電子メール設定	6- 6
6.3.3 ネットワーク設定	6- 8
6.3.4 PCタイプ選択	6-10
6.3.5 接続先指定	6-11
6.3.6 デバイス範囲設定	6-15
6.3.7 タグ設定	6-16
6.3.8 自動運転設定	6-18
6.3.9 デバイス表示形式設定	6-20
7 i モード対応携帯電話について	7- 1~7- 6
7.1 i モード対応携帯電話の設定項目一覧	7- 1
7.2 タグ表示をする	7- 2
7.3 デバイスをモニタする	7- 3
7.4 サーバ（パソコン）の回線接続設定	7- 5
8 GX RemoteService-Iをまず使ってみよう！（Web機能）	8- 1~8-18
8.1 サーバ（パソコン）にGX RemoteService-Iを設定する	8- 1
8.2 監視デバイスを変化させ電子メールが届くまで	8-12
8.3 携帯電話で電子メールを受信してからデバイスを見るまで	8-13
8.3.1 タグを見るまで	8-13
8.3.2 デバイスを見るまで	8-15
9 MELSOFT接続機能について	9- 1~9- 8
9.1 MELSOFT接続機能の使い方について	9- 1
9.1.1 サーバがパソコン／パソコンCPUユニットの場合	9- 1
9.1.2 サーバがWebサーバユニットの場合	9- 4
9.2 MELSOFT接続機能の使用例	9- 5

10	トラブルシューティング	10- 1～10- 4
----	-------------	-------------

付 録	付- 1～付- 3
-----	-----------

付1 制約事項	付- 1
---------	------

索 引	索引- 1～索引- 2
-----	-------------

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
Webサーバユニットユーザーズマニュアル（詳細編） Webサーバユニットのシステム構成、仕様、機能、専用命令、トラブルシューティングについて説明したものです。 (別売)	SH-080319 (13JT98)	¥3000
GX Developer Version 8 オペレーティングマニュアル GX Developerでのプログラム作成方法、プリントアウト方法、モニタ方法、デバック方法などの機能について説明したものです。 (別売)	SH-080356 (13JV69)	¥4000
GX Explorer Version 2 オペレーティングマニュアル GX Explorerのシステム構成、機能、操作について説明したものです。 (別売)	SH-080440 (13JV80)	¥3000

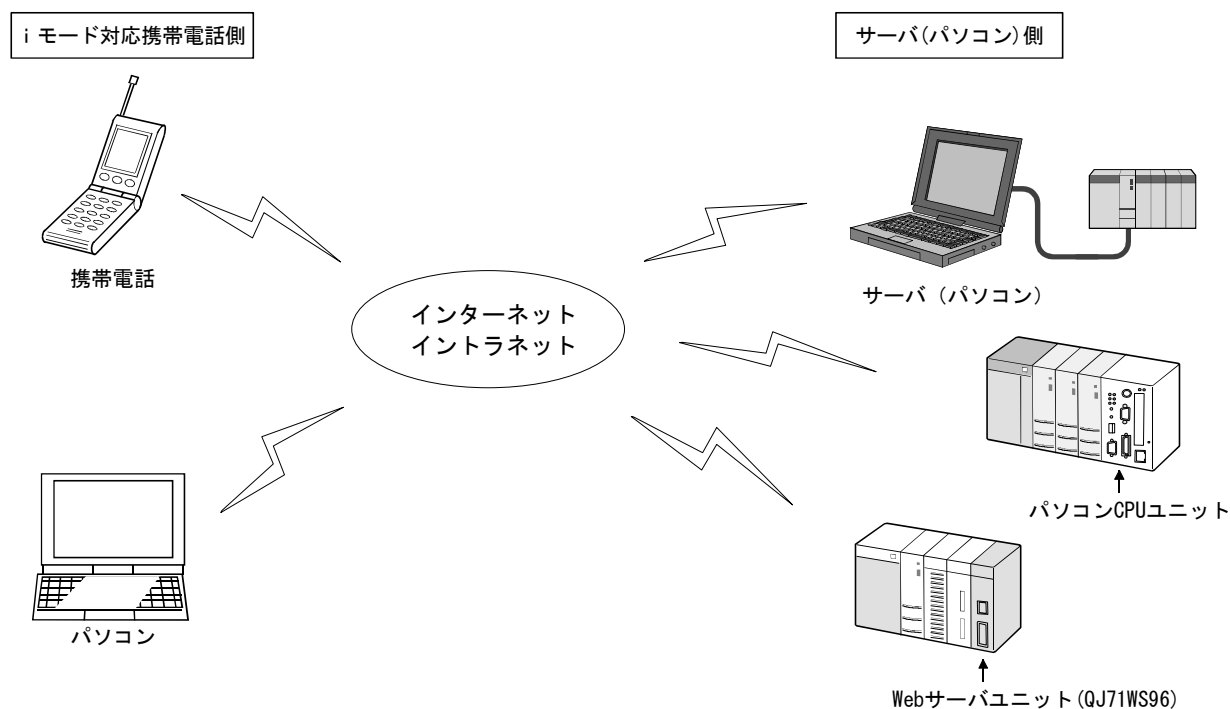
備考：オペレーティングマニュアルは、ソフトウェアパッケージのCD-ROM にPDF ファイルで格納されています。
単品でマニュアルを希望される場合は、印刷物を別売で用意していますので上記表のマニュアル番号（形名コード）にてご用命願います。

マニュアルの見方

「マニュアルの見方」はGX RemoteService-Iを使用する際の目的別に記載しています。以下の内容を参考に本マニュアルをご使用ください。

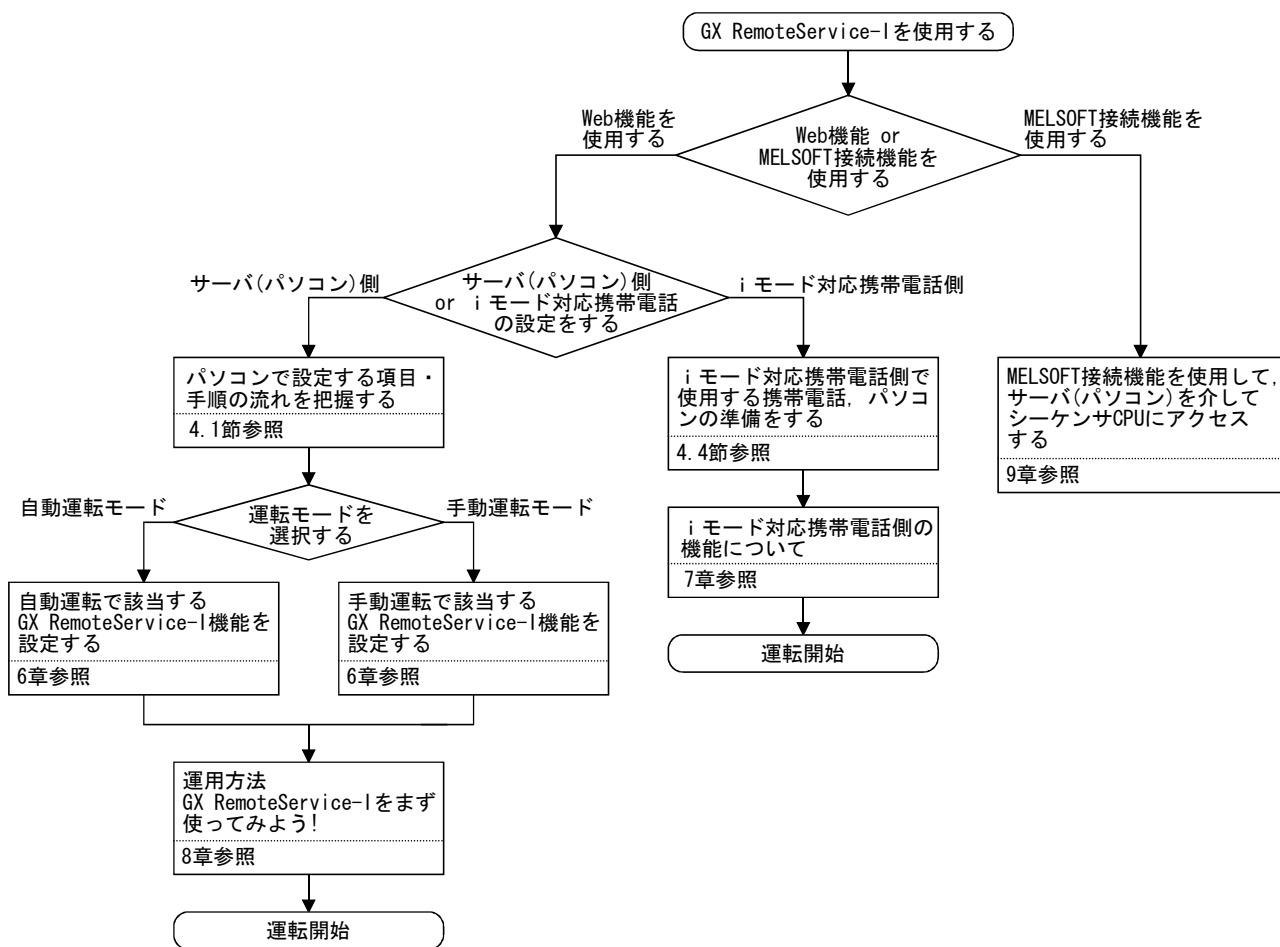
本システムは、iモード対応携帯電話側とサーバ（パソコン）側に分かります。

下記フローチャートで目的、設定の流れを確認しながら実際の設定を行うと、スムーズにシステムを導入することができます。



サーバ（パソコン）の設定は、自動運転モードまたは手動運転モードを設定してください。

iモード対応携帯電話側の設定は必須となります。



- (1) 特長・自動運転, 手動運転を知りたいとき (1.1節~1.2節)
 - 1.1節に特長を記載しています。
 - 1.2節に自動運転, 手動運転について記載しています。
- (2) GX RemoteService-Iの動作環境について知りたいとき (2.3節)
 - サーバ (パソコン) で使用するパソコンの仕様について記載しています。
- (3) サーバ (パソコン), 携帯電話の初期設定について知りたいとき (4.1節~4.2節)
 - サーバ (パソコン) で使用するパソコン, i モード対応携帯電話で使用する携帯電話, パソコンの設定手順について記載しています。
- (4) サーバで設定する機能について知りたいとき (6章)
 - 設定する機能の詳細説明について記載しています。
 - 使用すると簡単に便利なウィザードの説明も記載しています。
- (5) i モード対応携帯電話の機能について知りたいとき (7.1節~7.4節)
 - i モード対応携帯電話からデバイス, コメントをモニタする手順について記載しています。
- (6) GX RemoteService-Iを動かしたいとき (8章)
 - サーバ (パソコン) の設定, 電子メール送信, i モード対応携帯電話からサーバ (パソコン) にアクセスするまでの手順を説明しています。
- (7) MELSOFT接続機能について知りたいとき (9章)
 - MELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージ*1をインストールしているクライアント (パソコン) から, サーバ (パソコン) を介してシーケンサCPUにリモートアクセスする流れと使用例について記載しています。
 - *1: MELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージは, GX Explorer Version 2 です。
- (8) トラブルが発生した場合, 処置について知りたいとき (10章)
 - 回避できるようにトラブルシューティングについて記載しています。
- (9) 制約事項について知りたいとき (付録)
 - GX RemoteService-Iを使用する場合の制約事項について記載しています。

総称・略称について

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記に示す総称・略称を使ってGX RemoteService-Iについて説明します。

総称／略称		総称・略称の内容
GX RemoteService-I		製品形名SWnD5C-RAS-J, SWnD5C-RAS-JAの総称。(n=バージョンを意味する)
GX Explorer		製品形名SWnD5C-EXP-J, SWnD5C-EXP-JAの総称。(n=バージョンを意味する)
PWS		Personal Web Serverの総称・略称。
IIS		Internet Information Serverの略称。
Webサーバソフトウェア		Personal Web Server, Internet Information Server, Peer Web Serviceの総称。
Windows® 2000		Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System(日本語版)の略称。
WindowsNT® 4.0		Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0 Operating System(日本語版)の略称。
Windows® 98		Microsoft® Windows® 98 Operating System(日本語版), Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System(日本語版)の略称。
Windows® XP		Microsoft® Windows® XP Professional Operating System(日本語版)の略称。
Windows®		Microsoft® Windows® 98 Operating System(日本語版), Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System(日本語版), Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0 Operating System(日本語版), Microsoft® Windows® 2000 Operating System(日本語版), Microsoft® Windows® XP Professional Operating System(日本語版)の略称。
プロバイダ		インターネットサービスプロバイダ(ISP: Internet Service Provider)の略称。
サーバ		GX RemoteService-I Version 2がインストールしてある, パソコン・パソコンCPUユニット・Webサーバユニットの総称。
パソコンCPUユニット		株式会社コンテック製 MELSEC-Qシリーズ対応のパソコンCPUユニットの略称。
Webサーバユニット		QJ71WS96形Webサーバユニットの総称。
ACPU		A0J2H, A1S, A1FX, A1SJ, A1SH, A1SJH, A1N, A2C, A2CJ, A2N(S1), A2S, A2SH, A3Nの総称。 MELSECNETデータリンク機能付きシーケンサCPUユニット, およびQCPU(Aモード), モーションコントローラ(SCPU)も含む。
AnACPU		A2A, A2A-S1, A3A, A2AP21/R21, A2AP21/R21-S1, A3AP21/R21の総称。
AnUCPU		A2U, A2U-S1, A3U, A4U, A2US, A2US-S1, A2USH-S1の総称。
QCPU(Aモード)		Q02(H)-A, Q06H-Aの総称。
QnACPU		Q2A, Q2AS(H), Q2AS1, Q2AS(H)S1, Q3A, Q4A, Q4ARの総称。
QCPU(Qモード)		Q00J, Q00, Q01, Q02(H), Q06H, Q12H, Q12PH, Q25H, Q25PHの総称。
FXCPU		FX0, FX0s, FX0N, FX1, FX2, FX2c, FX1s, FX1N, FX1NC, FX2N, FX2NCの総称。
計算機リンク ユニット	Aシリーズ用	A1SJ71C24-R2, A1SJ71C24-R4, A1SJ71C24-PRF, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, A1SCPUC24-R2, AJ71C24-S6, AJ71C24-S8の総称。
	AnU用	AJ71UC24, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-R4, A1SJ71UC24-PRFの総称。
シリアルコミュニ ケーションユニット	QnAシリーズ用	AJ71QC24, AJ71QC24-R2, AJ71QC24-R4, AJ71QC24N, A1SJ71QC24, A1SJ71QC24-R2, AJ71QC24N-R2, AJ71QC24N-R4, A1SJ71QC24N, A1SJ71QC24N-R2の総称。
	Qシリーズ用	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4の総称。
C24		計算機リンクユニット, シリアルコミュニケーションユニットの総称。
QE71		AJ71QE71, AJ71QE71-B2, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B5
E71		AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2-S3, A1SJ71E71-B5-S3, A1SJ71E71-B2, A1SJ71E71-B5の 総称。
Qシリーズ対応E71		QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-100の総称。
G4ユニット		AJ65BT-G4(-S3)形周辺機器接続ユニットの略称。

総称／略称	総称・略称の内容
MELSECNET/10ボード	A70BD-J71QLP23/A70BD-J71QLP23G/A70BD-J71QLR23/A98BD-J71QLP23/A70BD-J71QBR13/A98BD-J71QBR13形MELSECNET/10インタフェースボードの総称。
MELSECNET/Hボード	Q80BD-J71BR11, Q80BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21Gインタフェースボードの総称。
MELSECNET(Ⅱ)ボード	A70BD-AP23/A98BD-J71AP23形MELSECNET(Ⅱ)インタフェースボードの総称。
Ethernetボード	Ethernet PCカード, Ethernetインタフェースボードの総称。
CC-Linkボード	A80BD-J61BT11形CC-Linkインターネットボードの略称。 A80BD-J61BT13形CC-Linkインタフェースボードの略称。
CPUボード	A80BD-A2USH-S1形シーケンサCPUボードの略称。
AFボード	A70BD-AF形Aバスインタフェースボードの略称。

製品構成

GX RemoteService-Iの製品構成を次に示します。

形 名	品 名	個 数
SW2D5C-RAS-J(V)	GX RemoteService-I 製品 (1ライセンス品) (CD-ROM)	1
	ライセンス許諾書	1
	ソフトウェア使用契約書	1
	MELSOFTシリーズソフトウェアパッケージインストール方法について	1
	ソフトウェア登録のご案内	1
SW2D5C-RAS-J(V)A	GX RemoteService-I 製品 (複数ライセンス品) (CD-ROM)	1
	ライセンス許諾書	n ^{*1}
	ソフトウェア使用契約書	1
	MELSOFTシリーズソフトウェアパッケージインストール方法について	1
	ソフトウェア登録のご案内	1

*1：ライセンス数分の枚数が同梱されます。

[illegible]

1. 概要

本マニュアルは、MELSECシーケンサ用リモートアクセスツールGX RemoteService-Iのシステム構成、機能、設定方法、操作方法について説明しています。

1.1 特長

GX RemoteService-Iは、サーバにインストールし、現場のシーケンサCPUと離れた場所にあるクライアント（パソコンまたは携帯電話）を、インターネット（またはイントラネット）を経由して接続するためのソフトウェアパッケージです。

GX RemoteService-IにはWeb機能とMELSOFT接続機能があり、シーケンサCPUのリモートメンテナンスに優れた機能を実現します。

- Web機能

シーケンサCPUのデバイス状態を電子メールで携帯電話、パソコンへ通知します。

また、携帯電話、パソコンのWebブラウザからシーケンサCPUのデバイス状態やコメントを確認することができます。

- MELSOFT接続機能

クライアント（パソコン）のソフトウェアパッケージ*¹からインターネット（またはイントラネット）経由でシーケンサCPUと接続します。

クライアント（パソコン）と離れた場所にあるシーケンサCPUに対しても、ソフトウェアパッケージの機能を使ったメンテナンスが可能です。*²

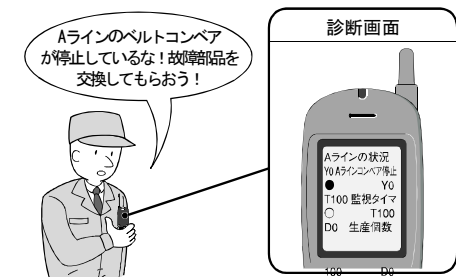
*1：MELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージは、GX Explorer Version 2です。

*2：使用できる機能についてはソフトウェアパッケージのオペレーティングマニュアルで確認ください。

・ Web機能



ボタン1つでシーケンサのデバイス
値やコメント/タグを表示



・ MELSOFT接続機能

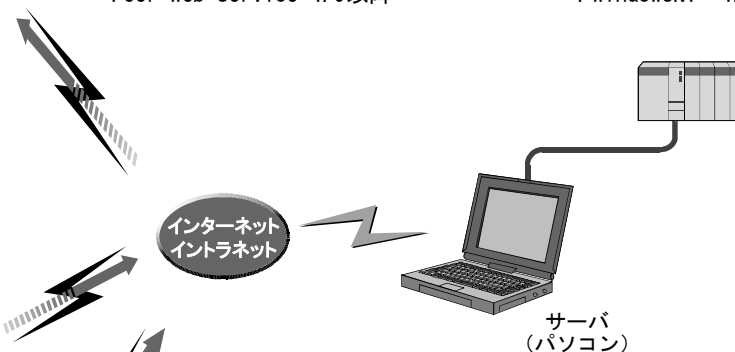


▶ サーバ(パソコン)にインストールが必要なアプリケーション

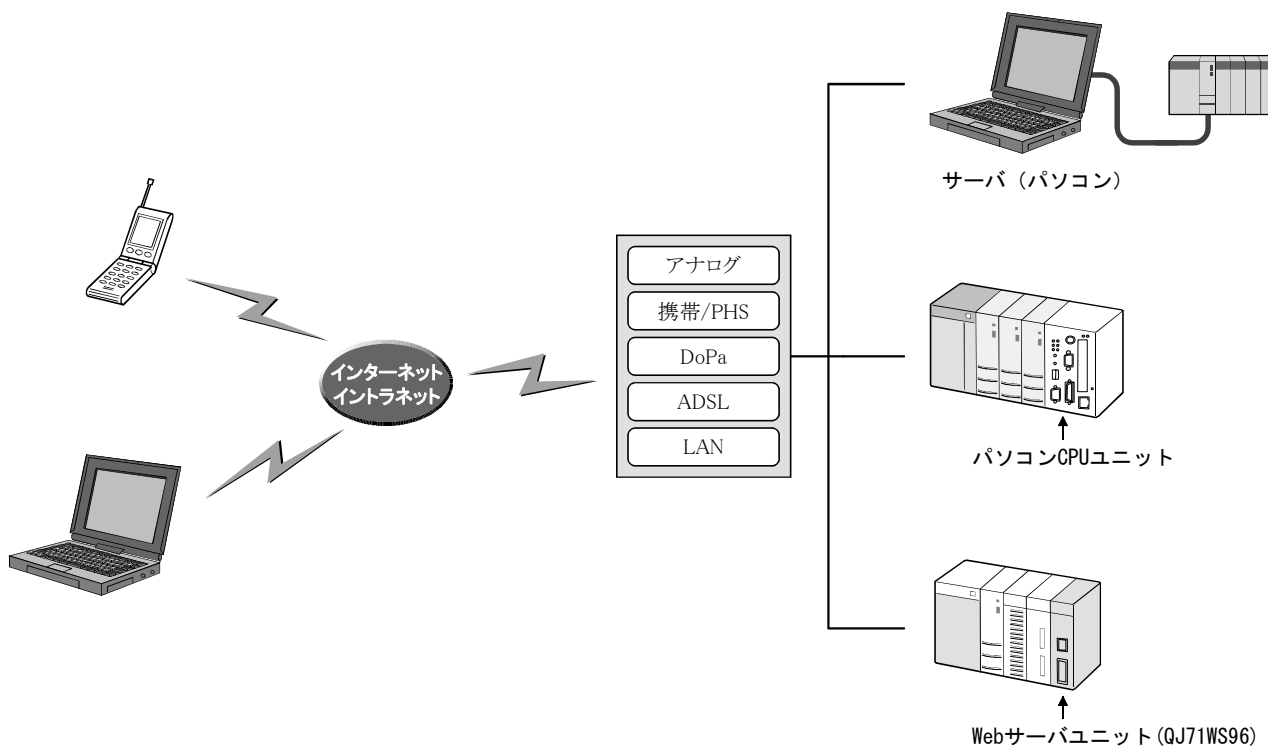
- ・ GX RemoteService-I Version 2(本製品)
- ・ Webブラウザ(Microsoft®より提供)
Internet Explorer 6.0以降

▶ Web機能を使用するためにサーバ(パソコン)にインストールが 必要なアプリケーション

- ・ Webサーバソフトウェア(Microsoft®より提供)
Personal Web Server 4.0以降(PWS) : Windows® 98用
Internet Information Server 5.0以降(IIS) : Windows® 2000/XP用
Peer Web Service 4.0以降 : WindowsNT® 4.0用



- (1) **インターネット・イントラネット経由でシーケンサCPUの監視・診断が可能**
iモード対応携帯電話、パソコンによりシーケンサCPUの状態を知ることができ、特にiモード対応携帯電話は、場所や時間を気にすることなく使用できるため、シーケンサCPUの診断が容易に行えます。また、トリガ条件を設定すると、メールを自動または手動で送信することができます。
- (2) **既存のシステムを変更することなく本システムの導入が可能**
本製品を使用するにあたって、専用の特殊ユニットが必要ありません。また、I/O点数を必要としないため、パラメータの変更が不要です。
- (3) **幅広い動作環境（インターネット・イントラネットに対応）**
サーバ側の実行環境が、Windowsパソコン・パソコンCPUユニット・Webサーバユニットに対応しています。また、ネットワークは、インターネット・イントラネットに対応しています。接続方法もアナログ・携帯/PHS・DoPa・ADSL・LANに対応しているため、ユーザに最適なシステムの構築・既存システムへの導入を容易にします。



インターネットへ接続する場合は、事前にインターネットサービスプロバイダとの契約が必要になります。

サーバ側にGX RemoteService-Iをインストールすることで、MELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージ*1をインストールしたパソコン（クライアント）からインターネット・イントラネット経由でシーケンサCPUへのリモートアクセスを行うことができます。

*1: MELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージは、GX Explorer Version 2です。



クライアントとサーバ接続時、ユーザ名とパスワードの認証機能によって、サーバへの不正アクセスを防止します。

1.2 自動運転・手動運転について

GX RemoteService-Iは、自動運転モード/手動運転モードを選択することができます。

下記に自動運転モード/手動運転モードの特長について説明しますので、システム構築時の参考にしてください。

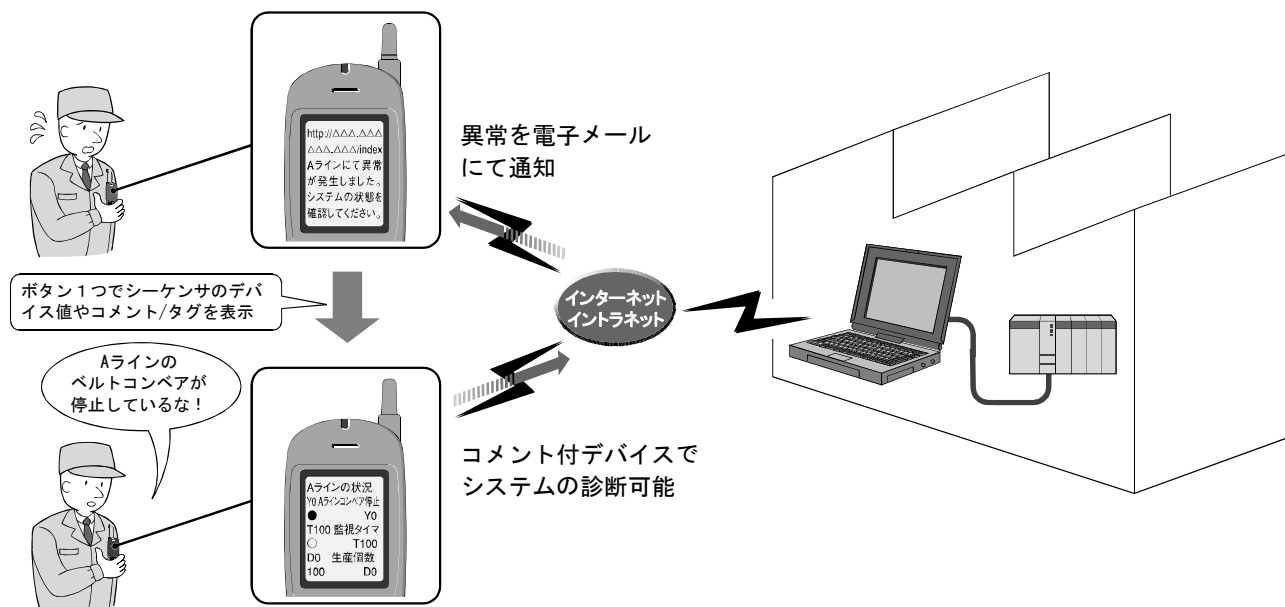
(1) シーケンサCPUにサーバ(パソコン)を常時接続し監視する場合(自動運転モード)

GX RemoteService-IがシーケンサCPUのデバイスを常時監視します。

システムに異常が発生した場合、GX RemoteService-Iがiモード対応携帯電話に電子メールで異常を知らせます。

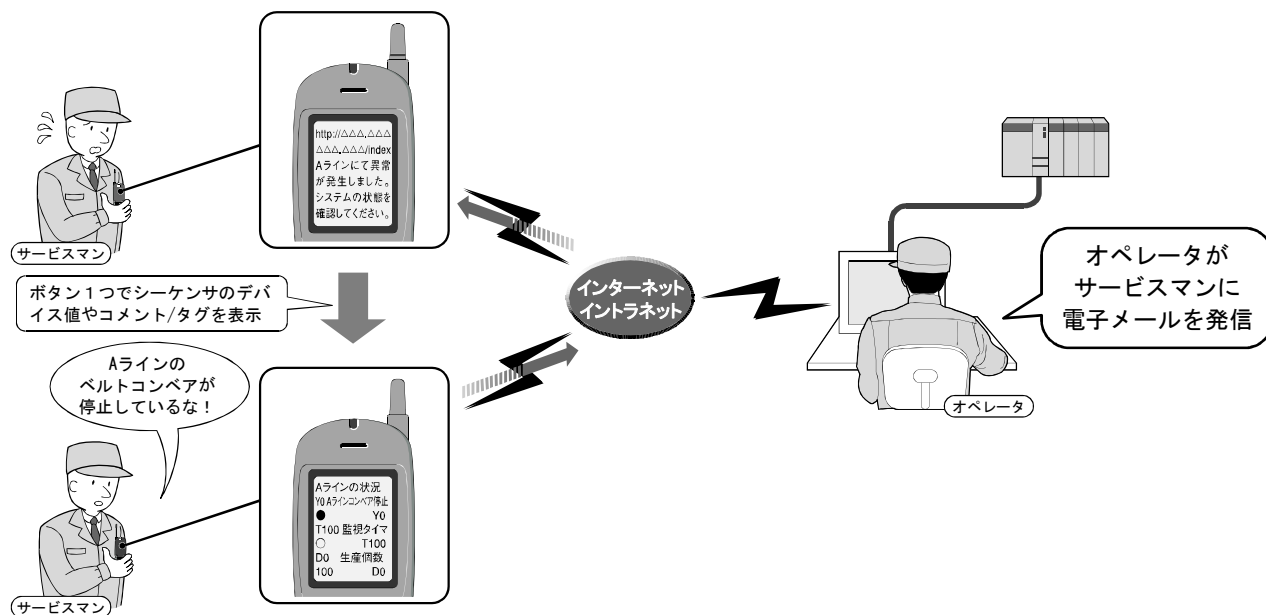
(システムの異常を通知する電子メール送信のトリガ条件は、サーバ(パソコン)に設定します。)

そのため、異常が発生してから短時間でサービスマンにエラー内容を通知できます。



- (2) オペレータが異常を判断し、サービスマンに連絡する場合（手動運転モード）
システムに異常が発生した場合、保全者（オペレータ）の判断でサービスマンへ異常状態を通知できます。

サービスマンがシーケンサCPUを遠隔地より診断することにより、より詳しい診断が可能になります。



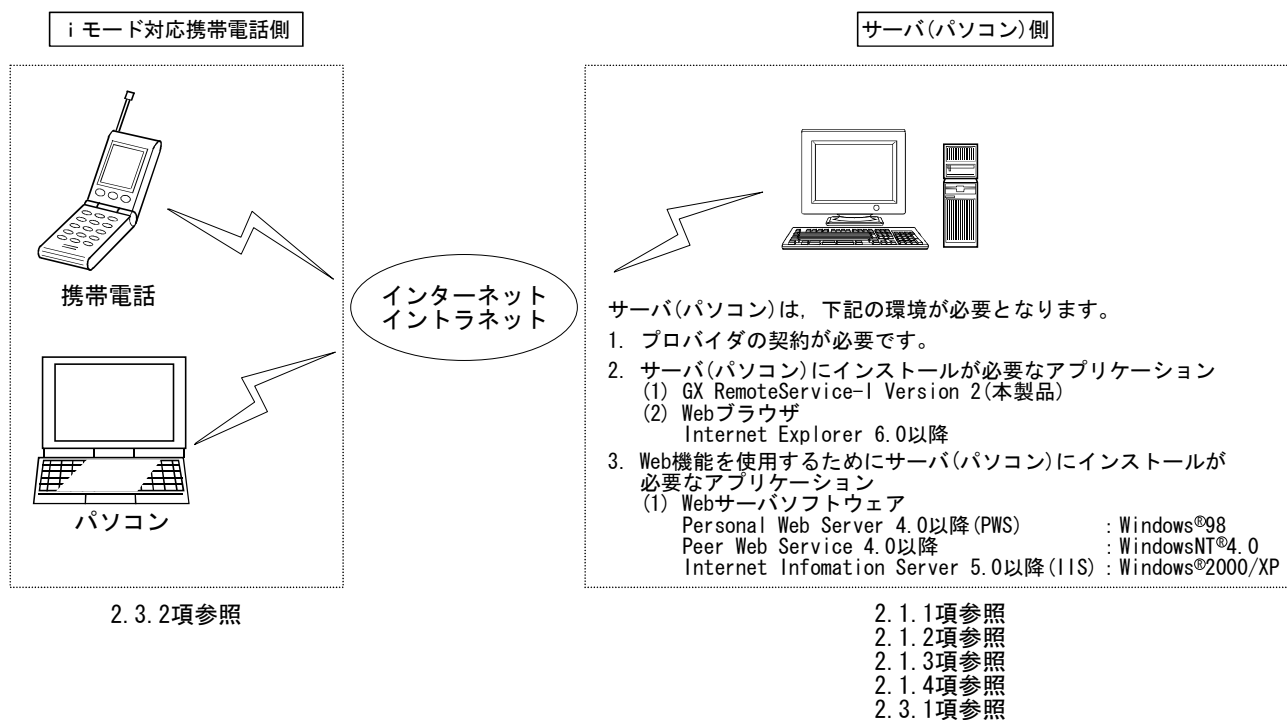
2. システム構成

2.1 サーバ（パソコン）側の構成機器一覧

GX RemoteService-Iを使用するシステム構成について説明します。

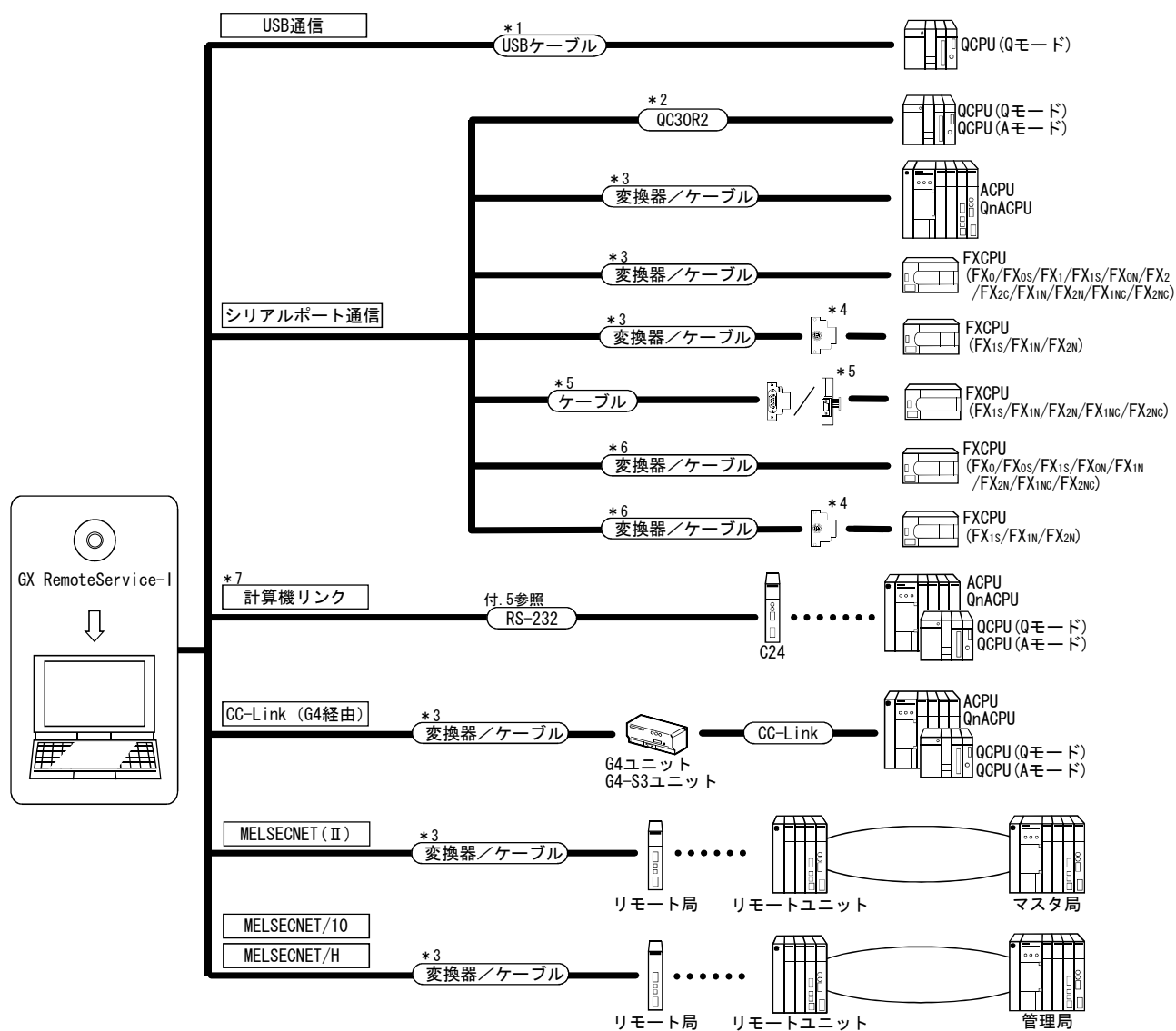
サーバ（パソコン）側の構成機器一覧は、2.1.1項、2.1.2項、2.1.3項、2.1.4項を参照してください。

iモード対応携帯電話側の構成機器一覧は、2.3.2項を参照してください。



2.1.1 シリアル/USBポートからの接続

パソコンのシリアル/USBポートから接続可能なシステム構成を下記に示します。



*1: USBケーブルについて (QCPU (Qモード) 対応)

- (1) Windows® 98, Windows® 2000 ProfessionalおよびWindows® XP Professionalを使用時, USBのドライバがインストールされている場合に使用できます。
- (2) WindowsNT® 4.0の場合は, 使用できません。
- (3) USBケーブル使用時は, 1台のシーケンサCPUのみ接続できます。
- (4) 弊社で動作確認したUSBケーブルを下記に示します。

形 名	メーカ名
USB2-30	エレコム株式会社
AU230	株式会社バッファローコヨサブライ

- (5) USBケーブルを使用して交信を行う場合の注意事項・制約事項を下記に示します。
 - ① サーバ (パソコン) のレジューム機能・サスペンド設定・省電力機能・スタンバイモードを設定してシーケンサCPUと交信すると交信エラーが発生することがあります。
そのためシーケンサCPUと交信する場合は, 本機能の設定を行わないでください。
 - ② シーケンサCPUと交信中にUSBケーブルの脱着, シーケンサCPUのリセット, 電源のOFF/ONを頻繁に行うと交信エラーが発生し復旧しない場合があります。
そのため, USBケーブルの脱着やシーケンサCPUのリセット, 電源ON/OFFを行う場合は, 極力GX RemoteService-Iを終了させて行ってください。
もし, 交信エラーが復旧しない場合は, USBケーブルを一度完全に抜いて5秒以上経過後に再度装着してください。(本操作後も初回交信時にエラーとなる場合がありますが, 2回目以降は正常に機能します。)
 - ③ サーバ (パソコン) の機種, USBケーブルなどの組み合わせによっては, 通信エラーが発生する場合があります。その場合は, メッセージを参考に再度操作してください。

*2: 変換器/ケーブルについて (QCPU (Qモード), QCPU (Aモード) 対応)


115.2/57.6kbpsで通信する場合

使用するサーバ (パソコン) が, 115.2/57.6kbpsの通信速度に対応していないと高速通信できません。

通信エラーが発生した場合は, ボーレートの設定をさげて再度通信を行ってください。


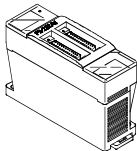






弊社で動作確認したケーブル/変換器を下記に示します。

- (1) 三菱電機製を使用する場合

RS-232ケーブル

QC30R2 (サーバ (パソコン) のコネクタがDサブ9ピン)

*3: 変換器／ケーブルについて (ACPU, QnACPU, FXCPU対応)

(1) 三菱電機製を使用する場合

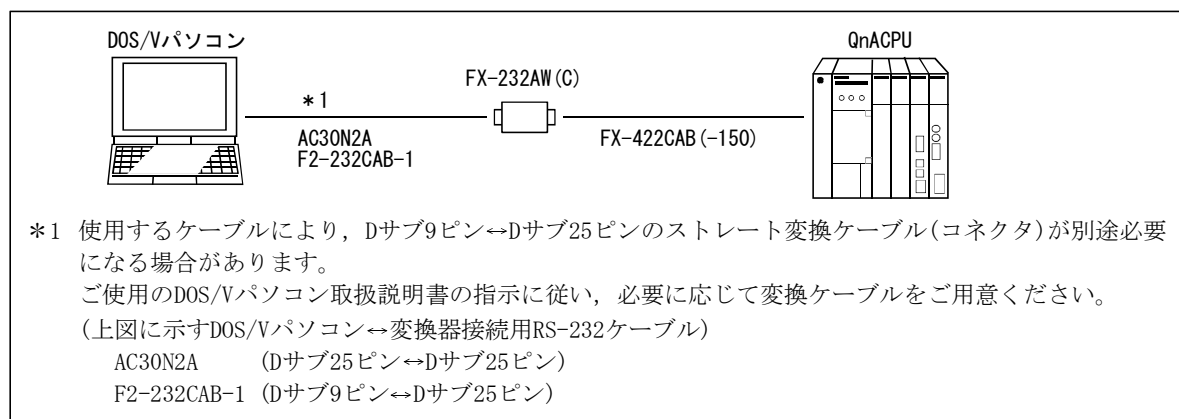
パソコン側 (RS-232ケーブル)	RS-232/RS-422 変換器	シーケンサCPU側 (RS-422ケーブル)
 F2-232CAB (DOS/Vパソコンに使用する場合は、Dサブ9ピン↔Dサブ25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)	 FX-232AW	ACPU, QnACPU, FX1/FX2CPU/FX2C CPUの場合  FX-422CAB (0.3m) FX-422CAB-150 (1.5m)
 F2-232CAB-1 (Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	 FX-232AWC	FX0/FX0S/FX0N/FX1S/FX1N/FX1Ng/FX2N/FX2NC CPUの場合  FX-422CAB0 (1.5m)
 AC30N2A (25ピン—25ピン) (DOS/Vパソコンに使用する場合は、Dサブ9ピン↔Dサブ25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)	 FX-232AWC-H (FXシリーズのみ)	

- ・ F2-232CAB, F2-232CAB-1ケーブルのACPU, QnACPU対応製品見分け方
ケーブルに付いている形名ラベルの表示方法で確認してください。

未対応品	対応品 (F/FX/A) の記述あり)
F2-232CAB Y990C*****	F2-232CAB (F/FX/A) Y990C*****
F2-232CAB-1 Y990C*****	F2-232CAB-1 (F/FX/A) Y990C*****

- ・ FXシリーズに接続する場合には、必ず上表に示す機器をご使用ください。

FX-232AW (C) によるDOS/Vパソコン⇄QnACPU間の接続例



備 考



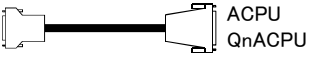

GOT-F900を介して(変換器の替わりとした使用方法)シーケンサCPUとアクセスできます。

詳細については、上記製品のマニュアル、カタログを参照してください。

(2) ダイヤトレンド製を使用する場合（紹介品）

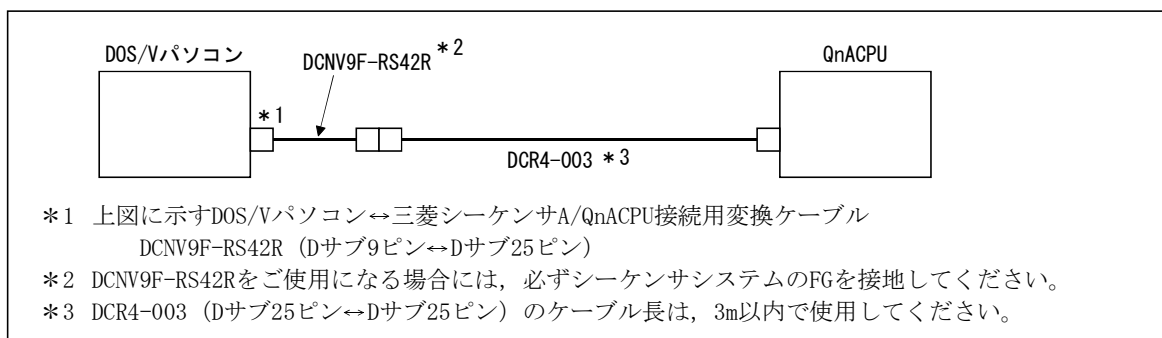
- ・ダイヤトレンド株式会社

〒554-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-2-14 TEL(06)4705-2100 FAX(06)4705-2101

RS-232C/RS-422変換ケーブル	
 DAFXIH-CAB (Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン)	
 DAFXIH-CABV (DOS/V用 Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	
 DCNV9F-RS42R (DOS/V用 Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	 DCR4-003 (RS-422ケーブル)

- ・DOS/Vパソコン（Dサブ9ピン）の場合に、DAFXIH-CABケーブルを使用する場合は、D232V-CABが必要です。
- ・QnACPUに対して38.4kbpsの通信を行う場合は、DAFXIH-CAB, DAFXI-CABV, DAFXIH-CABLをお買い求めください。

DCNV9F-RS42RによるDOS/Vパソコン⇔QnACPU間の接続例



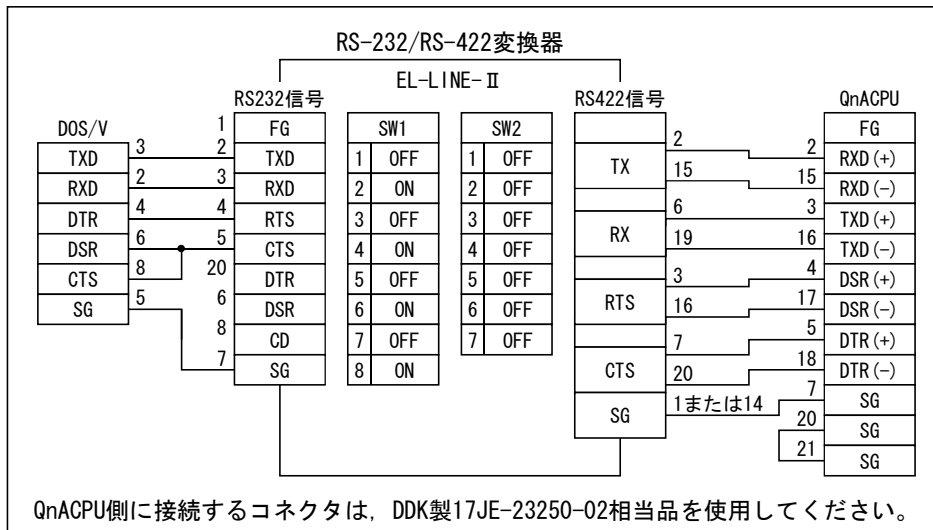
(3) 有限会社エル・エンジニアリング製を使用する場合

- ・有限会社エル・エンジニアリング

〒454-0805 愛知県名古屋市中川区舟戸町7番16号 TEL (052) 361-2290 FAX (052) 363-1050

- ・EL-LINE-II (ケーブルユーザ作成)

EL-LINE-II によるDOS/Vパソコン⇔QnACPU間の接続例



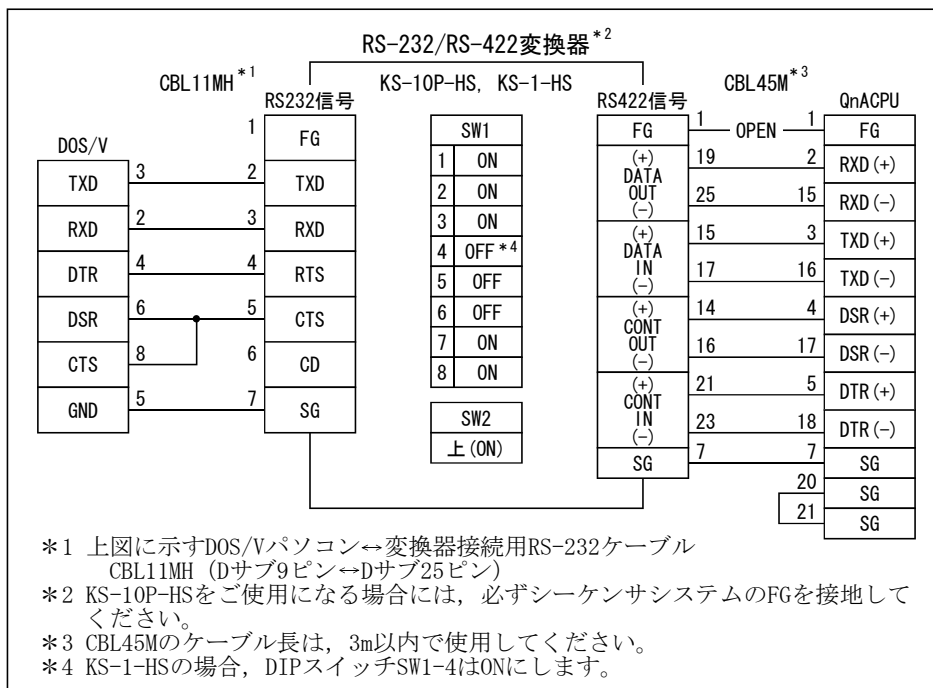
(4) 株式会社 システムサコム販売製を使用する場合

- ・株式会社 システムサコム販売

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-6-6吉野第二ビル4F TEL (03) 5623-5933 FAX (03) 3660-0891

- ・KS-10P-HS, KS-1-HS

KS-10P-HS, KS-1-HSによるDOS/Vパソコン⇔QnACPU間の接続例



* 4 : 機能拡張ボードについて

シリーズ	機能拡張ボード
FX _{2N}	FX2N-422-BD
FX _{1S} , FX _{1N}	FX1N-422-BD

ポイント

機能拡張ボードを使用する場合には、GX DeveloperのPCパラメータ設定が必要です。詳細は『GX Developer オペレーティングマニュアル』“システム構成”を参照ください。

* 5 : RS-232ケーブルと機能拡張ボード(特殊アダプタ)について

パソコンのシリアルポートの形状	シリーズ	必要になる機能拡張ボードおよび特殊アダプタ	RS-232ケーブル
Dサブ9ピン	FX _{2N}	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB-1
		FX2N-232-BD	FX-232CAB-1
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD	
	FX _{1NC} , FX _{2NC}	FX0N-232ADP	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP	FX-232CAB-1
	FX _{1S} , FX _{1N}	FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB-1
		FX1N-232-BD	FX-232CAB-1
		FX2NC-232ADP+FX1N-CNV-BD	
Dサブ25ピン	FX _{2N}	FX0N-232ADP+FX2N-CNV-BD	F2-232CAB
		FX2N-232-BD	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP+FX2N-CNV-BD	
	FX _{1NC} , FX _{2NC}	FX0N-232ADP	F2-232CAB
		FX2NC-232ADP	F2-232CAB-1
	FX _{1S} , FX _{1N}	FX0N-232ADP+FX1N-CNV-BD	F2-232CAB
		FX1N-232-BD	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP+FX1N-CNV-BD	

ポイント

機能拡張ボードを使用する場合には、GX DeveloperのPCパラメータ設定が必要です。詳細は『GX Developer オペレーティングマニュアル』“システム構成”を参照ください。

*6: 変換器／ケーブルについて (FXCPU対応)

(1) システム構成

FX-USB-AW

USBケーブル (同梱)



(2) Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalおよびWindows® XP Home Editionを使用時、付属CD-ROMのドライバがインストールされている場合に使用できます。

(3) Windows® 95, Windows NT® Workstation 4.0の場合は、使用できません。

(4) GX Developerは、[オンライン]-[接続先指定]でシリアルCOMポート番号を設定します。

(5) FX-USB-AW使用時の注意事項、制約事項については、FX-USB-AWに同梱しているマニュアルを参照してください。

*7: 計算機リンクについて

Aシリーズ使用時に計算機リンクユニットを経由する場合、V,Z (インデックス修飾) を使用しているプログラムのモニタは行えません。

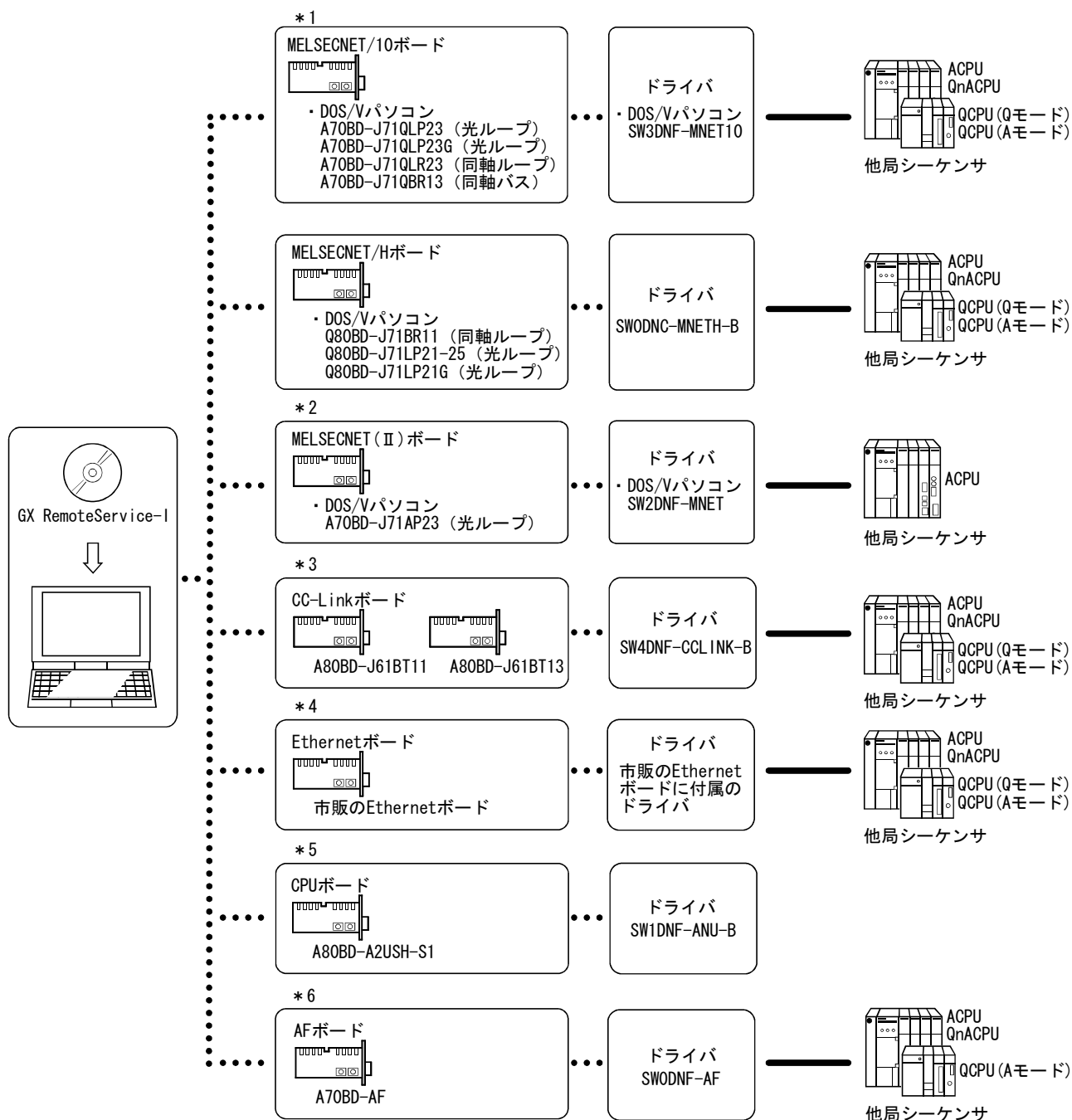
ポイント

- ・ RS-422インタフェース変換ケーブル・変換器は、仕様や注意事項などについて各製品のマニュアルをよくお読みいただき、正しいお取り扱いをしていただきますようお願いいたします。
- ・ RS-422インタフェースからDC5V電源を受電する変換ケーブル・変換器を抜き差しする場合は、シーケンサCPU側の電源をOFFしてから操作するようにしてください。
- ・ RS-422インタフェースからDC5V電源を受電しない (外部電源より受給する) 周辺機器、および変換ケーブルを抜き差しする場合も、作業前には必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて、ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電し、その後に下記操作手順にてお取り扱い願います。
 - ① パソコン側の電源をOFFする。
 - ② 変換ケーブル・変換器の電源をOFFする。FG端子がある場合は接地する。
 - ③ パソコンとシーケンサCPU間の変換ケーブル・変換器を抜き差しする。
 - ④ 変換ケーブル・変換器の電源をONする。
 - ⑤ パソコンの電源をONする。
 - ⑥ ソフトウェアパッケージを立ち上げる。

2.1.2 I/Fボードからの接続

I/Fボードのシステム構成を下記に示します。

ボードの接続方法, ドライバのインストール方法については各ボードのマニュアルを参照してください。



***1 : MELSECNET/10ボード**

基本ソフトウェアに対して使用できないドライバを示します。

ドライバ名	基本ソフトウェア
SW3DNF-MNET10	Windows® 98では使用できません。
SW3NNF-MNET10	Windows® 98/2000では使用できません。

交信エラーが発生した場合、下4桁がエラーコードとなります。

MELSECNET/10ボードのマニュアルのエラーコード一覧を参照してください。

***2 : MELSECNET (Ⅱ) ボード**

- (1) QCPU (Aモード), AnUCPUへのアクセスについて

MELSECNET (Ⅱ) ボードを選択してQCPU (Aモード), AnUCPUをアクセスする場合は、AnACPUのデバイス範囲で読み出すことができます。

- (2) 交信エラーが発生した場合、下4桁がエラーコードとなります。

MELSECNET (Ⅱ) ボードのマニュアルのエラーコード一覧を参照してください。

***3 : CC-Linkボード**

A80BD-J61BT11は、マスタ/ローカル局が設定可能です。

A80BD-J61BT13は、ローカル局設定時のみアクセス可能です。

***4 : Ethernetボード**

弊社で動作確認したEthernetボード／カードを下記に示します。

メーカー名	形 名
3COM社製	EthernetLinkⅢ LAN PC Card
アライドテレシス社製	CentreCOM LA-PCM Ethernet PC Card LAN Adapter
	RE2000 (ISA)
TDK社製	10BASE-T LANカード (型番 : LAN-CD021BX)

***5 : CPUボード**

CPUボード／通信ドライバは、必ずバージョンB以降であることを確認してからご使用ください。

***6 : AFボード**

通信ドライバは、必ずバージョンB以降であることを確認してからご使用ください。

2.1.3 使用可能なユニットの形名一覧

(1) シリアルポートから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名	ユニット形名
Qシリーズ	シーケンサCPUユニット	Q00J, Q00, Q01, Q02 (H), Q06H, Q12H, Q12PH, Q25H, Q25PH Q02 (H) -A, Q06H-A
	シリアルコミュニケーションユニット*1	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4
	MELSECNET/Hネットワーク リモートI/Oユニット	QJ72LP25, QJ72BR15
	G4-S3ユニット	AJ65BT-G4-S3
QnAシリーズ	シーケンサCPUユニット	Q2A, Q2AS (H), Q2AS1, Q2AS (H) S1, Q3A, Q4A, Q4AR
	シリアルコミュニケーション ユニット*2	AJ71QC24, AJ71QC24-R2, AJ71QC24-R4, AJ71QC24N, A1SJ71QC24, A1SJ71QC24-R2, AJ71QC24N-R2, AJ71QC24N-R4, A1SJ71QC24N, A1SJ71QC24N-R2
	MELSECNET/10ネットワーク リモートI/Oユニット	AJ72QLP25, AJ72QBR15, A1SJ72QLP25, A1SJ72QBR15
	G4ユニット	AJ65BT-G4, AJ65BT-G4-S3
Aシリーズ	シーケンサCPUユニット	A0J2H, A1S, A1FX, A1SJ, A1SH, A1SJH, A1N, A2C, A2CJ, A2N (S1) A2S, A2SH, A3N, A2A (S1), A3A, A2U (S1), A2US (S1), A2USH-S1, A3U, A4U
	計算機リンクユニット*3	AJ71UC24, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-PRF, A1SJ71C24-R2, A1SJ71C24-R4, A1SJ71C24-PRF, AJ71C24-S6, AJ71C24-S8, A1SCPUC24-R2, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, A1SJ71UC24-R4
	MELECNET (II) データリンク リモートI/Oユニット	AJ72P25, AJ72R25
	MELSECNET/Bデータリンク リモートI/Oユニット	AJ72T25B, A1SJ72T25B
	MELSECNET/10ネットワーク リモートI/Oユニット	AJ72LP25, AJ72LP25, AJ72BR15
	G4ユニット	AJ65BT-G4, AJ65BT-G4-S3
FXシリーズ	シーケンサCPUユニット	FX0 (S), FX0N, FX1, FX2 (C), FX1S, FX1N (C), FX2N (C)
モーションコント ローラ (SCPU)	シーケンサCPUユニット	A171SH, A172SH, A173UH (S1), A273UH

(2) MELSECNET (II) ボードから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名
Aシリーズ	AJ71AP21, AJ71AR21

(3) MELSECNET/10, MELSECNET/H (MELSECNET/10モード) ボードから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名
Qシリーズ	QJ71LP21, QJ71LP21G, QJ71BR11, QJ71LP21-25, QJ71LP21S-25
QnAシリーズ	AJ71QLP21, AJ71QBR11, A1SJ71QLP21, A1SJ71QBR11
Aシリーズ	AJ71LP21, AJ71BR11, A1SJ71LP21, A1SJ71BR11

(4) MELSECNET/Hボードから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名
Qシリーズ	QJ71LP21, QJ71BR11, QJ71LP21-25

(5) CC-Linkボードから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名
Qシリーズ	QJ61BT11, QJ61BT11N
QnAシリーズ	AJ61QBT11, A1SJ61QBT11
Aシリーズ	AJ61BT11, A1SJ61BT11

(6) Ethernetボードから接続可能なユニットを示します。

PCシリーズ	ユニット名
Qシリーズ	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-100, QJ71E71-B5
QnAシリーズ	AJ71QE71, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71-B5, AJ71QE71N-T, A1SJ71QE71N-T, AJ71QE71N-B5, A1SJ71QE71N-B5, AJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71N-B2, AJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N-B5T
Aシリーズ	AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2-S3, A1SJ71E71-B5-S3, A1SJ71E71-B2, A1SJ71E71-B5, AJ71E71N-B2, AJ71E71N-B5T, A1SJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-B5N, AJ71E71N-T, A1SJ71E71N-T, AJ71E71N-B5, A1SJ71E71N-B5

*1：サーバ（パソコン）からシリアルコミュニケーションユニット（Qシリーズ用）経由でシーケンサCPUにアクセスする場合、パソコンと接続できるユニットが限定されますので注意してください。
また、サーバ（パソコン）と直接接続できない場合でも、マルチドロップ接続のn台目で使用できることがあります。

形名	インタフェース	1:1接続	マルチドロップ接続	
			1台目	n台目
QJ71C24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
QJ71C24-R2	RS-232	○	×	×
	RS-232	×	×	×

※2：パソコンからシリアルコミュニケーションユニット（QnAシリーズ用）経由でシーケンサCPUにアクセスする場合、パソコンと接続できるユニットが限定されますので注意してください。

また、パソコンと直接接続できない場合でも、マルチドロップ接続のn台目で使用できることがあります。

形名	インタフェース	1:1接続	マルチドロップ接続	
			1台目	n台目
AJ71QC24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71QC24N	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71QC24-R2	RS-232	○	×	×
	RS-232	×	×	×
AJ71QC24N-R2	RS-232	○	×	×
	RS-232	×	×	×
AJ71QC24-R4	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71QC24N-R4	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○
A1SJ71QC24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
A1SJ71QC24N	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
A1SJ71QC24-R2	RS-232	○	×	×
	RS-232	×	×	×
A1SJ71QC24N-R2	RS-232	○	×	×
	RS-232	×	×	×

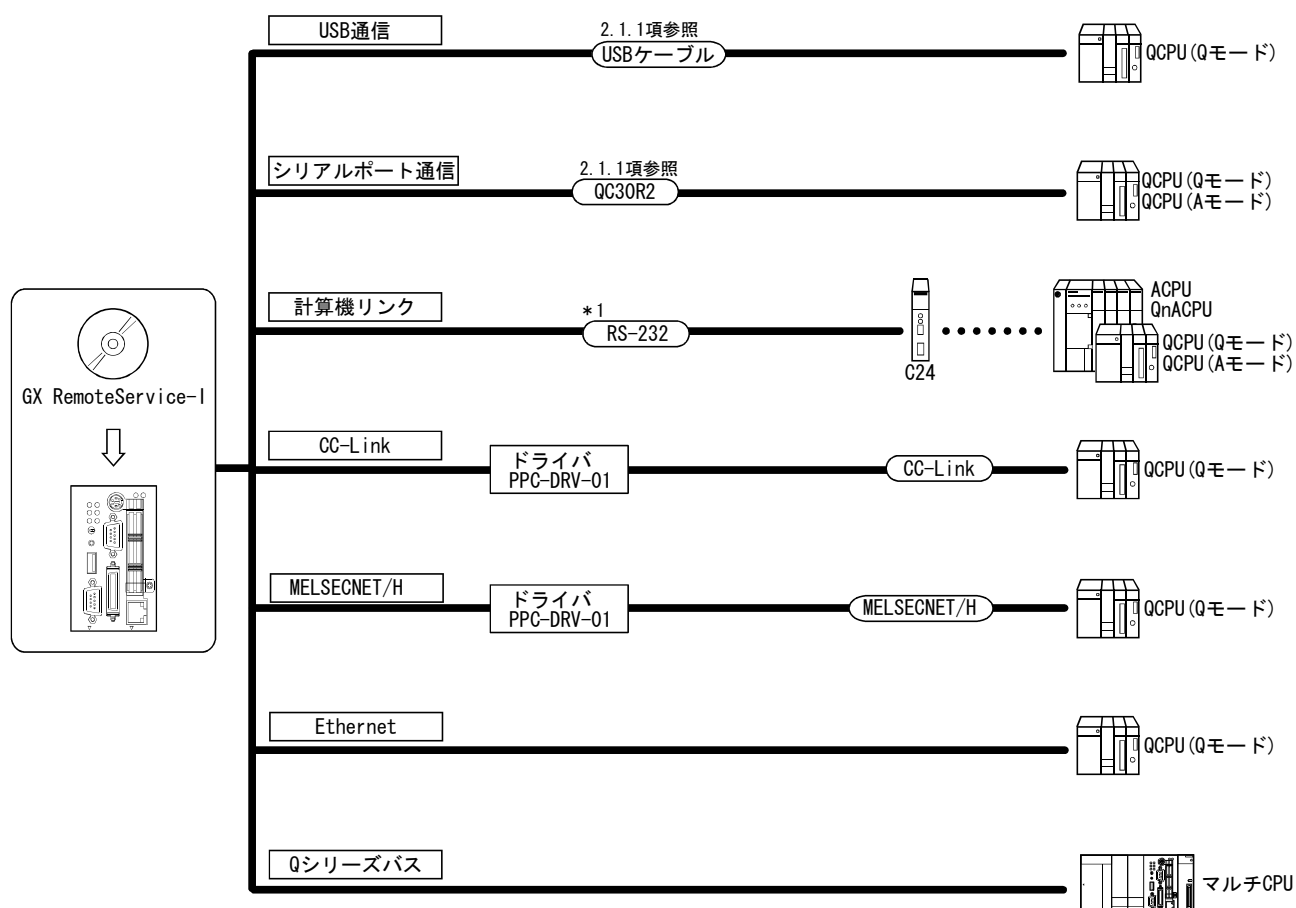
※3：パソコンから計算機リンクユニット経由でシーケンサCPUにアクセスする場合、パソコンと接続できるユニットが限定されますので注意してください。

また、パソコンと直接接続できない場合でも、1:n接続のn台目で使用できることがあります。

形名	インタフェース	1:1接続	1:n接続	
			1台目	n台目
AJ71UC24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71C24-S6	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	○
AJ71C24-S8	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	○
A1SJ71UC24-R2	RS-232	○	×	×
A1SJ71C24-R2	RS-232	○	×	×
A1SJ71UC24-PRF	RS-232	○	×	×
A1SJ71C24-PRF	RS-232	○	×	×
A1SJ71UC24-R4	RS-422/485	×	×	○
A1SJ71C24-R4	RS-422/485	×	×	○
A1SCPUC24-R2	RS-232	○	×	×
A2CCPUC24	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○
A2CCPUUC24-PRF	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○

2.1.4 パソコンCPUユニットからの接続

パソコンCPUユニットから接続可能なシステム構成を下記に示します。



ポイント

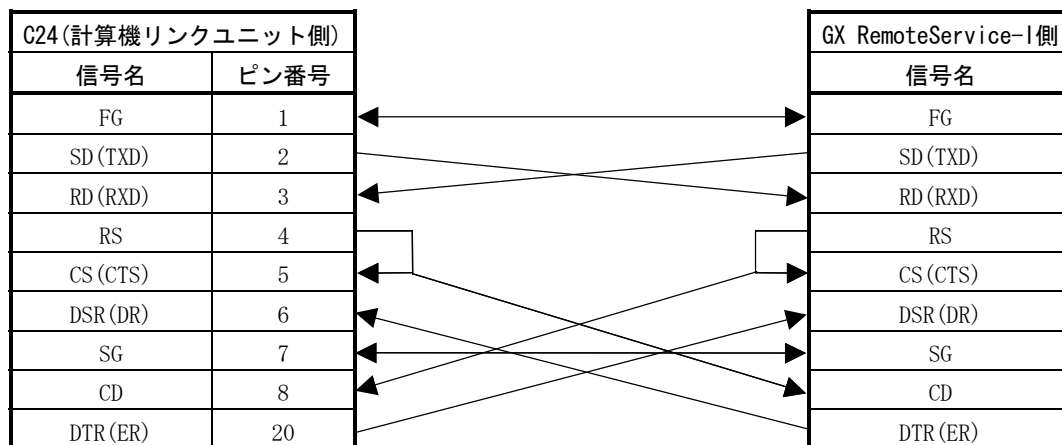
パソコンCPUユニットは、MELSOFT接続機能でのみ使用可能です。

*1 : C24とパソコンを接続するRS-232ケーブルの配線例

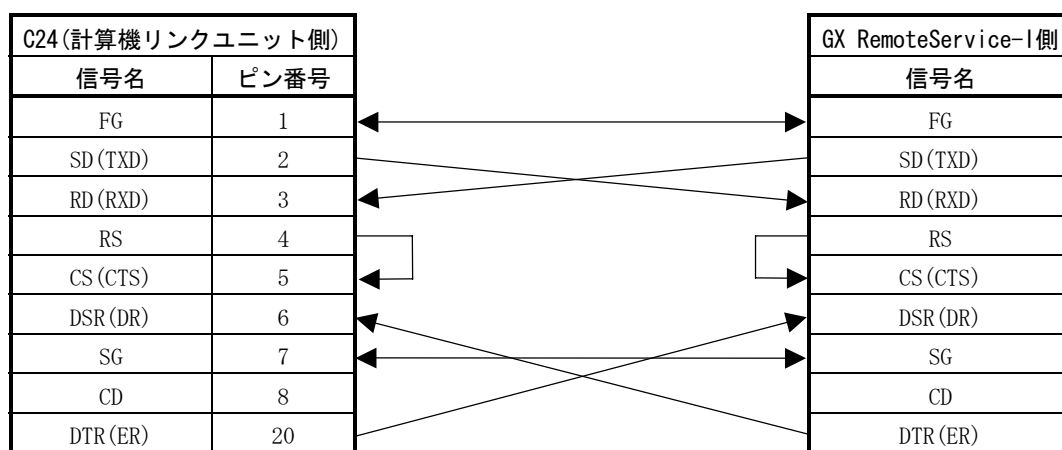
Aシリーズの場合

(1) C24(計算機リンクユニット)が25ピンコネクタの場合

(接続例1)



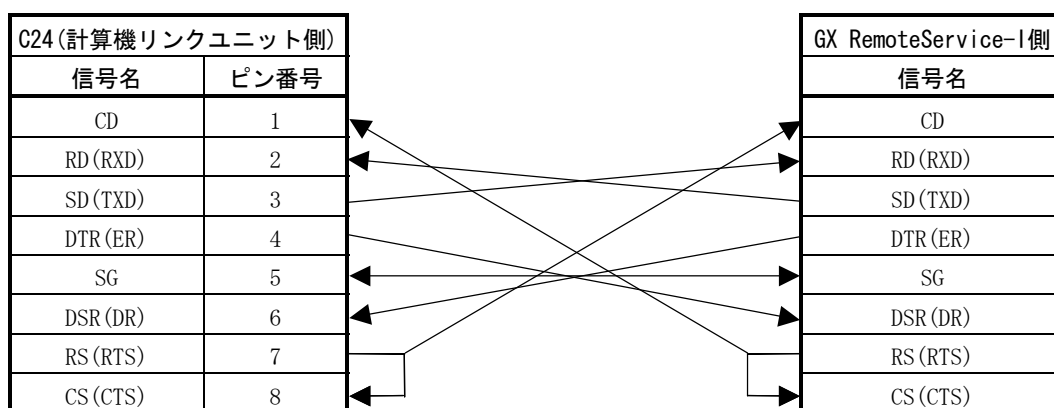
(接続例2)



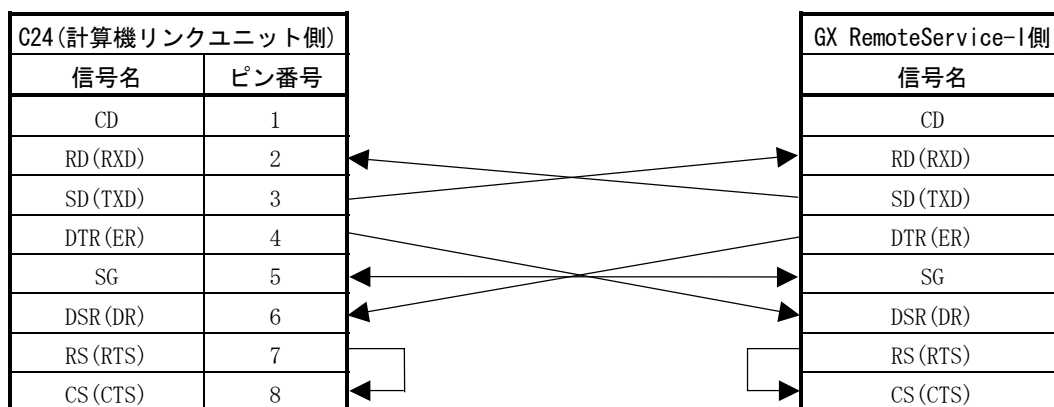
本配線接続するときは、CD信号の接続は不要です。RS-232 CD端子チェック設定（バッファメモリのアドレス10BHで設定）は、CD端子チェックなし（1を書き込む）を設定してください。

(2) C24 (計算機リンクユニット) が9ピンコネクタの場合

(接続例1)



(接続例2)

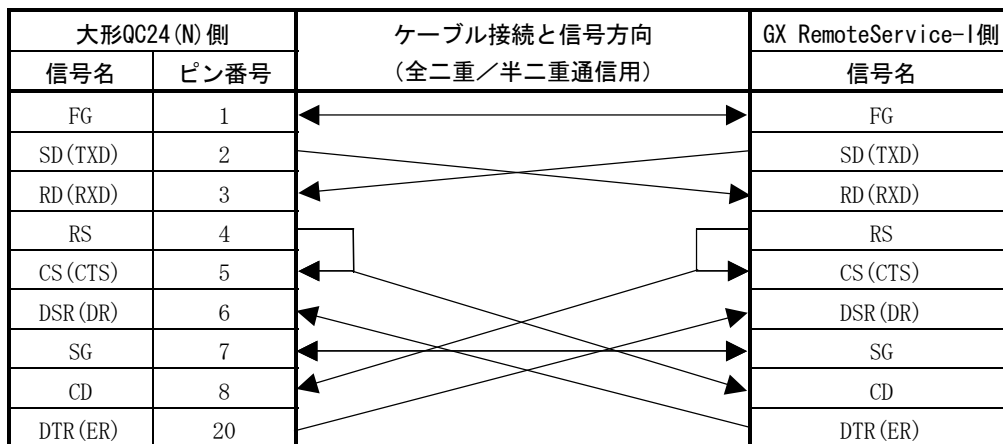


本配線接続するときは、C24 (計算機リンクユニット) のDTR信号およびDSR信号を外部機器と接続することにより、DCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

QnAシリーズの場合

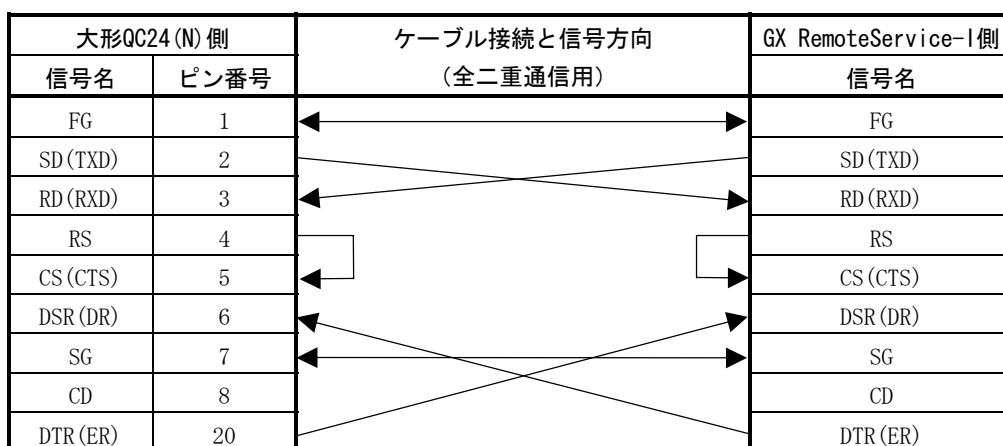
(1) QC24 (シリアルコミュニケーションユニット) が25ピンの場合

(a) CD信号 (8番ピン) をON/OFFできる接続例



本配線接続するときは、QC24 (N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

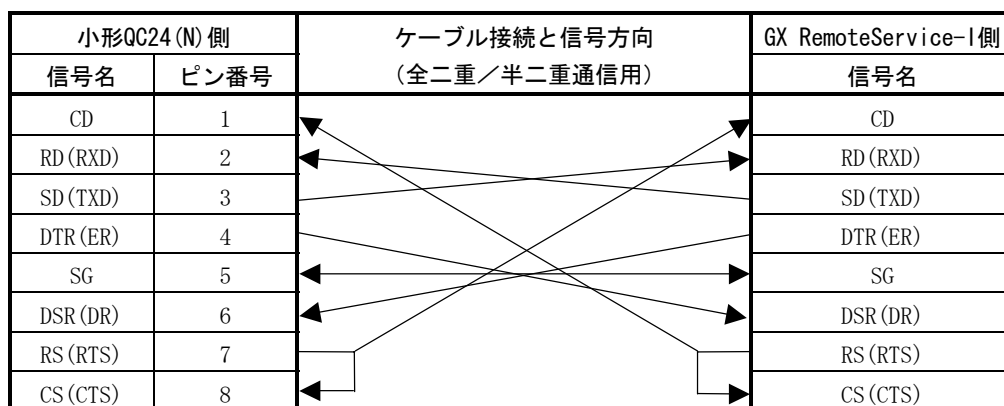
(b) CD信号 (8番ピン) をON/OFFさせない接続例



本配線接続するときは、QC24 (N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

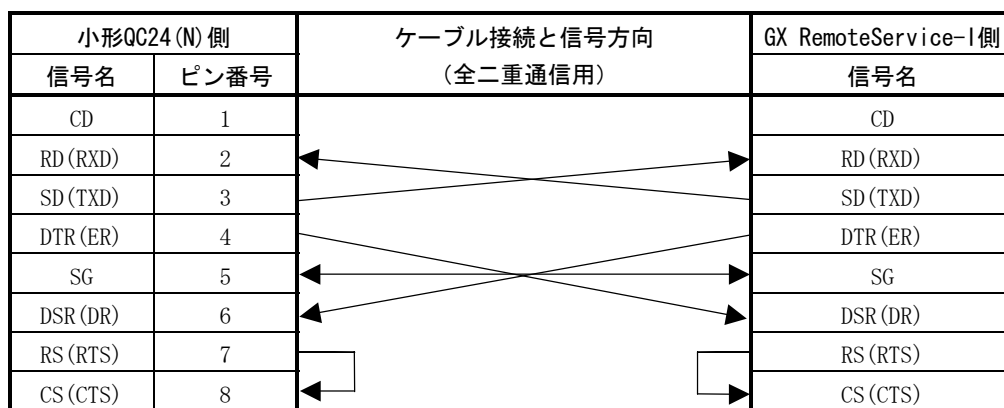
(2) 小形QC24 (N) の場合

(a) CD信号 (1番ピン) をON/OFFできる接続例



本配線接続する場合は、QC24 (N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

(b) CD信号 (1番ピン) をON/OFFさせない接続例



本配線接続するときは、QC24 (N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

Qシリーズの場合

コネクタ仕様を示します。

ピン番号	信号名	信号名称	信号方向 Q対応C24→外部機器
1	CD	受信キャリア検出	←
2	RD (RXD)	受信データ	←
3	SD (TXD)	送信データ	→
4	DTR (ER)	データターミナルレディ	→
5	SG	送信グラウンド	↔
6	DSR (DR)	データセットレディ	←
7	RS (RTS)	送信要求	→
8	CS (CTS)	送信可	←
9	RI (CI)	被呼表示	←

(1) CD信号(1番ピン)をON/OFFできる接続例

本ユニット側		ケーブル接続と信号方向 (全二重／半二重通信用接続例)	GX Developer側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1	↔	CD
RD (RXD)	2	↔	RD (RXD)
SD (TXD)	3	↔	SD (TXD)
DTR (ER)	4	↔	DTR (ER)
SG	5	↔	SG
DSR (DR)	6	↔	DSR (DR)
RS (RTS)	7	↔	RS (RTS)
CS (CTS)	8	↔	CS (CTS)
RI (CI)	9		

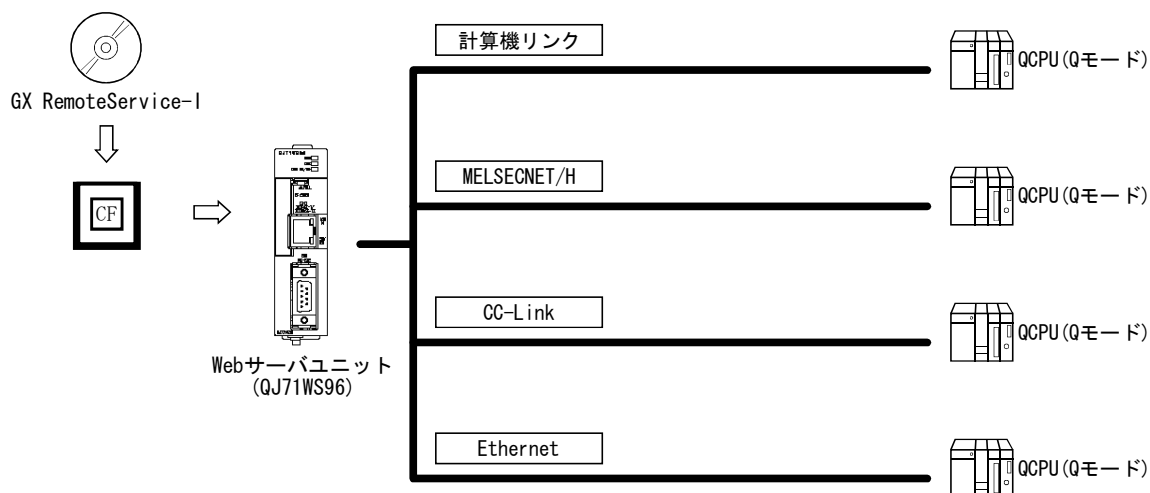
(2) CD信号(1番ピン)をON/OFFできない接続例

DCコード制御またはDTR/DSR制御を行うときの接続例

本ユニット側		ケーブル接続と信号方向 (全二重通信用接続例)	GX Developer側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD (RXD)	2	↔	RD (RXD)
SD (TXD)	3	↔	SD (TXD)
DTR (ER)	4	↔	DTR (ER)
SG	5	↔	SG
DSR (DR)	6	↔	DSR (DR)
RS (RTS)	7	↔	RS (RTS)
CS (CTS)	8	↔	CS (CTS)
RI (CI)	9		

2.1.5 Webサーバユニットからの接続

Webサーバユニットから接続可能なシステム構成を下記に示します。



ポイント

- Webサーバユニットで使用するコンパクトフラッシュカード (CompactFlash™ 仕様に準拠するTYPE Iのストレージカード) につきましては、三菱電機FA機器技術情報サービスMELFANSwebホームページで確認いただけます。
MELFANSwebホームページ : <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>
テクニカルニュース No. FA-D-0024で確認できます。
- Webサーバユニットに装着して使用するコンパクトフラッシュカードは、64MB以上のものを使用してください。
- コンパクトフラッシュカードをフォーマットする場合は、Webサーバユニットのフォーマット機能を使用してください。詳細は、Webサーバユニットユーザーズマニュアル（詳細編）を参照してください。
- コンパクトフラッシュカードにGX RemoteService-Iをインストールする場合、インストール先の選択ダイアログボックスでは、コンパクトフラッシュカードのドライブ名のみを指定してください。ドライブ名の後にフォルダ名を付加した場合、エラーとなります。
- GX RemoteService-Iをインストール済のコンパクトフラッシュカードを装着したWebサーバユニットは、起動するまでに約90秒かかります。

2.2 ネットワークへの接続形態

2.2.1 接続構成

GX RemoteService-Iを使用しているサーバとネットワークの接続形態について説明します。

接続形態	構成機器	サーバのIP アドレス 自動取得	サーバのIPアドレスの補足事項
アナログ	サーバ↔アナログモデム	可能	
	サーバ↔ブロードバンドルータ↔アナログモデム	一部可能	UPnP対応ルータのみIPアドレスの自動取得が可能です。この場合は、可変IPアドレス・固定IPアドレスともサポートします。 UPnP未対応ルータを使用する場合、固定IPアドレスのみサポートします。
	サーバ↔ダイヤルアップルータ	一部可能	
携帯/PHS	サーバ↔携帯/PHSモデム+携帯電話/PHS	可能	
DoPa	サーバ↔DoPa端末	可能	
ADSL	サーバ↔ブリッジタイプADSLモデム	可能	
	サーバ↔ブロードバンドルータ↔ブリッジタイプADSLモデム	一部可能	UPnP対応ルータのみIPアドレスの自動取得が可能です。この場合は、可変IPアドレス・固定IPアドレスともサポートします。 UPnP未対応ルータを使用する場合、固定IPアドレスのみサポートします。
	サーバ↔ルータタイプADSLモデム	一部可能	
LAN	サーバ↔LANケーブル（ツイストペア）	可能	

2.2.2 接続機器構成

(1) GX RemoteService-Iを使用しているサーバとネットワークを接続するための接続機器について説明します。

接続形態	接続機器	接続方法	備考
アナログ回線	アナログモデム <ul style="list-style-type: none"> ・ヘイズ社ATコマンド対応品 ・DR(DSR)信号のみ単独でONできるもの ・QJ71WS96のRS-232C伝送仕様に対応するもの 	ダイヤルアップ接続	RS-232Cで接続 (RS-232C規格対応品)
携帯網 PHS網	携帯モデム PHSモデム	ダイヤルアップ接続	RS-232Cで接続 (RS-232C規格対応品) PCMCIAカードで接続 USBで接続
DoPa	DoPa端末 <ul style="list-style-type: none"> ・通信方式:PDC800MHz, シングルパケット方式9600bpに対応するもの ・DR(DSR)信号のみ単独でONできるもの ・QJ71WS96のRS-232C伝送仕様に対応するもの 	ダイヤルアップ接続	RS-232Cで接続 (RS-232C規格対応品)
ADSL	ADSLモデム <ul style="list-style-type: none"> ・通信方式:PPPoA(RFC2364規格), PPPoE(RFC2516規格)に対応するもの ・通信規格 国内: G.992.1/G992.2規格対応品で, AnnexC規格に対応するもの 海外: G.992.1/G992.2規格対応品で, AnnexA規格に対応するもの (対応プロバイダは次頁参照してください) 	常時接続	LANケーブル(ツイストペア)で接続 IEEE802.3, 10BASE-T/100BASE-TX規格対応品 <ul style="list-style-type: none"> ・10Mbps時 UTPケーブル(カテゴリ5), STPケーブル(カテゴリ5) ・100Mbps時 UTPケーブル(カテゴリ3以上), STPケーブル(カテゴリ3以上)
LAN	LANケーブル(ツイストペア)	LAN接続	

(2) プロバイダとの契約について説明します。

プロバイダと契約する際は接続形態によって次の点に注意してください。

光通信対応プロバイダに対する光通信のサポート範囲は、以下の通りです。

- ① 日本国内
 - (a) 回線端末装置
NTT地域会社が提供する推奨回線終端装置のみサポートします。
- ② 海外
 - (a) プロバイダ
PPPoE (RFC2516規格) 対応のプロバイダのみサポートします。
 - (b) 回線端末装置
各対応のプロバイダの推奨回線終端装置のみサポートします。

ADSL対応プロバイダに対するADSLのサポート範囲は、以下の通りです。

- ① 日本国内
 - (a) プロバイダ
PPPoA (RFC2364規格), PPPoE (RFC2516規格) 対応のプロバイダのみサポートします。
 - (b) ADSLモデム
G. 992. 1/G. 992. 2 AnnexC規格準拠ADSLモデムのみサポートします。
(基本的に接続プロバイダ推奨品に限ります。)
- ② 海外
 - (a) プロバイダ
PPPoA (RFC2364規格), PPPoE (RFC2516規格) 対応のプロバイダのみサポートします。
 - (b) ADSLモデム
G. 992. 1/G. 992. 2 AnnexA規格準拠ADSLモデムのみサポートします。

2.3 動作環境

2.3.1 サーバ（パソコン）

サーバは、プロバイダの契約が必要になります。

(1) パソコンで使用する動作環境を下記に示します。

項 目		内 容
コンピュータ本体		Pentium® 200MHz以上（推奨）を搭載したWindows® が動作するPC/AT互換 パーソナルコンピュータ ただし、Windows® XP Professional時はPentium 300MHz以上（推奨）
必要メモリ		64MB以上 ただし、Windows® XP Professional時は128MB以上
ハードディスク空き容量	インストール時	100MB以上
	動作時	100MB以上
ディスクドライブ		CD-ROMディスクドライブ
ディスプレイ		解像度1024×768以上（XGA以上）
基本ソフトウェア*1		Web機能対応 Microsoft® Windows® 98 Microsoft® Windows® 98 Second Edition Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0*2 Microsoft® Windows® 2000 Professional*2 Microsoft® Windows® XP Professional*2
		MELSOFT接続機能対応*3 Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0*2 Microsoft® Windows® 2000 Professional*2 Microsoft® Windows® XP Professional*2
Webブラウザ		Microsoft® Internet Explorer 6.0以降

*1：Windows® Me, Windows® XP HomeEditionはWebサーバが動作しないため、本製品を使用することはできません。

*2：WindowsNT® Workstation4.0, Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalにGX RemoteService-Iをインストールする場合、administratorの権限が必要です。また、Windows® XP ProfessionalでGX RemoteService-Iを使用する場合、administratorの権限が必要です。

*3：クライアントパソコン側のMELSOFT接続機能対応ソフトウェアパッケージは、GX Explorer Version 2です。

(2) パソコンCPUユニットで使用する動作環境を下記に示します。

項 目		内 容
ユニット		PPC-CPU686 (MS)
ハードディスク空き容量	インストール時	100MB以上
	動作時	100MB以上
ディスクドライブ		CD-ROMディスクドライブ（PPC-CDD-01）
ディスプレイ		解像度1024×768以上（XGA以上）
基本ソフトウェア		Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0 Microsoft® Windows® 2000 Professional Microsoft® Windows® XP Professional
Webブラウザ		Microsoft® Internet Explorer 6.0以降

パソコンCPUユニットに関するお問い合わせ先
株式会社コンテック TEL：03-5628-9286
FAX：03-5628-9344

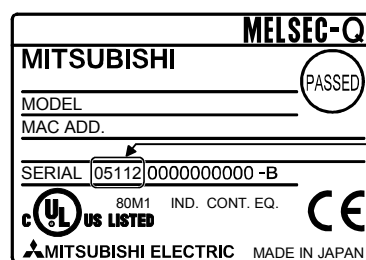
(3) Webサーバユニットで使用する動作環境を下記に示します。

項 目	内 容
ユニット	QJ71WS96
コンパクトフラッシュカード	64MB以上

コンパクトフラッシュカードにGX RemoteService-I Version 2をインストール後、Webサーバユニットに装着して使用してください。（ポイント参照）
 なお、対応Webサーバユニットは、シリアル番号の上5桁が05112以降のみ使用可能です。

下記にWebサーバユニットのシリアル番号の確認方法を示します。

(a) Webサーバユニット側面の「定格銘板のSERIAL欄」で確認する場合



シリアル番号の上5桁が
05112以降であることを確認
してください。

(b) GX Developer, GX Explorerで確認する場合

製品情報一覧画面、またはユニット詳細情報画面にて確認できます。

- ・製品情報一覧画面でシリアル番号を確認する場合
 [診断] - [システムモニタ] - **製品情報一覧**
- ・ユニット詳細情報画面でシリアル番号を確認する場合
 [診断] - [システムモニタ] - **ユニット詳細情報**

操作方法についての詳細は、各ソフトウェアパッケージのオペレーティングマニュアルを参照してください。

ポイント

- ・Webサーバユニットで使えるコンパクトフラッシュカード（CompactFlash™仕様に準拠するTYPE Iのストレージカード）につきましては、三菱電機FA機器技術情報サービスMELFANSwebホームページで確認いただけます。
 MELFANSwebホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb
 テクニカルニュース No. FA-D-0024で確認できます。
- ・コンパクトフラッシュカードをフォーマットする場合は、Webサーバユニットのフォーマット機能を使用してください。詳細は、Webサーバユニットユーザーズマニュアル（詳細編）を参照してください。
 なお、フォーマットした場合は、すべてのファイルが削除されます。
 GX RemoteService-Iのファイルのみ削除するときは、以下フォルダとファイルを削除してください。
 ¥SYSTEM(フォルダごと削除), ADDIN. KEY, STARTUP. KEY, IJE. CMD, STARTUP. CMD
- ・コンパクトフラッシュカードにGX RemoteService-Iをインストールする場合、CD-ROM内のSETUP. EXEをダブルクリックし、画面表示にしたがってインストールしてください。インストール先の選択ダイアログボックスでは、コンパクトフラッシュカードのドライブ名のみを指定してください。ドライブ名の後にフォルダ名を付加した場合、エラーとなります。
- ・GX RemoteService-Iをインストール済のコンパクトフラッシュカードを装着したWebサーバユニットは、起動するまでに約90秒かかります。

重 要

Web機能を使用するためには、Webサーバソフトウェアをインストールする必要があります。使用する基本ソフト(OS)によってインストールするWebサーバソフトウェアが異なりますので注意してください。

インストール方法は、5章を参照してください。

弊社で動作確認したWebサーバソフトウェアを下記に示します。

使用する基本ソフトウェアOS	インストールするソフトウェア
Microsoft® Windows® 98	Personal Web Server Version 4.0以降
Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0	Peer Web Service Version 4.0以降
Microsoft® Windows® 2000 Professional Microsoft® Windows® XP Professional	Internet Information Server Version 5.0以降

- ・ 上記以外のWebサーバソフトウェアは使用できません。
- ・ Windows® 98, Windows® 2000, Windows® XPは、基本ソフトウェア(OS)インストール時にセットアップします。
- ・ WindowsNT® 4.0は、Service Pack3以上とOption Packのインストール時にセットアップします。(WindowsNT® 4.0 Service Pack3以上とOption Packは、Microsoft® CorporationのホームページからダウンロードまたはCD-ROM送付サービスにて入手することができます。)
- ・ サーバソフトウェアのインストール方法などについてはWindows® のヘルプ機能を参照してください。

ポイント

- ・ フォルダとファイルのアクセス許可について
本製品は、インストール先フォルダおよびサブフォルダのファイルに変更アクセスを行う場合があります。
そのため、下記に示す基本ソフトウェアをご使用の場合は、これらのフォルダやファイルに対して、本製品を使用するユーザによるファイル変更のアクセス許可が設定されている必要があります。
ファイル変更のアクセス許可が設定されていない場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。
Microsoft® Windows® XP Professional
Microsoft® Windows® 2000 Professional
Microsoft® WindowsNT® Workstation 4.0
本製品をご使用の際は、コンピュータのすべてを制御する権限が与えられているAdministratorsグループのユーザでログオンし、ご使用になることをお奨めします。
- ・ Windows® XPの新機能について
Microsoft® Windows® XP Professionalをご使用の場合は、下記に示す新機能が使用できません。
下記に示す新機能を使用した場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。
以前のバージョンのWindows® 互換モードでのアプリケーション起動
ユーザ簡易切換え
リモートデスクトップ
大きいフォント (画面プロパティの詳細設定)

2.3.2 i モード対応携帯電話

i モード対応携帯電話で使用する機器によって必要な環境が異なります。

使用する機器	内 容
携帯電話を使用する場合	i モード対応の携帯電話（株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ製） なお，J-スカイ，EZwebに対応した携帯電話でもご使用できます。
インターネットに接続可能な パソコンを使用する場合	Webブラウザがインストールされているパソコン （Microsoft® Corporation製Internet Explorer 5.5以降品または， Netscape Communication Corporation製 Netscape Communicator 4.5 以降品）

3. 機能一覧

サーバ（パソコン）で設定する項目の一覧と i モード対応携帯電話で設定する項目の一覧を示します。

3.1 サーバ（パソコン）の機能一覧

サーバ（パソコン）で設定／操作する機能の一覧を示します。*1

機能名	内 容	設定／操作の要否		操作説明
		Web機能 使用時	MELSOFT 接続時	
動作モード	自動運転モード，手動運転のモードを設定する。	○	×	6章
自動運転開始	自動運転モード時にデバイスの常時監視を開始する。	△	×	6.2節
ダイヤルアップ実行	ダイヤルアップ接続を行い，インターネットに接続する。	○	×	
URLコピー	サーバ（パソコン）のURLをコピーする。	—	—	
電子メール送信	GX RemoteService-Iで作成した電子メールを送信する。	○	×	
製品情報	製品のバージョンなどを表示する。	—	—	
セキュリティ設定	サーバアクセス時のセキュリティに関する設定を行う。	○	△	6.3.1項
電子メール設定	電子メールに関する設定（メールサーバ，アカウント名など）を行う。 また，手動運転モード時のメッセージ作成を行う。	○	×	6.3.2項
ネットワーク設定	接続形態，MELSOFT接続用HTTPポート番号，Web機能用HTTPポート番号の設定を行う。	○	○	6.3.3項
PCタイプ選択	i モード対応携帯電話でモニタするシーケンサCPUのPCタイプを選択する。	○	×	6.3.4項
接続先指定	i モード対応携帯電話でモニタするシーケンサCPUの経路を選択する。	○	×	6.3.5項
デバイス範囲設定	i モード対応携帯電話でモニタするデバイスに関する設定を行う。	○	×	6.3.6項
タグ設定	読み出しするデバイスをタグとして扱うための設定を行う。	○	×	6.3.7項
自動運転設定	自動運転モードで常時監視するデバイスの設定を行う。	○	×	6.3.8項
デバイス表示形式設定	i モード対応携帯電話で表示される画面の表示形式を設定する。	○	×	6.3.9項

○：設定／操作が必要です。

×

△：必要に応じて設定／操作してください。

—：該当機能の使用に関係なく操作できます。

*1：Web機能，MELSOFT接続については，第8章，第9章を参照してください。

3.2 i モード対応携帯電話側の機能一覧

3.2.1 モニタ機能

i モード対応携帯電話で設定する機能の一覧を示します。

機能名		内 容	参照
タグ表示		サーバ（パソコン）側にて設定されているタグをワンショットモニタする。	7.2節
接続先指定		PCシリーズ, パソコン側I/F, PC側I/F, 他局指定の設定をする。	7.1節
デバイス表示	デバイス範囲設定	モニタするデバイスを設定する。	
	デバイスコメント検索	デバイスコメント検索を行う。	7.3節
	ワード多点10進	デバイスをワード多点10進で表示する。	
	ワード多点16進	デバイスをワード多点16進で表示する。	
	ビット多点	デバイスをビット多点で表示する。	
	コメント付き10進	デバイスをコメント付き10進で表示する。	
	コメント付き16進	デバイスをコメント付き16進で表示する。	
	コメント付き2進	デバイスをコメント付き2進で表示する。	

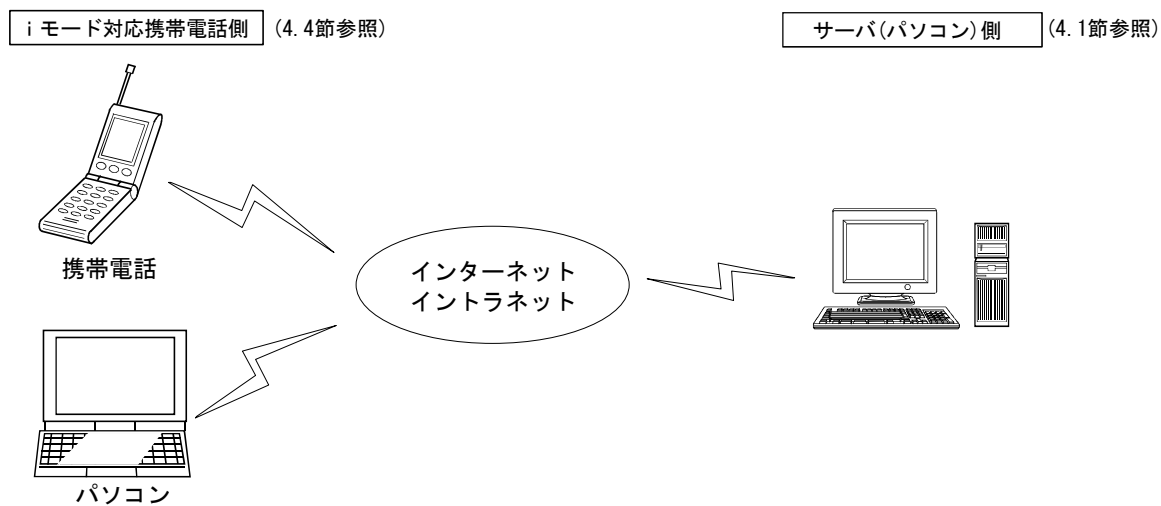
3.2.2 i モード対応携帯電話の回線設定

i モード対応携帯電話からサーバ（パソコン）の回線を切断する機能の一覧を示します。

機能名	内 容	参照
サーバ側の回線切断タイマ	サーバ（パソコン）の回線切断タイマの設定を行う。	7.4節
サーバ側のダイヤルアップ切断の実行	サーバ（パソコン）の回線切断を行う。	

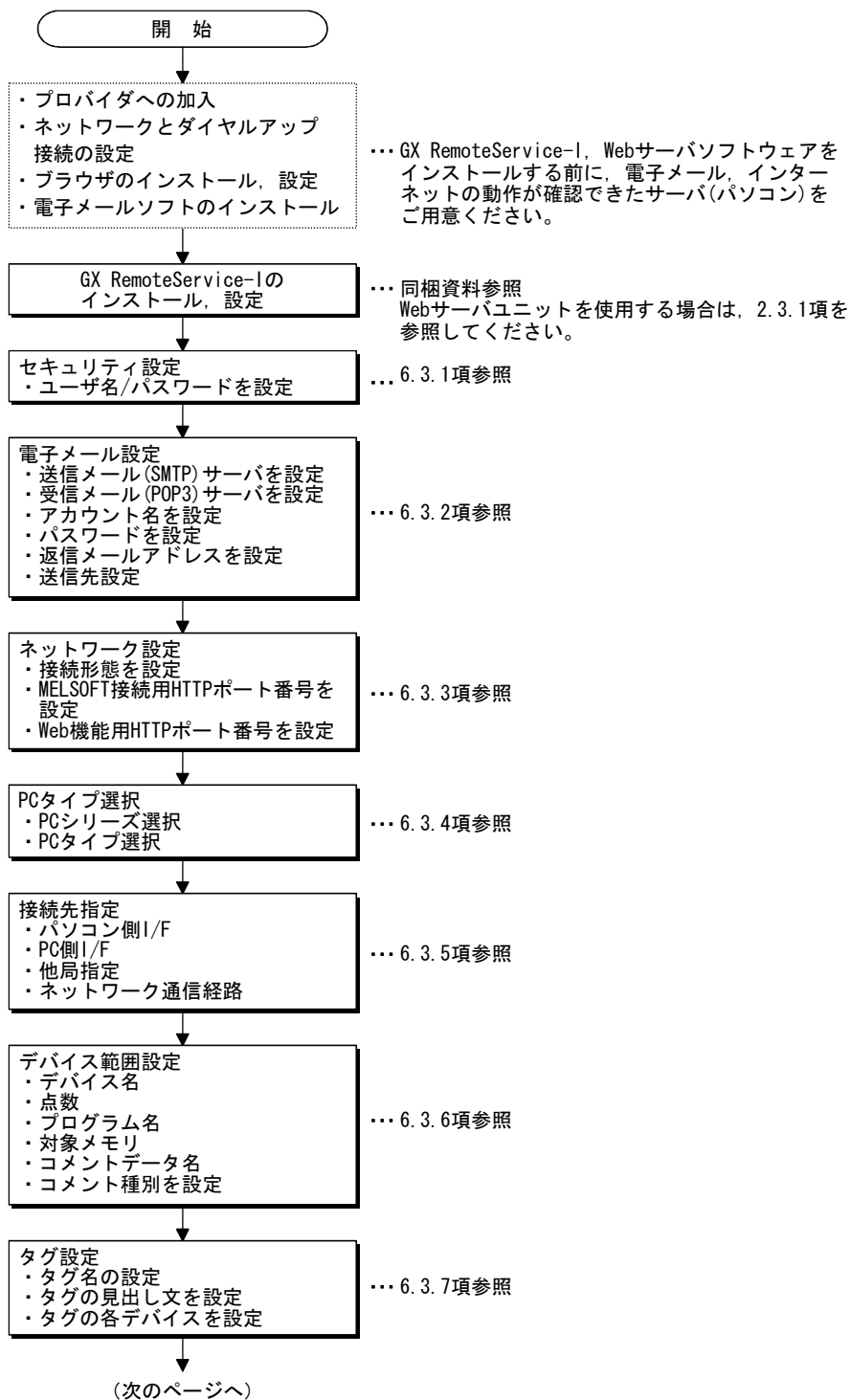
4. 運転までの設定と手順

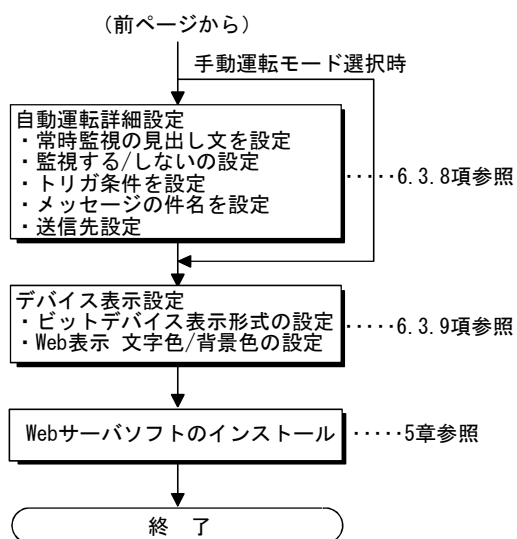
サーバ (パソコン) と i モード対応携帯電話で必要な設定項目と手順について説明します。



4.1 サーバ（パソコン）の設定手順

サーバ（パソコン）を設定する手順について説明します。





4.2 インストール, アンインストール

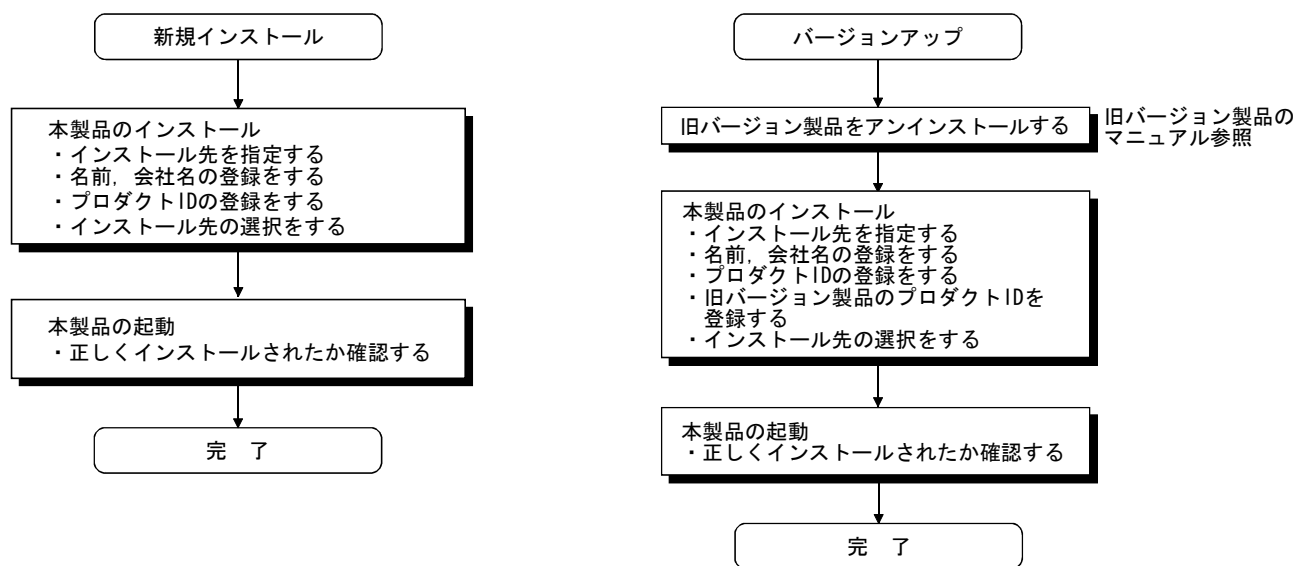
本製品のインストールとアンインストールについて説明します。

4.2.1 インストール

本製品のインストール手順と操作について説明します。

(1) インストール手順

本製品のインストールは下記の手順で行ってください。



ポイント

インストール時に各種DLLの上書き確認メッセージが表示された場合、 ボタンをクリックしてDLLの上書きを行ってください。DLLを上書きしないと、本製品が正常に実行できない場合があります。

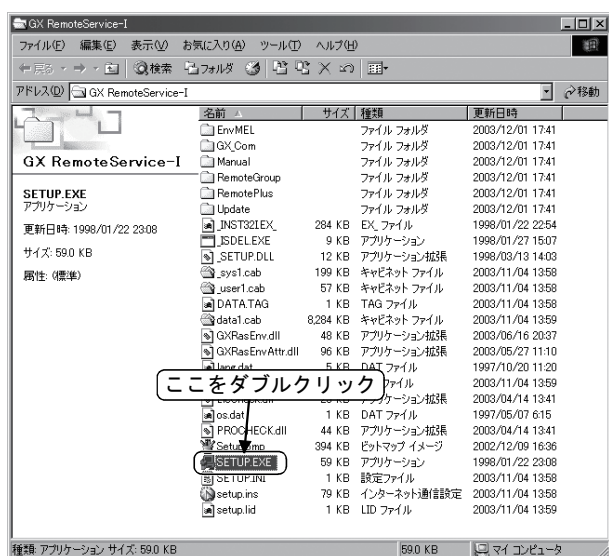
(2) 本製品のインストール

インストールを行う前に、次を確認してください。

ポイント

- ・ インストールを行う前に、Windows® で動作させている他のアプリケーションをすべて終了させてください。
- ・ Windows® XP Professional, Windows® 2000 Professional, Windows NT® Workstation 4.0使用時は、Administrator (コンピュータ管理用) の属性を持つユーザとしてログオンしてください。

(画面はWindows® 2000 Professionalの場合です。)

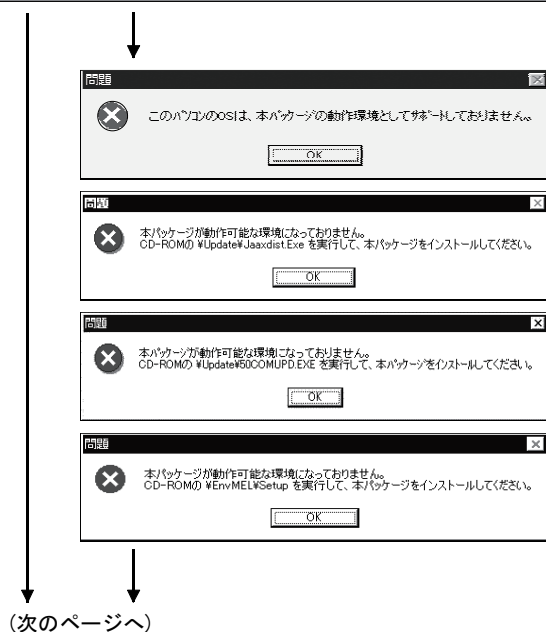


- ① Windows® のエクスプローラを起動してディスクが挿入されているドライブをクリックします。

“Setup.exe” をダブルクリックします。

Windows® 2000 Professionalのエクスプローラの表示は、[スタート]で右クリックし、[エクスプローラ]を選択します。

- ② 以下のメッセージが表示された場合は、それぞれの指示に従って作業を行ってください。



表示されるメッセージ	参照
このパソコンのOSは、本パッケージの動作環境としてサポートしていません。	本項の“インストール起動時にメッセージが表示された場合”の(a)
本パッケージが動作可能な環境になっておりません。 CD-ROMの¥Update¥Jaaxdist.Exeを実行して、本パッケージをインストールしてください。	本項の“インストール起動時にメッセージが表示された場合”の(b)
本パッケージが動作可能な環境になっておりません。 CD-ROMの¥Update¥50COMUPD.EXEを実行して、本パッケージをインストールしてください。	本項の“インストール起動時にメッセージが表示された場合”の(c)
本パッケージが動作可能な環境になっておりません。 CD-ROMの¥EnvMEL¥Setupを実行して、本パッケージをインストールしてください。	本項の“インストール起動時にメッセージが表示された場合”の(d)

- ③ インストール先の選択画面が表示されますので、画面表示にしたがって選択操作を行ってください。

(前ページから)

ユーザーの情報

名前と会社名を入力し、[次へ]ボタンをクリックして下さい。

名前(E): 三菱 太郎

会社名(C): 三菱電機株式会社

< 戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

- ④ 名前と会社名を入力し、**次へ** ボタンをクリックします。確認のダイアログボックスが表示されますので、メッセージにしたがって操作してください。

プロダクトIDの入力

製品に付いている7桁のIDを登録して下さい。
半角英数字で入力して下さい。

< 戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

- ⑤ 本製品のプロダクトIDを入力し、**次へ** ボタンをクリックします。
プロダクトIDは、本製品に同梱されている「ライセンス許諾書」に記載されています。

プロダクトIDの入力

旧製品に付いている7桁のIDを登録して下さい。
半角英数字で入力して下さい。

< 戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

- ⑥ バージョンアップする場合、左記画面が表示されます。
旧製品のプロダクトIDを入力し、**次へ** ボタンをクリックします。
プロダクトIDは、旧製品に同梱されている「ソフトウェア登録証」または「ライセンス許諾書」に記載されています。

新規に本製品をインストールする場合は、左記画面は表示されません。

インストール先の選択

セットアップは次のディレクトリにSWをインストールします。
このディレクトリへのインストールは[次へ]をクリックします。
他のディレクトリへのインストールは[参照]をクリックしディレクトリを選択します。
インストールしない場合は[キャンセル]をクリックします。

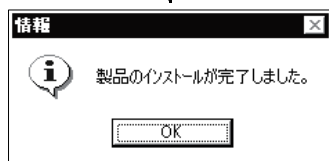
インストール先のフォルダ
C:\MELSEC\ 参照(R)...

< 戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

- ⑦ インストール先フォルダを指定します。
インストール先フォルダを表示しますのでよろしければ、**次へ** ボタンをクリックします。
変更する場合は、**参照** ボタンをクリックし変更先のドライブ、フォルダを指定します。

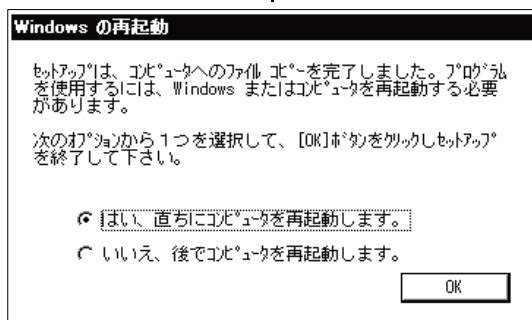
(次のページへ)

(前ページから)



⑧ これで、インストールが完了しました。

OK ボタンをクリックしてください。



⑨ 左記の画面が表示された場合は、Windows® を再起動する必要があります。

本製品をインストールすると次のようにアイコンが登録されます。



インストール起動時にメッセージが表示された場合

本製品のインストール時にメッセージが表示され、インストールが正常に完了しない場合があります。

このような場合、すべてのアプリケーションを終了し、(a)～(d)に示すいずれかの作業を行ってください。

(a) サポート基本ソフトウェア

本製品は、動作環境としてWindows® 95をサポートしません。
Windows® 95以外のサポート基本ソフトウェアがインストールされているパソコンに対して、再度インストールを実施してください。

(b) Jaaxdist.exeのインストール

本製品CD-ROMの“Update¥Jaaxdist.exeによる、Windows® のアップデート操作について説明します。

本製品CD-ROMに添付のJaaxdist.exeを実行してください。

exeファイル実行後パソコンを再起動し、本製品のインストールを行ってください。

下記に各基本ソフトウェアで実行するexeファイルを示します。

基本ソフトウェア	ファイル名
Microsoft® Windows® 98	JaaxDist.exe
Microsoft® Windows® 98 Second Edition	
Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0	

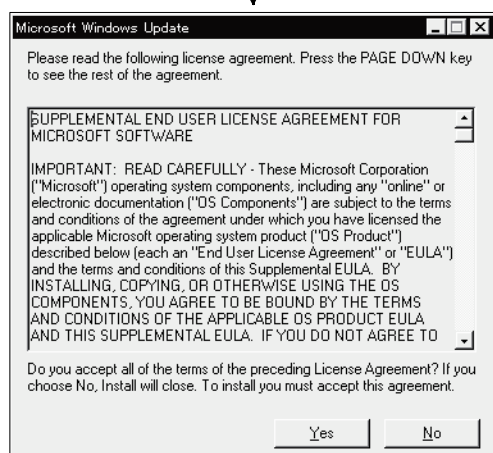
(Jaaxdist.exeは、本製品CD-ROM内の“Update”フォルダ内にあります。)

(c) 50comupd.exeのインストール

本製品CD-ROMの“Update¥50comupd.exe”によるWindows® のアップデート操作について説明します。



- ① ボタンをクリックして、Windowsのアップデートを実行します。



- ② 左画面にて同意し、 ボタンをクリックします。



- ③ ボタンをクリックして、再起動してください。
再起動後、(2)①から再度インストール操作を行ってください。

(d) EnvMELのインストール

本製品CD-ROMの“¥EnvMEL¥Setup.exe”を実行してください。

Setup.exeを実行後、本製品のインストールを行ってください。

この時、本製品のインストールが正しく実施されない場合は、パソコンの再起動を行ってください。

4.2.2 アンインストール

ハードディスクから本製品を削除する操作について説明します。

本製品のアンインストール



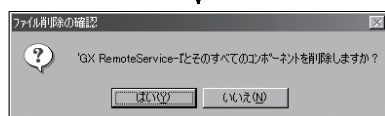
- ① [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択し、コントロールパネルの中から“アプリケーションの追加と削除”を選択してダブルクリックします。



- ② “GX RemoteService-I” を選択します。選択後、**追加と削除** ボタンをクリックします。左記画面は、Windows® 2000 Professionalの画面です。基本ソフトウェアにより表示される画面が異なります。

Windows® 2000 Professional使用時は、以下の操作を実施してください。

- プログラムの変更と削除** ボタンをクリックします。
- “GX RemoteService-I” を選択します。
- 変更と削除** ボタンをクリックします。

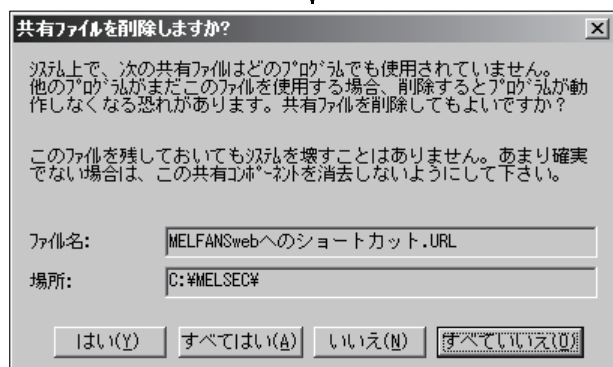


(次のページへ)

- ③ ソフトウェアパッケージの削除の確認をします。アンインストールを行う場合は、**はい** ボタンをクリックします。アンインストールを開始します。実行しない場合は、**いいえ** ボタンをクリックします。前の画面に戻ります。

* コンポーネントとは、インストールしたアイコンとファイルを示します。

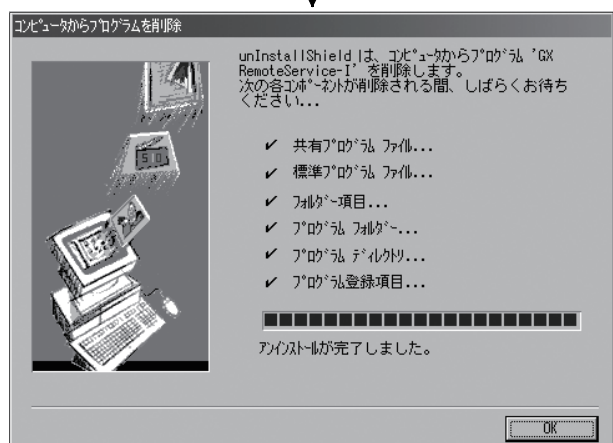
(前ページから)



- ④ 左の画面が表示された場合は、**すべていいえ** ボタンをクリックしてください。
はい ボタン, **すべてはい** ボタンをクリックすると、Windows® 対応のMELSOFT製品群の共有ファイルが削除されますので、本製品のみ削除の場合は、**すべていいえ** ボタンをクリックしてください。

ポイント

MELSOFT製品の共有ファイルを削除するとMELSOFT製品を使用できなくなる場合があります。



- ⑤ 削除作業が終了したメッセージが出ましたら **OK** ボタンをクリックします。

完了のメッセージが表示されたらアンインストール完了です。

4.3 USBドライバのインストール

Windows® 2000 ProfessionalまたはWindows® XP Professional使用時にCPU USB通信を行うにはUSBドライバのインストールが必要です。

USBドライバのインストール手順を下記に示します。

ポイント

USBドライバがインストールできない場合、下記設定をご確認ください。

・ Windows® 2000 Professional使用時

［コントロールパネル］－［システム］－［ハードウェア］－［ドライバ署名］で“ブロッカー署名されていないファイルのインストールを防ぐ”が選択されているとUSBドライバがインストールできない場合があります。

［ドライバ署名］で“無視－ファイルの署名に関係なく、すべてのファイルをインストールする”または“警告－署名されていないファイルをインストールする前にメッセージを表示する”を選択し、USBドライバのインストールを行ってください。

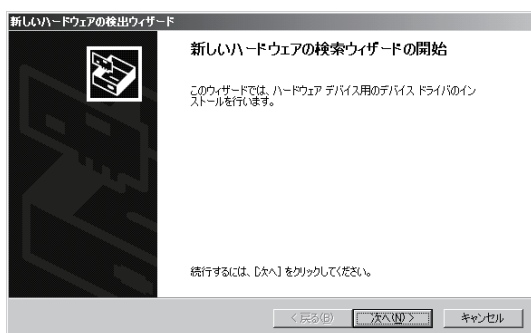
・ Windows® XP Professional使用時

［コントロールパネル］－［システム］－［ハードウェア］－［ドライバの署名］で“ブロッカー署名されていないドライバソフトウェアをインストールしない”が選択されているとUSBドライバがインストールできない場合があります。

［ドライバの署名］で“無視－ソフトウェアをインストールし、確認を求めない”または“警告－毎回、操作の選択を求める”を選択し、USBドライバのインストールを行ってください。

(1) Windows® 2000 Professional使用時

Windows® 2000 Professional使用時のUSBドライバのインストール手順を下記に示します。

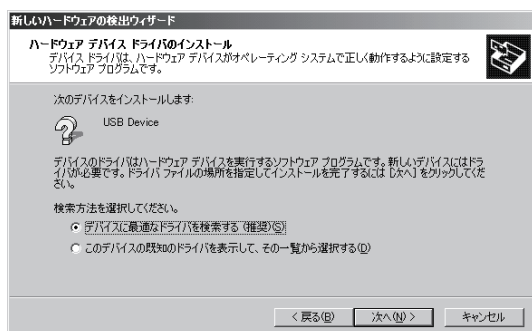


↓
(次のページへ)

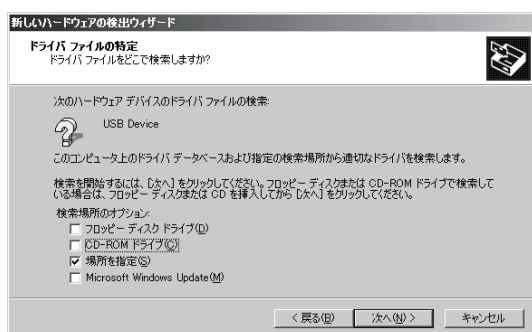
- ① パソコンとQCPU（Qモード）をUSBケーブルで接続すると左記画面が表示されます。

次へ ボタンをクリックします。

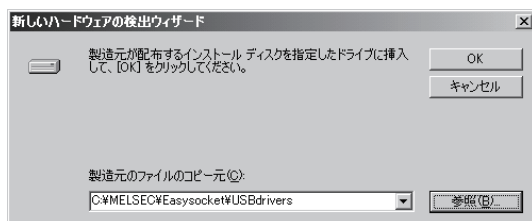
(前ページから)



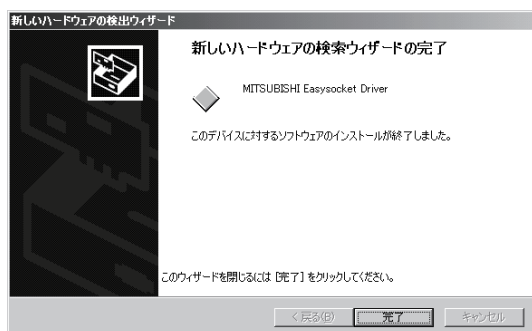
- ② “デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)” を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ③ “場所を指定” をチェックし、**次へ** ボタンをクリックします。



- ④ 左記画面が表示されますので、本製品をインストールした先 “Easysocket¥USBdrivers” を設定し、**OK** ボタンをクリックします。
- 左記画面は、C:\MELSEC\Easysocket¥USBdrivers を設定した例です。
- 複数のMELSOFT製品がインストールされている場合は、最初の製品のインストール先を参照してください。

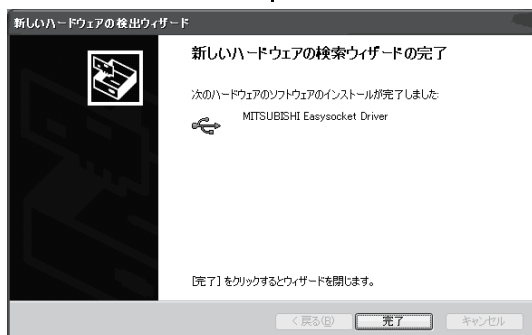
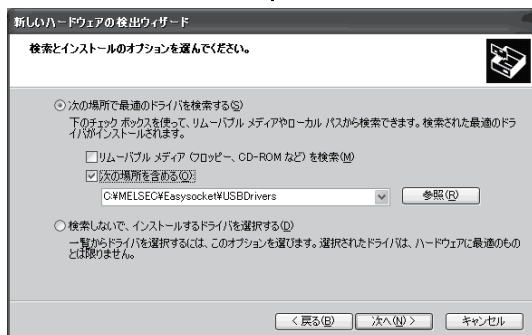
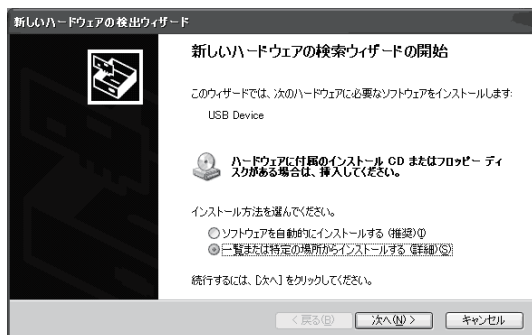


- ⑤ 左記画面が表示されるとインストール完了です。**完了** ボタンをクリックし、インストールを終了してください。

(完了)

(2) Windows® XP Professional使用時

Windows® XP Professional使用時のUSBドライバのインストール手順を下記に示します。



(完了)

① パソコンとQCPU（Qモード）をUSBケーブルで接続すると左記画面が表示されます。

“一覧または特定の場所からインストールする（詳細）”を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

② 左記画面が表示されますので、“次の場所で最適なドライバを検索する”を選択します。

“次の場所を含める”をチェックし、本製品をインストールしたフォルダの“Easysocket¥USBdrivers”を設定します。

設定後、**次へ** ボタンをクリックします。

左記画面は、C:\MELSEC\Easysocket\USBdriversを設定した例です。

複数のMELSOFT製品がインストールされている場合は、最初の製品のインストール先を参照してください。

③ “左記画面が表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。

備 考

USBドライバインストール途中で左記画面が表示されますが、弊社にて、USBドライバの動作確認をWindows® XP Professionalで実施しております。

（USBドライバインストール後に、問題が発生することはありません。）

続行 ボタンをクリックし、USBドライバのインストールを続行してください。

④ 左記画面が表示されるとインストール完了です。

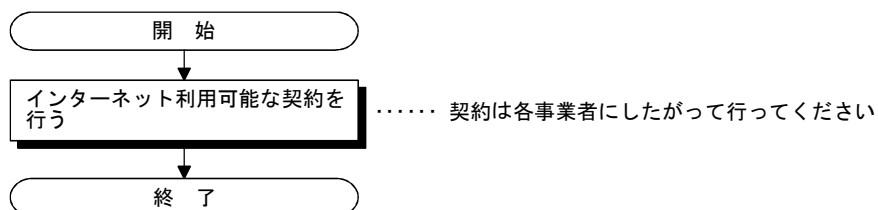
完了 ボタンをクリックし、インストールを終了してください。

4.4 i モード対応携帯電話の設定手順

i モード対応携帯電話で設定する項目について説明します。

i モード対応携帯電話からサーバ (パソコン) にアクセスする場合, i モードに対応した携帯電話とインターネットが利用できる契約をしてください。

その他, J-スカイ, EZwebに対応した携帯電話もご使用できます。



ポイント

i モード対応携帯電話の代わりにパソコンを使用することもできます。
使用可能なパソコンの環境は2.3.2項を参照してください。

5. Webサーバソフトウェアのインストール

本製品 (GX RemoteService-I) のインストールおよびアンインストール操作は、同梱されている「MELSOFT シリーズのインストール方法について」を参照してください。

5.1 Windows® 98の場合

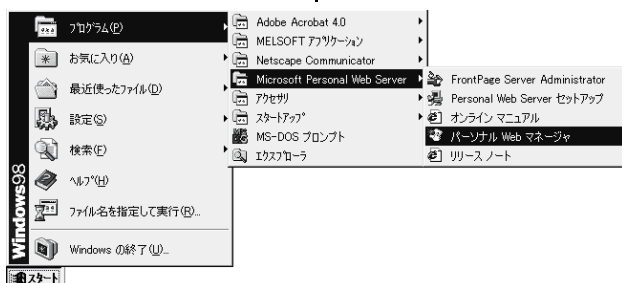
Webサーバのセットアップ方法を下記に示します。

(開始)

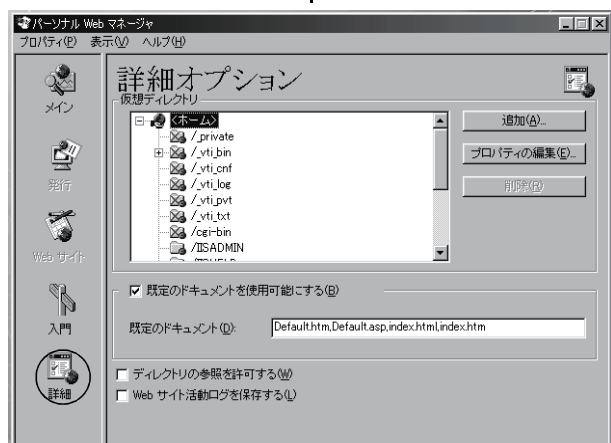


- ① 使用するサーバ (パソコン) に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、Setup.exeを実行してください。
インストールが開始されます。
また、CD-ROMに上記ファイルがない場合は、Windows® 98をインストールしたドライブの¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS¥PWSにインストーラが格納されています。(左記画面)

5



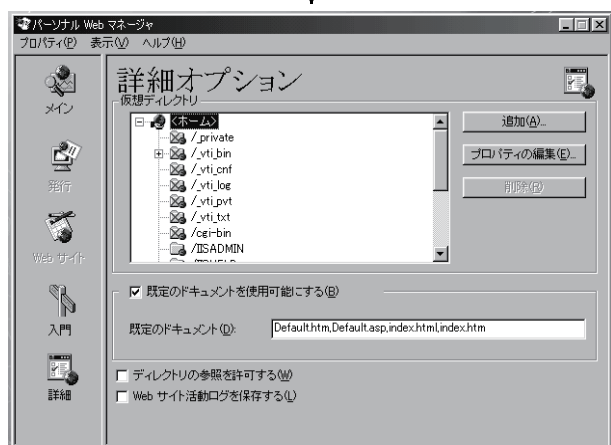
- ② [プログラム]-[Microsoft Personal Web Server]-[パーソナルWebマネージャ]を選択してください。



- ③ 左記画面が表示されますので、[詳細]をクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



- ④ 「仮想ディレクトリ」の「ホーム」を選択して、**追加** ボタンをクリックします。



- ⑤ ディレクトリの編集ダイアログボックスが表示されますので、下記の設定を行ってください。

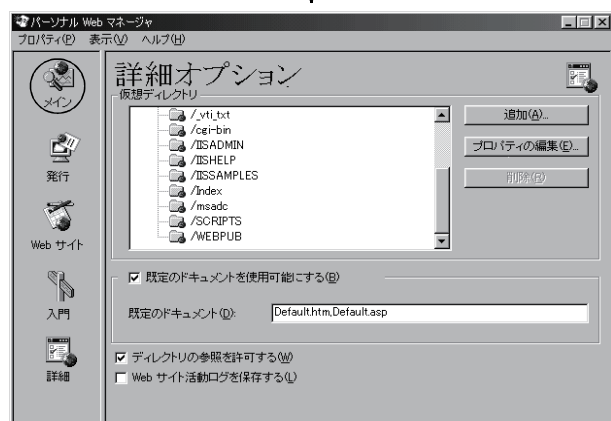
ディレクトリ：

「C:\MELSEC\RAS\home\INDEX」を指定
(GX RemoteService-Iインストール時にインストール先のフォルダを変更した場合は、変更先のフォルダを指定してください。)

エイリアス： Index

アクセス： 「読み取り」，「スクリプト」
をチェックする。

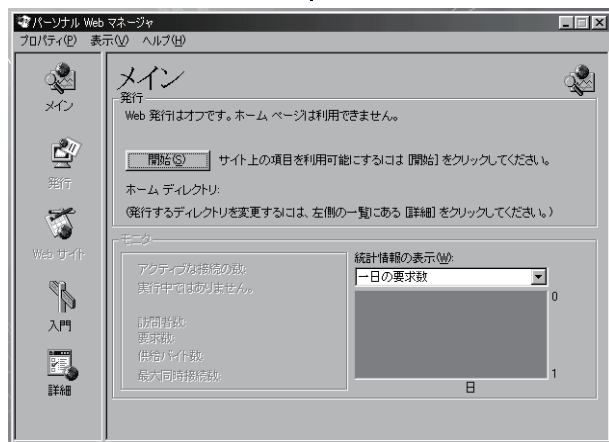
OK ボタンをクリックします。



- ⑥ 仮想ディレクトリにエイリアス (Index) が追加されます。
エイリアスが追加されたのを確認して、「メイン」をクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



(終了)

- ⑦ 「発行」の **開始** ボタンをクリックします。

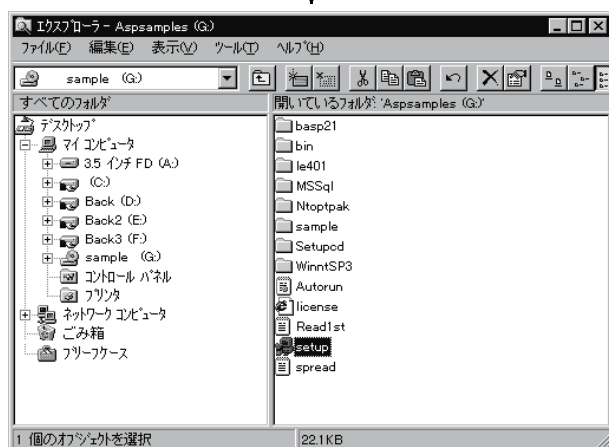
ポイント

Web発行がONの状態ではエイリアスを追加した場合は、一旦Web発行を停止し、再度 **開始** ボタンをクリックして、Web発行をONしてください。

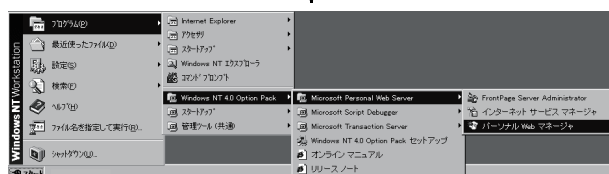
5.2 WindowsNT® 4.0の場合

Webサーバのセットアップ方法を下記に示します。

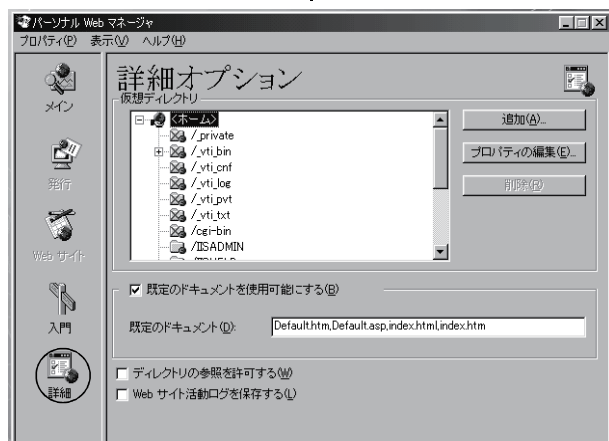
(開始)



- ① 使用するサーバ（パソコン）に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし, setup. exeを実行してください。
インストールが開始されます。



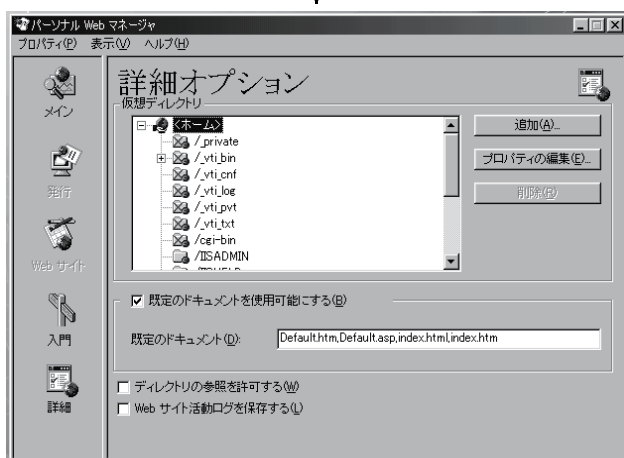
- ② [プログラム]-[WindowsNT4.0 OptionPack]-[Microsoft Personal Web Server]-[パーソナルWebマネージャ]を選択してください。



- ③ 左記画面が表示されますので, [詳細] をクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



- ④ 「仮想ディレクトリ」の「ホーム」を選択して、**追加** ボタンをクリックします。



- ⑤ ディレクトリの編集ダイアログボックスが表示されますので、下記の設定を行ってください。

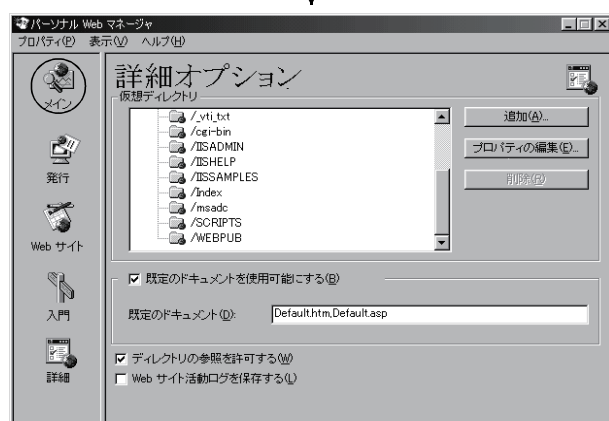
ディレクトリ:

「C:\MELSEC\RAS\home\INDEX」を指定
(GX RemoteService-Iインストール時にインストール先のフォルダを変更した場合は、変更先のフォルダを指定してください。)

エイリアス: Index

アクセス: 「読み取り」、「スクリプト」をチェックする。

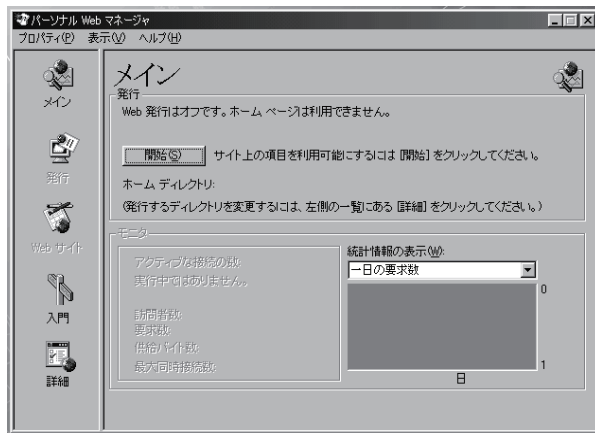
OK ボタンをクリックします。



- ⑥ 仮想ディレクトリにエイリアス (Index) が追加されます。
エイリアスが追加されたのを確認して、「メイン」をクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



(終了)

⑦ 「発行」の **開始** ボタンをクリックします。

5.3 Windows® 2000 (Professional) の場合

Webサーバのセットアップ方法を下記に示します。

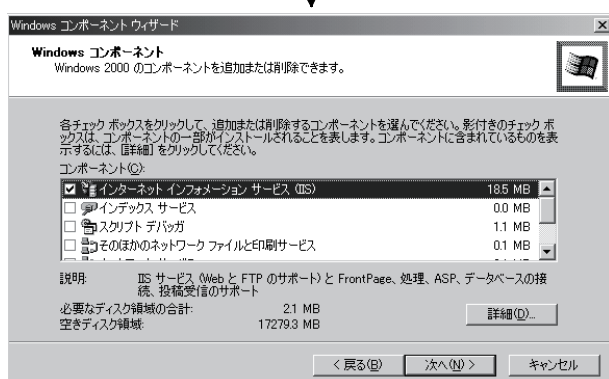
(開始)



- ① 使用するサーバ(パソコン)に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし, [コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を開きます。



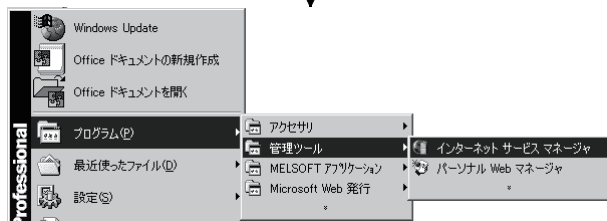
- ② [Windowsコンポーネントの追加と削除]をクリックします。



- ③ Windowsコンポーネントウィザード画面が起動しますので, [インターネットインフォメーションサービス(IIS)]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。(インストールが開始され, 完了画面が表示されたらインストールが終了します。)

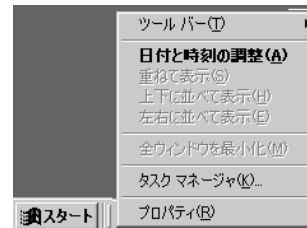
(次ページへ)

(前ページから)

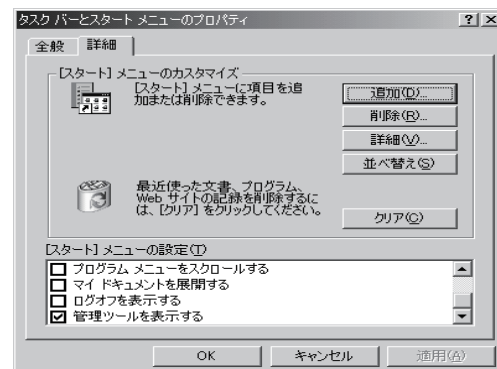


- ④ [スタート]-[プログラム]-[管理ツール]-[インターネットサービスマネージャ]を選択します。

Windows® 2000ではデフォルトでスタートメニューの[管理ツール]が非表示になっていますので、以下の操作方法で表示するようにしてください。



タスクバー上で右クリックして上記メニューを表示させ[プロパティ]を選択します。タスクバーとスタートメニューのプロパティ画面の「管理ツールを表示する」をチェックします。



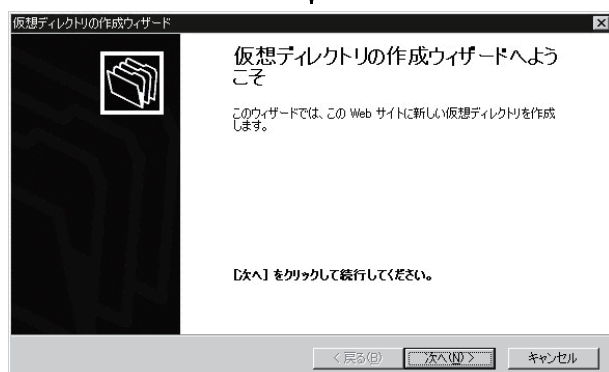
インターネットサービスマネージャが起動します。



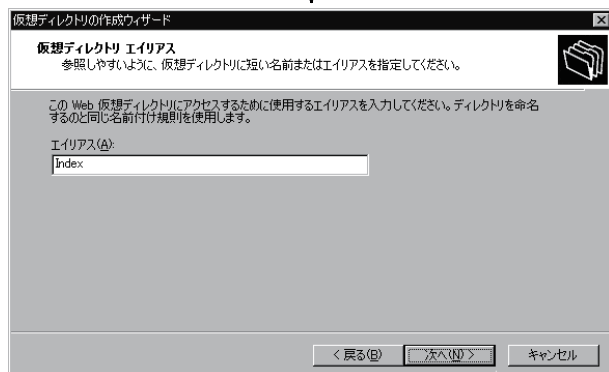
(次ページへ)

- ⑤ 左記画面で[規定のWebサイト]を選択し、右クリックで[新規作成]-[仮想ディレクトリ]を選択します。

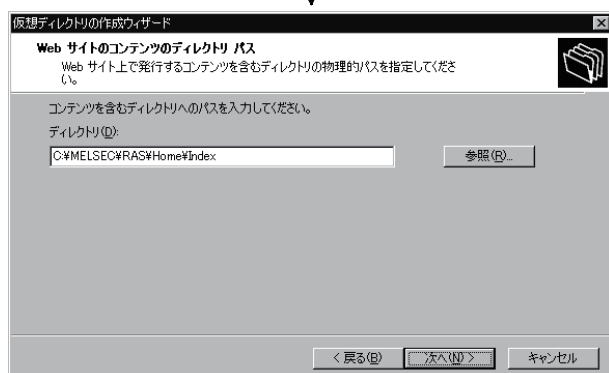
(前ページから)



- ⑥ 仮想ディレクトリの作成ウィザードが開始されます。

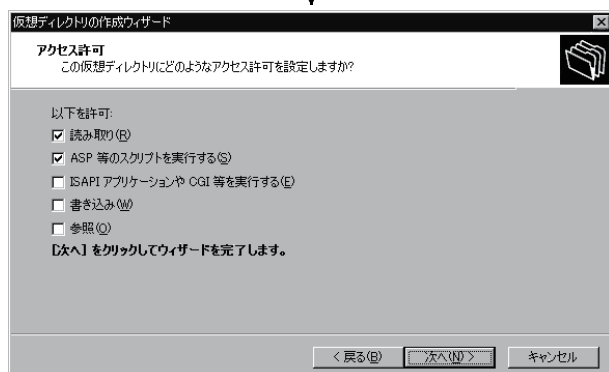


- ⑦ [エイリアス]に「Index」と入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ⑧ [ディレクトリ]に「C:\MELSEC\RAS\Home\Index」を設定し、**次へ** ボタンをクリックします。

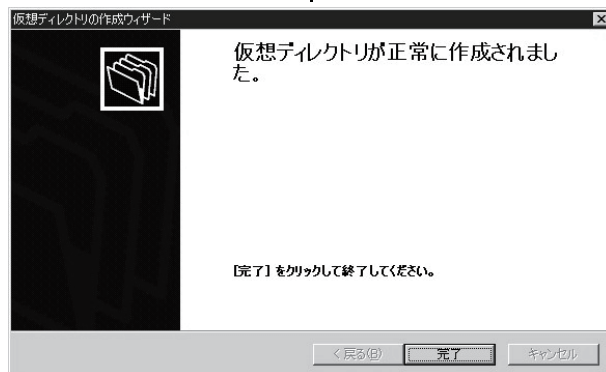
(GX RemoteService-Iインストール時にインストール先のフォルダを変更した場合は、変更先のフォルダを指定してください。)



- ⑨ 「読み取り」，「ASP等のスクリプトを実行する」をチェックし、**次へ** ボタンをクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



(終了)

- ⑩ 左記画面が表示されると仮想ディレクトリの作成完了です。

完了 ボタンをクリックし、ウィザードを終了してください。

5.4 Windows® XP (Professional) の場合

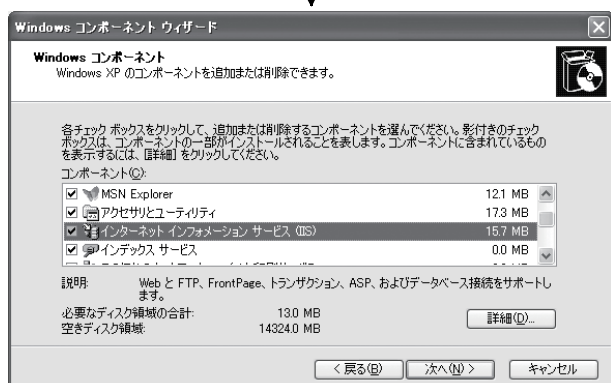
Webサーバのセットアップ方法を下記に示します。

(開始)



- ① [スタート]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]を選択して、プログラムの追加と削除画面を開きます。

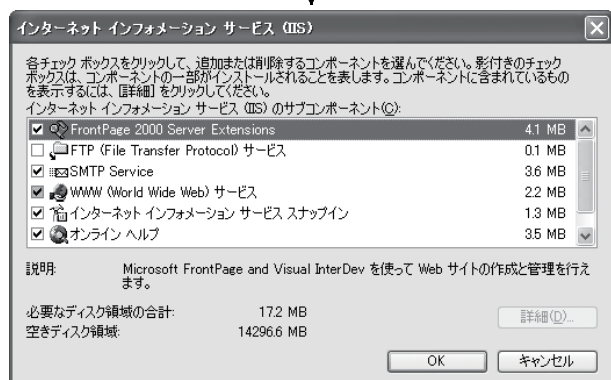
画面左にある「Windows コンポーネントの追加と削除」アイコンをクリックします。



- ② [インターネット インフォメーション サービス (IIS)] をチェックします。

デフォルトの設定でIISをインストールする場合、**次へ** ボタンをクリックして⑥へ進んでください。

サブコンポーネントのインストールの有無について個別に設定する場合、[インターネット インフォメーション サービス (IIS)] を選択した状態で、**詳細** ボタンをクリックして③へ進んでください。



- ③ 【必要に応じて設定してください。】

デフォルトではインストールされないサブコンポーネントのインストールを指定したり、逆に不要なサブコンポーネントのインストールを禁止したりします。

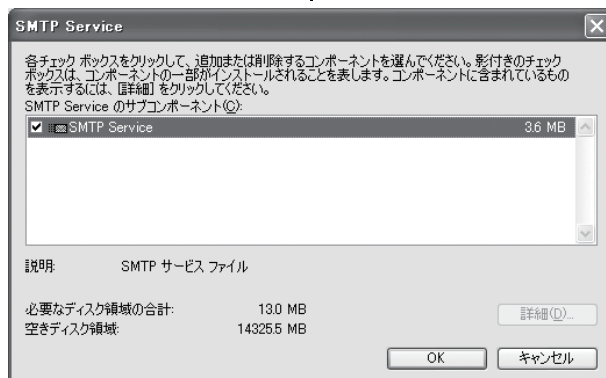
設定終了後、**OK** ボタンをクリックすると、②の画面に戻ります。

「SMTP Service」と「WWW (World Wide Web) サービス」は、**詳細** ボタンをクリックすることでそれぞれのサブコンポーネントのインストールの有無について個別に設定できます。

「SMTP Service」のサブコンポーネントを設定する場合は④へ、「WWW (World Wide Web) サービス」のサブコンポーネントを設定する場合は⑤へ進んでください。

(次ページへ)

(前ページから)

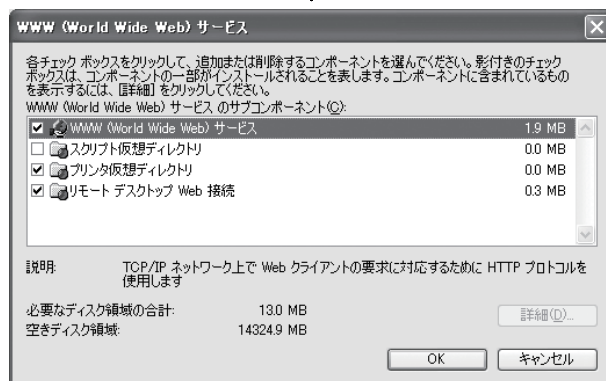


④ 【必要に応じて設定してください。】

インストールするサブコンポーネントにはチェックをつけてください。逆に、インストールしないサブコンポーネントはチェックをはずしてください。

サブコンポーネントの詳細は「説明欄」を参照してください。

設定終了後、**OK** ボタンをクリックすると、③の画面に戻ります。

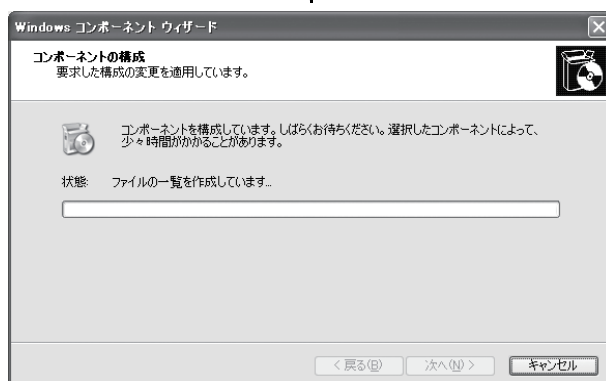


⑤ 【必要に応じて設定してください。】

インストールするサブコンポーネントにはチェックをつけてください。逆に、インストールしないサブコンポーネントはチェックをはずしてください。

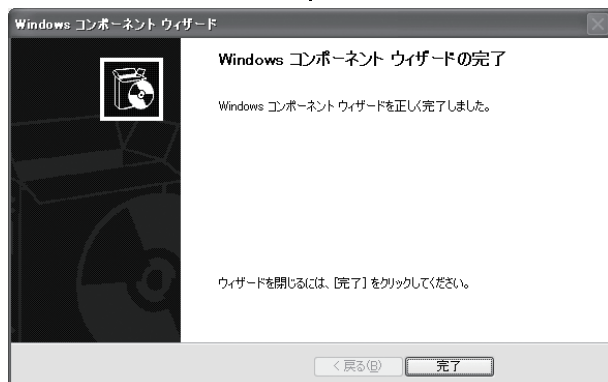
サブコンポーネントの詳細は「説明欄」を参照してください。

設定終了後、**OK** ボタンをクリックすると、③の画面に戻ります。

⑥ ②の画面で **次へ** ボタンをクリックすると、左記画面が表示され、IISのインストールが開始されます。

(次ページへ)

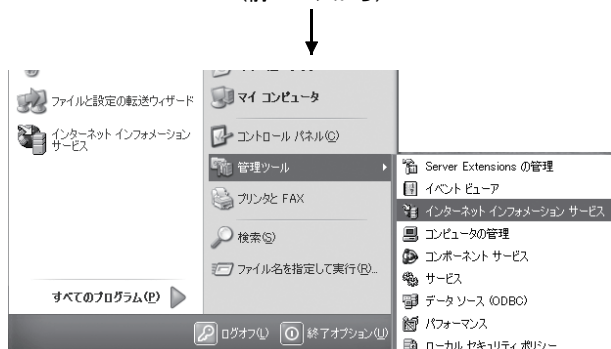
(前ページから)



(次ページへ)

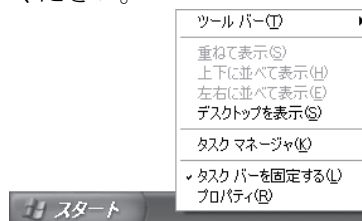
- ⑦ IISのインストールが正しく完了すると、左記画面が表示されますので、**完了** ボタンをクリックしてWindows コンポーネント ウィザード画面を閉じてください。

(前ページから)

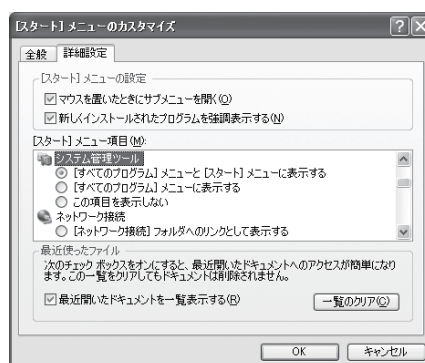


- ⑧ [スタート]-[管理ツール]-[インターネット インフォメーション サービス]を選択します。

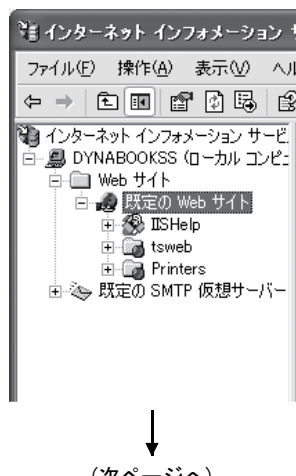
Windows® XPではデフォルトでスタートメニューの[管理ツール]が非表示になっていますので、以下の操作方法で表示するようにしてください。



タスクバー上で右クリックして上記メニューを表示させ[プロパティ]を選択します。タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ画面の《[スタート]メニュー》タブ内にある「カスタマイズ」ボタンをクリックします。[スタート]メニューのカスタマイズ画面の「[すべてのプログラム]メニューと[スタート]メニューに表示する」を選択します。

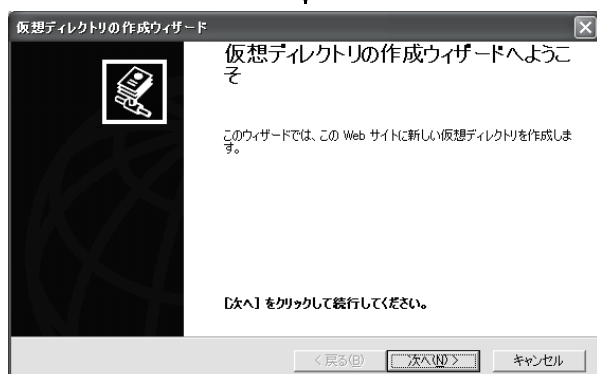


インターネット インフォメーション サービスが起動します。

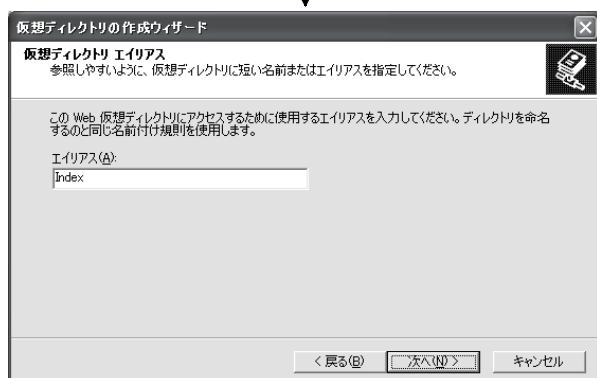


- ⑨ 左記画面で[規定のWebサイト]を選択し、右クリックで[新規作成]-[仮想ディレクトリ]を選択します。

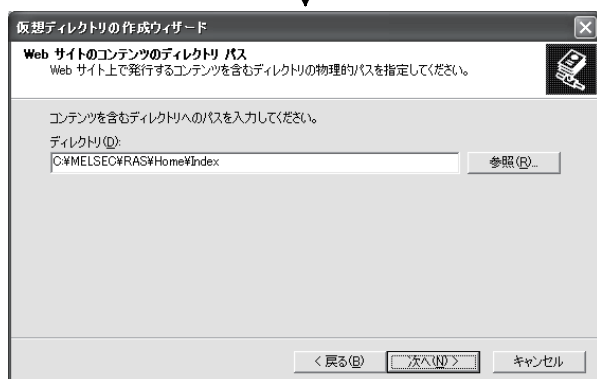
(前ページから)



- ⑩ 仮想ディレクトリの作成ウィザードが開始されます。

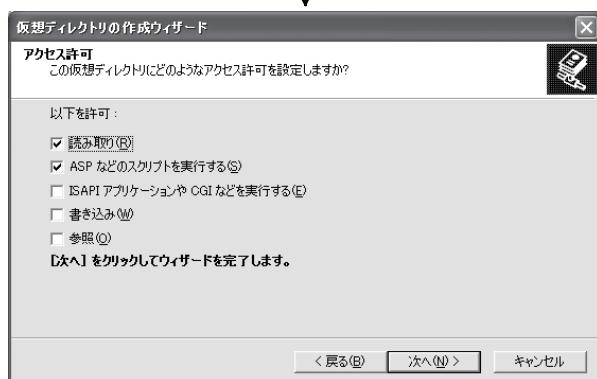


- ⑪ [エイリアス]に「Index」と入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ⑫ [ディレクトリ]に「C:\MELSEC\RAS\Home\Index」を設定し、**次へ** ボタンをクリックします。

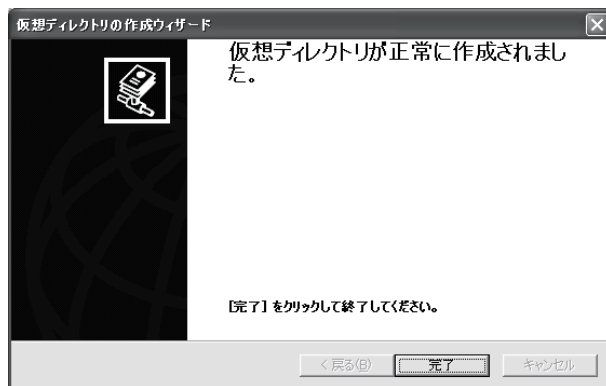
(GX RemoteService-Iインストール時にインストール先のフォルダを変更した場合は、変更先のフォルダを指定してください。)



- ⑬ 「読み取り」，「ASPなどのスクリプトを実行する」をチェックし、**次へ** ボタンをクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)



(終了)

- ⑭ 左記画面が表示されると仮想ディレクトリの作成完了です。

完了 ボタンをクリックし、ウィザードを終了してください。

6. GX RemoteService-Iの機能を設定する

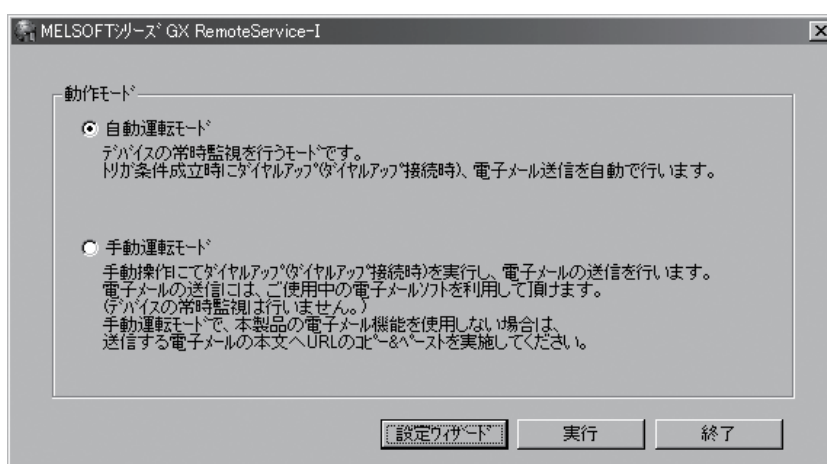
サーバ（パソコン）で設定する機能設定を説明します。

各設定は、任意に設定することができますが、ウィザードを利用して設定すると簡単に設定することができます。

設定の項目、手順は、4章を参照してください。

GX RemoteService-Iを起動すると下記画面が表示されます。

各設定画面の詳細説明は、6.2節、6.3.1～6.3.9項を参照してください。



自動運転モード、手動運転モードを選択した後、**設定ウィザード** ボタンをクリックするとウィザードの画面が表示されます。

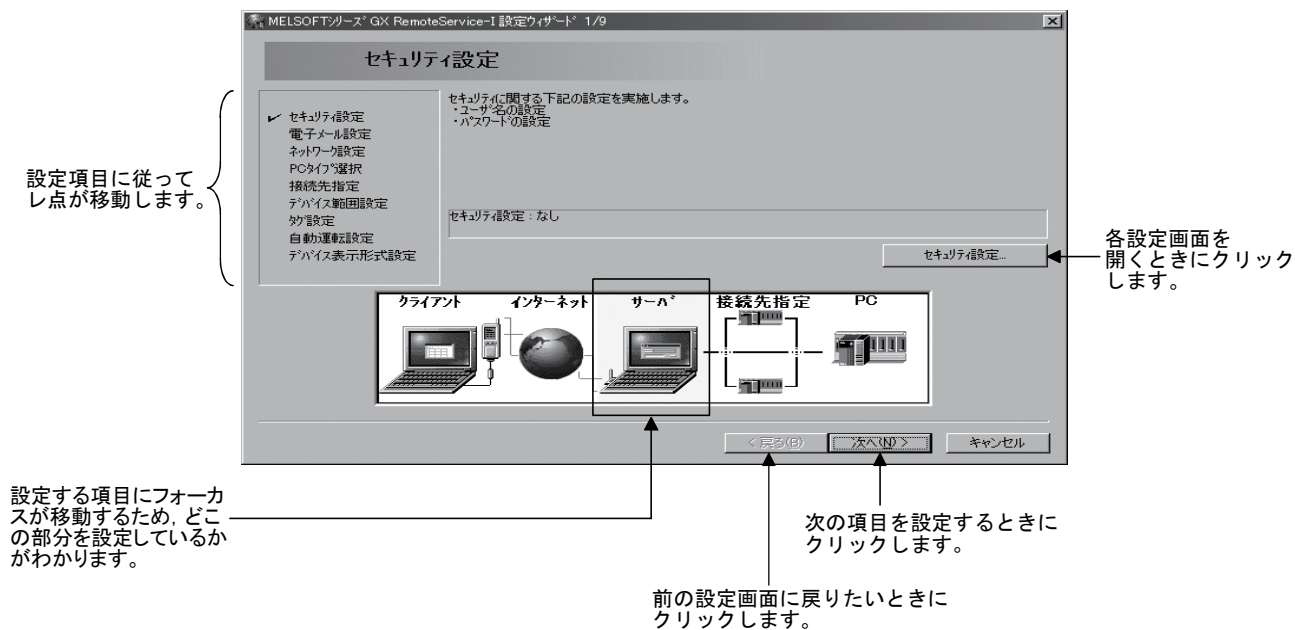
自動運転モード、手動運転モードの設定項目可否は下表の通りです。

設定項目	運転モード		内容
	自動	手動	
セキュリティ設定	△	△	クライアントがサーバへ接続するときに、サーバがクライアント認証を行うために設定します。
電子メール設定	○	△	GX RemoteService-Iのメール機能を使用するために設定します。 手動運転モード時、Microsoft® Outlook Expressなどのメールソフトを使用する場合は設定不要です。
ネットワーク設定	○	○	サーバのネットワークへの接続形態を設定します。
PCタイプ選択	○	○	クライアントから最初にアクセスするシーケンサCPUのPCシリーズ、PCタイプを設定します。
接続先指定	○	○	サーバとシーケンサCPU間の接続先指定を設定します。
デバイス範囲設定	△	△	クライアント側で最初にモニタするデバイスなどを設定します。
タグ設定	△	△	クライアント側にてモニタするデバイスをタグとして扱うための設定をします。
自動運転設定	○	-	自動運転モードを使用する場合に、電子メールを送るトリガ条件の設定や電子メールのメッセージなどを設定します。
デバイス表示形式設定	△	△	クライアント側で表示する画面の設定をします。

○：設定必須 △：設定任意 -：設定不要

6.1 設定ウィザード

動作モードを選択する画面で、**設定ウィザード** ボタンをクリックすると下記画面が表示されます。メッセージに従って設定してください。

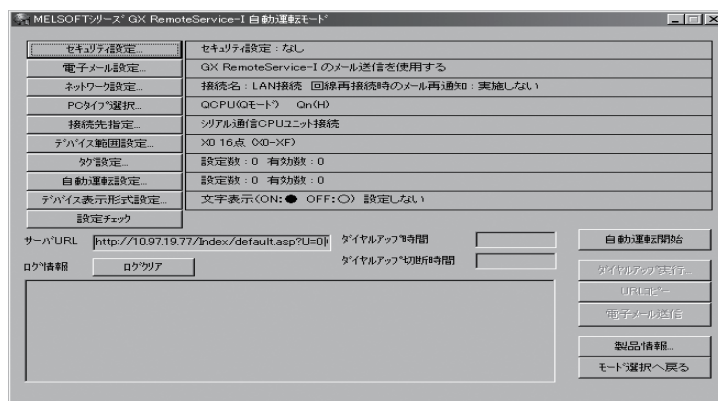


ポイント

設定ウィザードで設定する詳細項目の説明は、6.3節を参照してください。

6.2 メイン画面

サーバURL、ダイヤルアップ実行、電子メール送信などの機能について説明します。



項 目	内 容
サーバURL	IPアドレス付きのURLを表示します。 インターネットサービスプロバイダによって割り振られるIPアドレスを取得できない場合は、IPアドレスの個所に“---.---.---.---”を表示します。 IPアドレスが表示されない場合は、本製品を使用できません。
ログ情報	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転時のトラブル内容を表示します。 i モード対応携帯電話のエラーや操作を表示します。 時間と日付を表示します。 ログは範囲選択してコピーすることができます。 ログは最大100行とし100行を超える場合は古いものから順に削除されます。
“ログクリア” ボタン	ログ情報のメッセージをクリアします。
ダイヤルアップ時間	ダイヤルアップ実行してからの経過時間を表示します。 更新は5秒ごとで行われます。 下記の場合は “--:--:--” の表示を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルアップ実行していない場合 GX RemoteService-I以外からダイヤルアップを行った場合 9999:59:59 (9999時間59分59秒) を超えた場合は、00:00:00に戻ります。
ダイヤルアップ切断時間	回線切断設定で自動回線切断方式がアクセス時間監視またはダイヤルアップ切断タイマのときに表示します。（設定しない場合は “--:--:--” の表示をします。） ゼロ時間になるまでカウントダウンします。 更新は5秒ごとで行われます。 アクセス時間監視の場合は、アクセスがあるたびに設定されている時間からカウントダウンを開始します。 ゼロ時間になった場合は回線を切断します。
“自動運転開始” ボタン	常時監視を実行します。 自動運転中はボタン名が“自動運転終了”になり、クリックすると自動運転が終了します。
“ダイヤルアップ実行” ボタン	設定されている接続名（ダイヤルアップ接続名が未設定の場合は本ボタンはマスクされます。）でダイヤルアップ接続を開始します。

(次ページへつづく)

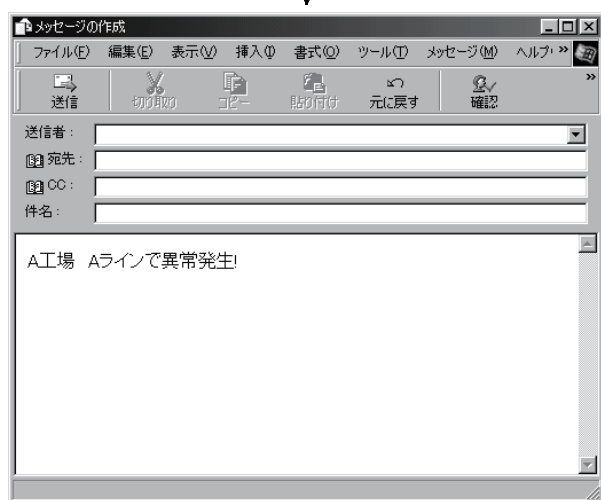
(前ページより)

項 目	内 容
“URLコピー” ボタン	サーバURLに表示されているアドレスをコピーします。 GX RemoteService-Iの電子メール機能から送信する場合は、自動的にメール本文にアドレスが付加されます。
“電子メール送信” ボタン	設定した送信先に電子メールを送信します。
“製品情報” ボタン	本製品のバージョンを表示します。
“モード選択へ戻る” ボタン	自動運転モード、手動運転モードの選択画面に戻ります。

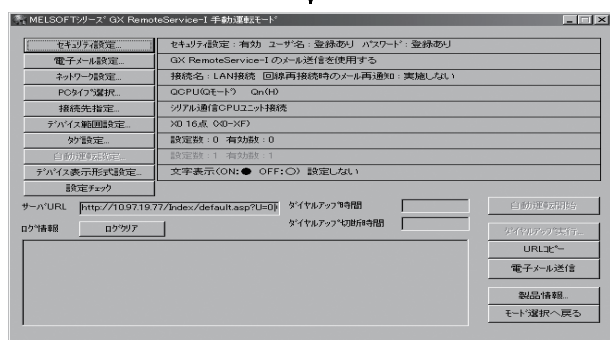
備考

手動運転モード時、Microsoft® Outlook Expressなどの電子メールソフトウェアを使用して送信する手順を下記に示します。

(開始)



- (1) メールソフトウェアを起動して、メール本文を作成します。



- (2) GX RemoteService-Iの“URLコピー” ボタンをクリックします。

<http://000.000.000.000/index/default.asp>

A工場 Aラインで異常発生

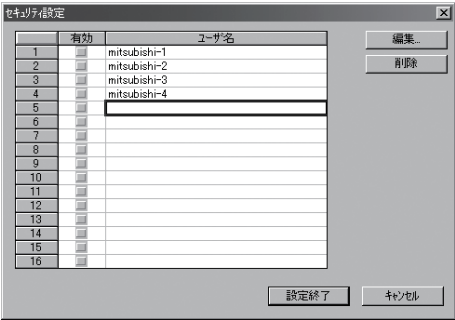
- (3) 作成したメールの本文にGX RemoteService-IよりコピーしたURLを貼り付けます。


(終了)

6.3 サーバ（パソコン）の機能を設定する

6.3.1 セキュリティ設定

サーバにユーザ名・パスワードを登録することで、クライアントからサーバへアクセスする際にクライアントの認証を実行し、不正アクセスを防止します。ただし、Web機能を使用する場合は、セキュリティ機能による認証を実行しません。



項 目	内 容								
有効	登録されたユーザ名の有効/無効 を設定します。								
ユーザ名	ユーザ名／パスワード設定画面で登録したユーザ名が表示されます。								
“編集” ボタン	<div>ユーザ名、パスワードを設定します。</div> <div></div> <table><tr><th>項 目</th><th>内 容</th></tr><tr><td>ユーザ名</td><td>ユーザ名として、半角英数字／記号1～20文字を入力します。</td></tr><tr><td>パスワード</td><td>パスワードとして、半角英数字／記号8～14文字を入力します。</td></tr><tr><td>確認用パスワード</td><td>上記で入力したパスワードを確認のために入力します。</td></tr></table> <div>設定パターンには次の3種類あります。</div> <div><div>① ユーザ名、パスワードの両方を設定する。</div><div>② ユーザ名のみ設定する。</div><div>③ ユーザ名、パスワードとも設定しない。</div></div>	項 目	内 容	ユーザ名	ユーザ名として、半角英数字／記号1～20文字を入力します。	パスワード	パスワードとして、半角英数字／記号8～14文字を入力します。	確認用パスワード	上記で入力したパスワードを確認のために入力します。
項 目	内 容								
ユーザ名	ユーザ名として、半角英数字／記号1～20文字を入力します。								
パスワード	パスワードとして、半角英数字／記号8～14文字を入力します。								
確認用パスワード	上記で入力したパスワードを確認のために入力します。								
“削除” ボタン	選択した行のユーザ名、パスワードを削除します。								

ポイント

Webサーバユニットのセキュリティ設定は、Webサーバユニットユーザズマニュアル（詳細編）を参照してください。

6.3.2 電子メール設定

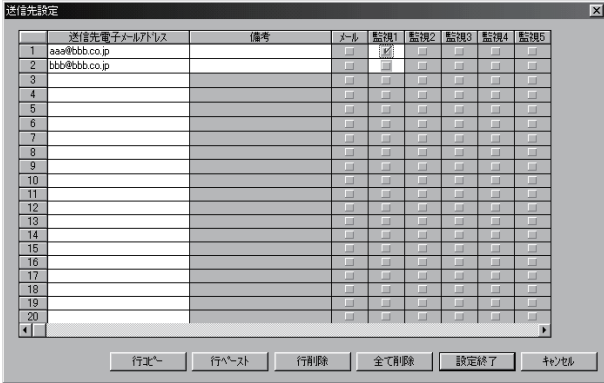
自動運転モード, 手動運転モードで設定する項目が異なりますので必要に応じて設定してください。

設定内容は, プロバイダから送付される「ご利用内容」などを見て設定することをお勧めします。

項 目	内 容
送信メール(SMTP)サーバ	GX RemoteService-Iより電子メールを送信するとき, 使用するサーバを指定します。 プロバイダが提供しているアドレスを設定します。 入力可能文字数: 半角1~256文字
受信メール(POP3)サーバ	電子メール受信するとき, 使用するサーバを入力します。 プロバイダが提供しているアドレスを設定します。 入力可能文字数: 半角1~256文字
アカウント名	POP3サーバ認証用のアカウント名を指定します。 プロバイダが提供しているアカウント名を設定します。 入力可能文字数: 半角1~255文字
パスワード	POP3サーバ認証用のアカウント名のパスワードを指定します。 プロバイダが提供しているアカウント名のパスワードを設定します。 入力可能文字数: 半角1~255文字
電子メールアドレス	返信用メールアドレスを指定します。 半角1~255文字まで設定できます。 注意: GX RemoteService-Iには電子メールを受信する機能はありませんが, メール送信時に必要なために設定します。
メッセージの件名	電子メールの件名(Subject)を設定します。 入力可能文字数: 半角1~256文字 注意: 使用する機種によっては, すべて表示できない場合があります。

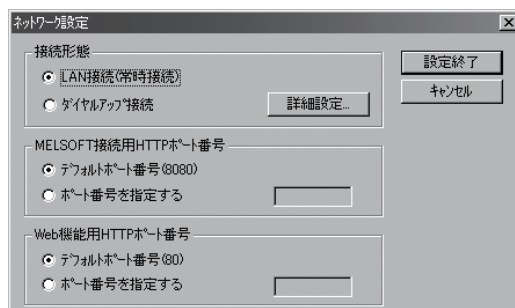
(次ページへつづく)

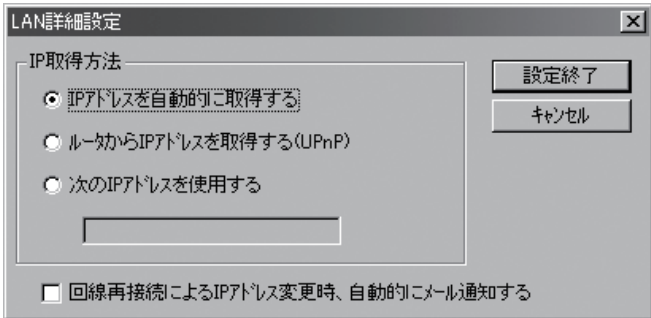
(前ページより)

項 目	内 容																		
メッセージの本文	電子メールの本文を入力します。入力可能文字数：半角0～256文字 実際に送信される文字列にはサーバのURLが付加されますので、メッセージを作成する場合は、URLの文字数を考慮して作成してください。																		
“送信先設定” ボタン	<p>送信先設定は、手動モード時のみ設定できます。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>送信先電子メールアドレス</td><td>i モード対応携帯電話の電子メールアドレスを設定します。 半角1～255文字以内で設定してください。</td></tr> <tr> <td>備考</td><td>会社名、名前などメモとして使用できます。 半角256文字以内で設定してください。</td></tr> <tr> <td>メール</td><td>手動運転モードのみ設定できます。 電子メールのメール送信をする／しないを設定します。 自動運転モード時は、自動運転設定で設定した状態が表示されます。</td></tr> <tr> <td>監視1～10</td><td>自動運転モードのみ設定できます。 自動運転詳細設定でシステムの監視をする／しないの設定をします。</td></tr> <tr> <td>“行コピー” ボタン</td><td>選択している行を、コピーします。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないとコピーできません。</td></tr> <tr> <td>“行ペースト” ボタン</td><td>コピーした行をペーストします。</td></tr> <tr> <td>“行削除” ボタン</td><td>選択している行を、削除します。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないと削除できません。</td></tr> <tr> <td>“全て削除” ボタン</td><td>すべての行を削除します。</td></tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	送信先電子メールアドレス	i モード対応携帯電話の電子メールアドレスを設定します。 半角1～255文字以内で設定してください。	備考	会社名、名前などメモとして使用できます。 半角256文字以内で設定してください。	メール	手動運転モードのみ設定できます。 電子メールのメール送信をする／しないを設定します。 自動運転モード時は、自動運転設定で設定した状態が表示されます。	監視1～10	自動運転モードのみ設定できます。 自動運転詳細設定でシステムの監視をする／しないの設定をします。	“行コピー” ボタン	選択している行を、コピーします。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないとコピーできません。	“行ペースト” ボタン	コピーした行をペーストします。	“行削除” ボタン	選択している行を、削除します。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないと削除できません。	“全て削除” ボタン	すべての行を削除します。
項 目	内 容																		
送信先電子メールアドレス	i モード対応携帯電話の電子メールアドレスを設定します。 半角1～255文字以内で設定してください。																		
備考	会社名、名前などメモとして使用できます。 半角256文字以内で設定してください。																		
メール	手動運転モードのみ設定できます。 電子メールのメール送信をする／しないを設定します。 自動運転モード時は、自動運転設定で設定した状態が表示されます。																		
監視1～10	自動運転モードのみ設定できます。 自動運転詳細設定でシステムの監視をする／しないの設定をします。																		
“行コピー” ボタン	選択している行を、コピーします。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないとコピーできません。																		
“行ペースト” ボタン	コピーした行をペーストします。																		
“行削除” ボタン	選択している行を、削除します。 行選択は、1～20の番号をクリックして選択してください。 1行全体が選択されていないと削除できません。																		
“全て削除” ボタン	すべての行を削除します。																		
手動運転時の電子メール配信先指定	<p>メール：電子メールを送信する/送信しないを選択します。 手動運転モード時のみ設定できます。</p> <p>送信先電子メールアドレス：電子メールの送信先が表示されます。</p> <p>備考：電子メールの送信先に関する付加情報が設定できます。</p>																		
GX RemoteService-Iのメール送信を使用する	<p>手動運転モード時のみ選択できます。</p> <p>自動運転モードは、自動的に設定されます。</p>																		

6.3.3 ネットワーク設定

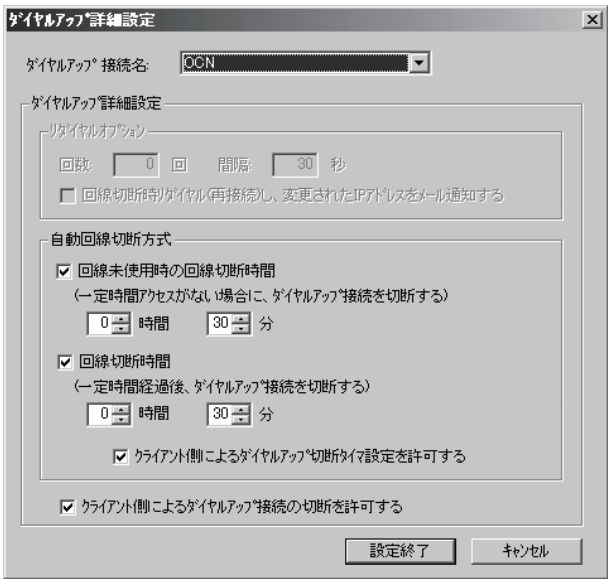
ネットワーク設定について説明します。



項 目	内 容										
「LAN接続(常時接続)」選択時 “詳細設定” ボタン											
	<table><tr><th>項目</th><th>内 容</th></tr><tr><td>IPアドレスを自動的に取得する</td><td>IPアドレスの自動取得が可能な場合に選択します。 自動取得の可否については、2.2.1項を参照してください。</td></tr><tr><td>ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)</td><td>UPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムを使用する場合に選択します。ルータなどの機器が介在するシステムでIPアドレスを自動で取得することができます。</td></tr><tr><td>次のIPアドレスを使用する</td><td>イントラネットや固定IPの場合に，IPアドレスを指定します。ただし，インターネットでUPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムなどルータ等の機器が介在するシステム構成の場合，固定IPアドレスであっても，「ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)」の方を選択してください。IPアドレスは，半角数字のみ入力可能です。</td></tr><tr><td>回線再接続によるIPアドレス変更時，自動的にメール通知する</td><td>自動運転モード実施時，回線断による再接続で，サーバのIPアドレスが変更になった場合に，自動的に新しいIPアドレスを検出してクライアントに通知します。メール通知の場合は，トリガ条件成立時再送します。</td></tr></table>	項目	内 容	IPアドレスを自動的に取得する	IPアドレスの自動取得が可能な場合に選択します。 自動取得の可否については、2.2.1項を参照してください。	ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)	UPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムを使用する場合に選択します。ルータなどの機器が介在するシステムでIPアドレスを自動で取得することができます。	次のIPアドレスを使用する	イントラネットや固定IPの場合に，IPアドレスを指定します。ただし，インターネットでUPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムなどルータ等の機器が介在するシステム構成の場合，固定IPアドレスであっても，「ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)」の方を選択してください。IPアドレスは，半角数字のみ入力可能です。	回線再接続によるIPアドレス変更時，自動的にメール通知する	自動運転モード実施時，回線断による再接続で，サーバのIPアドレスが変更になった場合に，自動的に新しいIPアドレスを検出してクライアントに通知します。メール通知の場合は，トリガ条件成立時再送します。
	項目	内 容									
	IPアドレスを自動的に取得する	IPアドレスの自動取得が可能な場合に選択します。 自動取得の可否については、2.2.1項を参照してください。									
	ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)	UPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムを使用する場合に選択します。ルータなどの機器が介在するシステムでIPアドレスを自動で取得することができます。									
次のIPアドレスを使用する	イントラネットや固定IPの場合に，IPアドレスを指定します。ただし，インターネットでUPnP対応ルータ，ルータタイプADSLモデムなどルータ等の機器が介在するシステム構成の場合，固定IPアドレスであっても，「ルータからIPアドレスを取得する (UPnP)」の方を選択してください。IPアドレスは，半角数字のみ入力可能です。										
回線再接続によるIPアドレス変更時，自動的にメール通知する	自動運転モード実施時，回線断による再接続で，サーバのIPアドレスが変更になった場合に，自動的に新しいIPアドレスを検出してクライアントに通知します。メール通知の場合は，トリガ条件成立時再送します。										

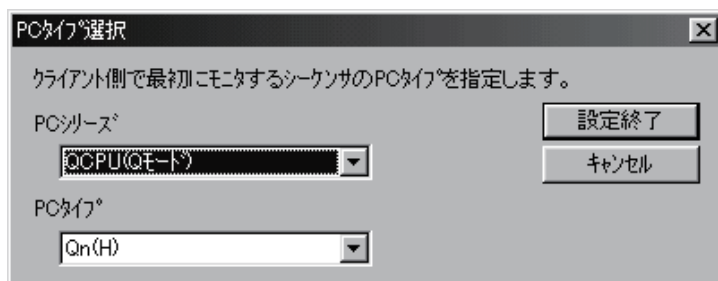
(次ページへつづく)

(前ページより)

項 目	内 容												
「ダイヤルアップ接続」選択時 “詳細設定” ボタン	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダイヤルアップ 接続名</td><td>ダイヤルアップ設定で設定した接続名を選択してください。表示文字数は半角16文字までです。</td></tr> <tr> <td>リダイヤル オプション</td><td>回線切断時にプロバイダへ再接続するときのリダイヤル回数、リダイヤルを行う間隔および変更されたIPアドレスをメール通知するかどうかを設定します。 回数：0～99以内で設定してください。 間隔：0～999以内で設定してください。</td></tr> <tr> <td>回線未使用時の 回線切断時間</td><td>一定時間サーバ（パソコン）にアクセスがない場合、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。</td></tr> <tr> <td>回線切断時間</td><td>一定時間経過後、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。</td></tr> <tr> <td>クライアント側 によるダイヤル アップ接続の切 断を許可する</td><td>i モード対応携帯電話によるサーバ（パソコン）のダイヤルアップ切断を許可します。 回線切断を実行した i モード対応携帯電話以外は、予告なく回線が切断されサーバ（パソコン）と通信できなくなります。</td></tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	ダイヤルアップ 接続名	ダイヤルアップ設定で設定した接続名を選択してください。表示文字数は半角16文字までです。	リダイヤル オプション	回線切断時にプロバイダへ再接続するときのリダイヤル回数、リダイヤルを行う間隔および変更されたIPアドレスをメール通知するかどうかを設定します。 回数：0～99以内で設定してください。 間隔：0～999以内で設定してください。	回線未使用時の 回線切断時間	一定時間サーバ（パソコン）にアクセスがない場合、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。	回線切断時間	一定時間経過後、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。	クライアント側 によるダイヤル アップ接続の切 断を許可する	i モード対応携帯電話によるサーバ（パソコン）のダイヤルアップ切断を許可します。 回線切断を実行した i モード対応携帯電話以外は、予告なく回線が切断されサーバ（パソコン）と通信できなくなります。
項 目	内 容												
ダイヤルアップ 接続名	ダイヤルアップ設定で設定した接続名を選択してください。表示文字数は半角16文字までです。												
リダイヤル オプション	回線切断時にプロバイダへ再接続するときのリダイヤル回数、リダイヤルを行う間隔および変更されたIPアドレスをメール通知するかどうかを設定します。 回数：0～99以内で設定してください。 間隔：0～999以内で設定してください。												
回線未使用時の 回線切断時間	一定時間サーバ（パソコン）にアクセスがない場合、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。												
回線切断時間	一定時間経過後、ダイヤルアップ接続を切断します。 時間：0～99以内で設定してください。 分：0～59以内で設定してください。 ただし、0時間0分は設定できません。												
クライアント側 によるダイヤル アップ接続の切 断を許可する	i モード対応携帯電話によるサーバ（パソコン）のダイヤルアップ切断を許可します。 回線切断を実行した i モード対応携帯電話以外は、予告なく回線が切断されサーバ（パソコン）と通信できなくなります。												
MELSOFT接続用HTTPポート番号	「ポート番号を指定する」を選択した場合、1024～65535内で設定してください。 ただし、動作環境がWebサーバユニットの場合、ポート番号は8080が固定となります。												
Web機能用HTTPポート番号	「ポート番号を指定する」を選択した場合、1024～65536内で設定してください。 ただし、動作環境がWebサーバユニットの場合、Webサーバユニットの[管理メニュー]－[システム設定]を使用して設定してください。 設定方法についての詳細は、Webサーバユニットユーザズマニュアル(詳細編)を参照してください。												

6.3.4 PCタイプ選択

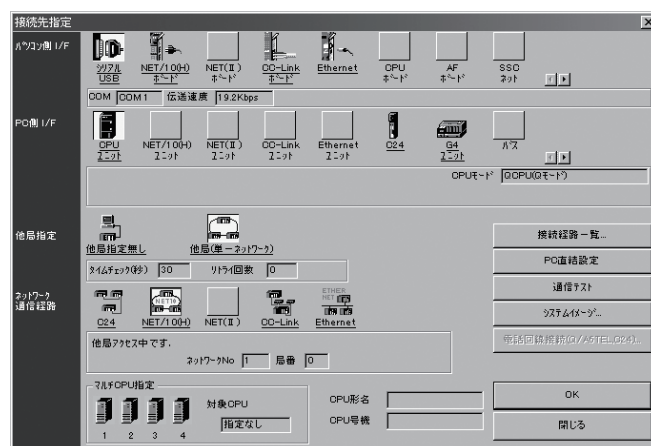
PCタイプは、iモード対応携帯電話から最初にアクセスするシーケンサのPCシリーズ、PCタイプを設定します。




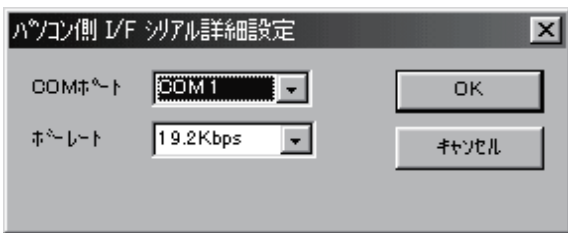
項 目	内 容																															
PCシリーズ PCタイプ	<p>i モード対応携帯電話にて最初にアクセスするシーケンサのPCシリーズ、PCタイプを選択、変更する場合に設定します。</p> <table><thead><tr><th>PCシリーズ</th><th>PCタイプ</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">ACPU</td><td>AnN, AnA, AnS, AnSH</td><td>A0J2H, A1FX, A1S, A1SJ, A1SH, A1SJH, A1N, A2C, A2CJ, A2N(S1), A2S, A2SH, A3N, A2A(S1), A3A</td></tr><tr><td>AnU, AnUS, AnUSH</td><td>A2U(S1), A2US(S1), A2USH-S1, A3U, A4U</td></tr><tr><td>QnACPU</td><td>—</td><td>Q2A, Q2AS(H), Q2AS1, Q2AS(H)S1, Q3A, Q4A, Q4AR</td></tr><tr><td rowspan="2">QCPU(Qモード)</td><td>Qn(H)</td><td>Q02(H), Q06H, Q12H, Q12PH, Q25H, Q25PH</td></tr><tr><td>Q00J, Q00, Q01</td><td>Q00J, Q00, Q01</td></tr><tr><td>QCPU(Aモード)</td><td>—</td><td>Q02(H)-A, Q06H-A</td></tr><tr><td rowspan="4">モーションコントローラ(SCPU)</td><td>A171SH</td><td>A171SH</td></tr><tr><td>A172SH</td><td>A172SH</td></tr><tr><td>A173UH(S1)</td><td>A173UH(S1)</td></tr><tr><td>A273UH(S3)</td><td>A273UH(S3)</td></tr><tr><td>FXCPU</td><td>—</td><td>FX0(S), FX0N, FX1, FX1S, FX1N(C), FX2(C), FX2N(C)</td></tr></tbody></table>	PCシリーズ	PCタイプ	備考	ACPU	AnN, AnA, AnS, AnSH	A0J2H, A1FX, A1S, A1SJ, A1SH, A1SJH, A1N, A2C, A2CJ, A2N(S1), A2S, A2SH, A3N, A2A(S1), A3A	AnU, AnUS, AnUSH	A2U(S1), A2US(S1), A2USH-S1, A3U, A4U	QnACPU	—	Q2A, Q2AS(H), Q2AS1, Q2AS(H)S1, Q3A, Q4A, Q4AR	QCPU(Qモード)	Qn(H)	Q02(H), Q06H, Q12H, Q12PH, Q25H, Q25PH	Q00J, Q00, Q01	Q00J, Q00, Q01	QCPU(Aモード)	—	Q02(H)-A, Q06H-A	モーションコントローラ(SCPU)	A171SH	A171SH	A172SH	A172SH	A173UH(S1)	A173UH(S1)	A273UH(S3)	A273UH(S3)	FXCPU	—	FX0(S), FX0N, FX1, FX1S, FX1N(C), FX2(C), FX2N(C)
PCシリーズ	PCタイプ	備考																														
ACPU	AnN, AnA, AnS, AnSH	A0J2H, A1FX, A1S, A1SJ, A1SH, A1SJH, A1N, A2C, A2CJ, A2N(S1), A2S, A2SH, A3N, A2A(S1), A3A																														
	AnU, AnUS, AnUSH	A2U(S1), A2US(S1), A2USH-S1, A3U, A4U																														
QnACPU	—	Q2A, Q2AS(H), Q2AS1, Q2AS(H)S1, Q3A, Q4A, Q4AR																														
QCPU(Qモード)	Qn(H)	Q02(H), Q06H, Q12H, Q12PH, Q25H, Q25PH																														
	Q00J, Q00, Q01	Q00J, Q00, Q01																														
QCPU(Aモード)	—	Q02(H)-A, Q06H-A																														
モーションコントローラ(SCPU)	A171SH	A171SH																														
	A172SH	A172SH																														
	A173UH(S1)	A173UH(S1)																														
	A273UH(S3)	A273UH(S3)																														
FXCPU	—	FX0(S), FX0N, FX1, FX1S, FX1N(C), FX2(C), FX2N(C)																														
PCシリーズ PCタイプ	<p>現在設定されているPCシリーズ、PCタイプ以外を選択した場合は、確認のため下記ダイアログボックスを表示します。</p> <div></div> <p><input type="button" value="はい"/> ボタンをクリックすると下記の設定、表示を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none">・PCタイプの変更。・接続先指定をシーケンサCPU直結の経路に変更。・デバイス範囲設定をデフォルト値に変更。・タグ設定をデフォルト値に変更。・自動運転設定をデフォルト値に変更。 <p><input type="button" value="いいえ"/> ボタンをクリックすると、設定の変更はされません。</p>																															

6.3.5 接続先指定

サーバ（パソコン）とシーケンサ間の接続先指定を設定します。
また、iモード対応携帯電話で最初にアクセスするシーケンサの設定にもなります。

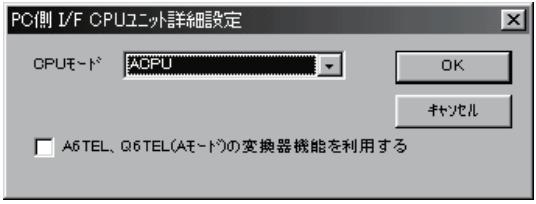
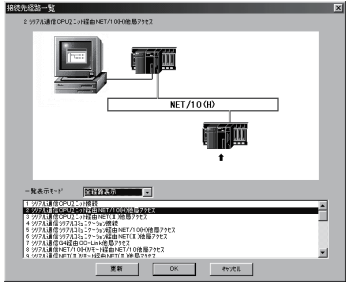

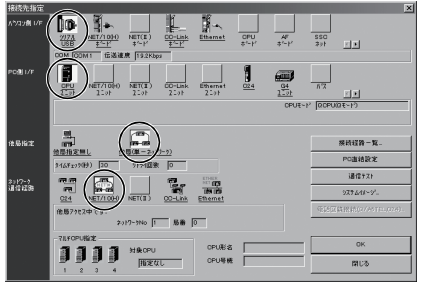


(1) 自局にアクセスする場合

項目	内容
パソコン側I/F	<p>Qシリーズ時</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・USBはQCPU (Qモード) 選択時のみ設定できます。 ・115.2/57.6kbpsで通信する場合の注意事項 使用するサーバ（パソコン）が、115.2/57.6kbpsの通信速度に対応していないと高速通信できません。 交信リトライが発生し交信が遅くなる、または通信エラーが発生した場合は、ボーレートの設定をさげて再度通信を行ってください。 ・USB通信する場合の注意事項 GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください <p>QnA/A/FXシリーズ</p> 

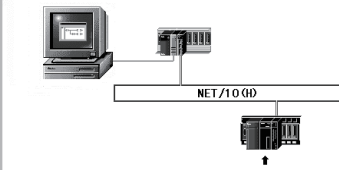
(次ページへつづく)

(前ページより)

項 目	内 容
パソコン側I/F	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボーレートは、PCシリーズ、PCタイプによって選択できる数値が異なります。 ・ Aシリーズ時は9.6kbpsを選択してください。 ・ QnAシリーズ時、通信速度38.4kbpsで通信できるシーケンサCPUは、QnACPUの機能バージョンB以降のCPUです。ユニットのバージョンの見方については、GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください。 ・ A6TELを変換器として使用する場合は、GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください。
PC側I/F	<p>GX RemoteService-Iと接続するシーケンサCPUのPCシリーズを選択してください。</p> 
他局指定	<p>他局指定なし ケーブルで接続したシーケンサCPUに対して交信する場合に選択してください。</p> <p>他局（単一ネットワーク） MELECNET/10のみまたは、Ethernetのみなど1種類のネットワークおよび多階層システムで構成されているシステムのことです。（EthernetはMELSECNET/10とみなしますのでMELSECNET/10とEthernetの混在システム時は単一ネットワークを指定してください。）</p> <p>シーケンサCPUと交信でタイムアウトなどのエラーが発生する場合は、交信タイムチェックの時間を長く設定してください。</p> <p>エラーが表示されるまでの最大の時間は下記で求められます。 $(\text{交信タイムチェックの指定時間}) \times 3 \times (\text{リトライ回数の指定回数} + 1)$ 例えば、交信タイムチェックの指定を30秒、リトライ回数の指定を0回に指定している場合は、$(30\text{秒}) \times 3 \times (0 + 1) = 90\text{秒}$となり最大90秒後にエラー表示されます。</p> <p>回路モニタ中にシーケンサCPUの電源断、ハードウェアリセットなどを行った場合、交信エラーが表示されるまでの間、時間がかかります。</p> <p>エラーが表示されるまでの間モニタステータスは実行中を表示します。</p>
ネットワーク通信経路	<p>アクセスするネットワーク種別、ネットワークNo.、局番、先頭I/ONo.を選択します。</p> <p>設定項目は、設定したネットワーク種別により異なります。</p>
マルチCPU設定	<p>アクセス先がマルチCPUの場合に指定します。</p>
接続経路一覧	<p>接続先経路一覧を見ながら接続先を設定することができます。</p> <p>OK ボタンをクリックすると、接続先指定の画面に接続経路が自動的に設定されるため、複雑なシステムが構築されている場合でも、簡単に設定できます。</p> <p>ネットワークNo.、局番などの設定はアクセス先に応じて任意に設定してください。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin: 0 20px; text-align: center;">  <p>OK ボタンを クリック</p> </div>  </div>

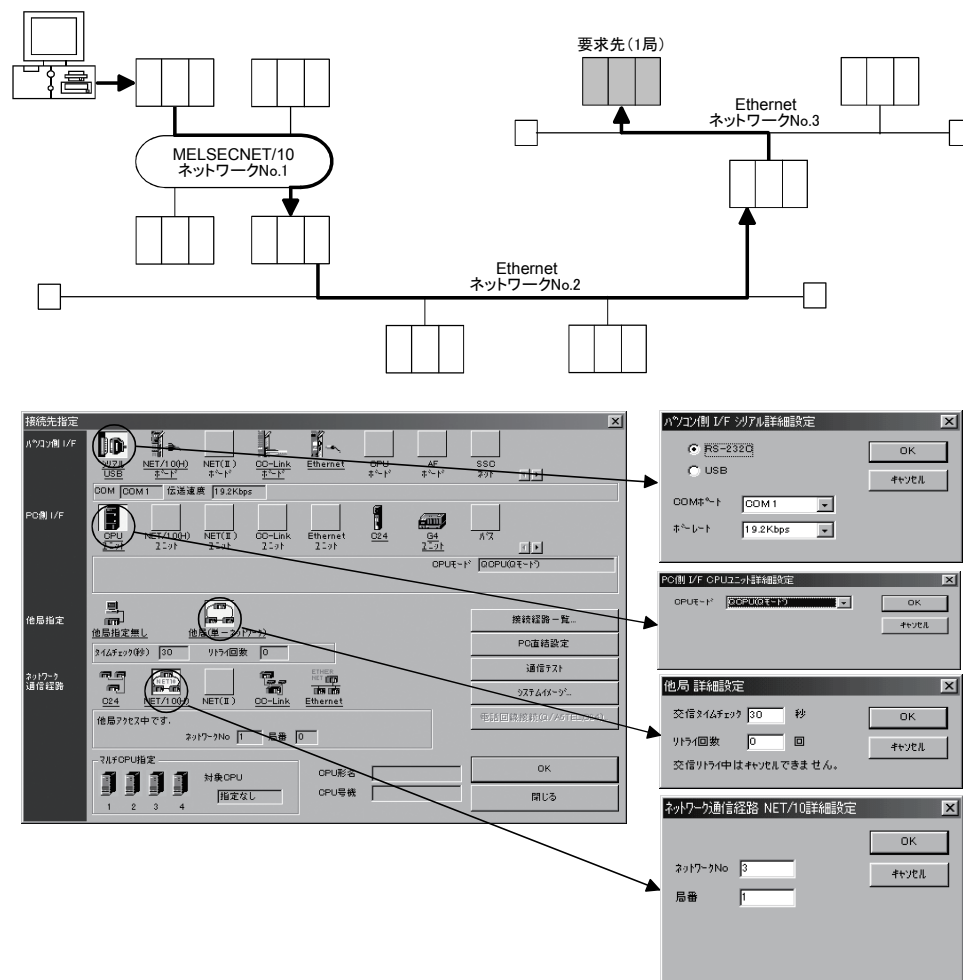
(次ページへつづく)

(前ページより)

項 目	内 容								
接続経路一覧	<div><div><div>OK</div></div><div>ボタンをクリックすると接続先指定画面に接続経路（○で囲んだ部分）が自動的に設定されます。</div><div>表示切り替えについて</div><div>絞り込み表示の便利な使い方</div><div>接続先指定画面でパソコン側I/FとPC側I/Fを指定して、絞り込み表示を選択すると、他局指定、ネットワーク通信経路、異種ネットワーク通信経路でアクセス可能な範囲の経路のみを表示します。</div><div>シリーズが異なるシステム構成一覧も表示できます。</div></div> <table><thead><tr><th>要求元</th><th>サーバ(パソコン)接続シーケンサ</th><th>アクセス先</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">サーバ(パソコン)</td><td rowspan="3">QCPU (Qモード)</td><td>Qシリーズ</td></tr><tr><td>QnAシリーズ</td></tr><tr><td>Aシリーズ</td></tr></tbody></table> <div><div>接続先経路一覧</div><div>22: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でNET/10QD経由でアクセス</div><div></div><div>一覧表示モード: 全経路表示</div><div><div>18: 本局ネットワーク経由でアクセス可能な経路</div><div>19: 本局ネットワーク経由でアクセス可能な経路</div><div>20: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>21: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>22: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>23: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>24: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>25: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>26: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>27: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>28: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>29: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>30: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>31: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>32: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>33: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>34: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>35: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>36: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>37: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>38: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>39: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>40: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>41: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>42: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>43: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>44: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>45: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>46: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>47: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>48: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>49: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>50: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>51: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>52: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>53: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>54: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>55: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>56: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>57: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>58: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>59: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>60: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>61: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>62: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>63: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>64: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>65: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>66: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>67: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>68: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>69: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>70: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>71: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>72: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>73: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>74: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>75: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>76: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>77: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>78: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>79: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>80: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>81: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>82: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>83: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>84: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>85: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>86: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>87: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>88: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>89: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>90: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>91: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>92: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>93: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>94: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>95: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>96: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>97: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>98: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>99: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div><div>100: シリアル通信CPU2とHIO-CPU-0経由でアクセス可能な経路</div></div><div>更新 OK キャンセル</div></div>	要求元	サーバ(パソコン)接続シーケンサ	アクセス先	サーバ(パソコン)	QCPU (Qモード)	Qシリーズ	QnAシリーズ	Aシリーズ
要求元	サーバ(パソコン)接続シーケンサ	アクセス先							
サーバ(パソコン)	QCPU (Qモード)	Qシリーズ							
		QnAシリーズ							
		Aシリーズ							
PC直結設定	他局指定から、自局指定に変更する場合に便利です。								
通信テスト	接続先指定画面で設定したアクセス先のシーケンサCPUに対して、正常にアクセスできるかをテストします。 正常にアクセスできる場合は、アクセス先のシーケンサCPUの形名をCPU形名表示欄に表示します。								
システムイメージ	設定した接続先経路をイラストで示します。								
電話回線接続 (Q/A6TEL, C24)	設定できません。								

ポイント

MELSECNET/10とEthernetの混在システム時の画面設定（単一ネットワーク）
 MELSECNET/10とEthernetが混在するシステム構成時、他局にアクセスする場合は、
 単一ネットワークを指定します。（EthernetはMELSECNET/10相当であるため）
 下記システム構成（Q/QnAのみ）に対して、接続先指定の設定画面例を示します。



他局接続、多階層システムへのアクセス時は、接続先指定のほかに、ルーティングパラメータの設定が必要です。

ポイント

サーバ（パソコン）とアクセスするシーケンサを、Ethernet、CC-Link、シリアルコミュニケーション経由で接続する場合は、GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください。

6.3.6 デバイス範囲設定

シーケンサCPUより最初に読み出すデバイス名、点数などについて説明します。

画面例

Qn (H) CPU選択時

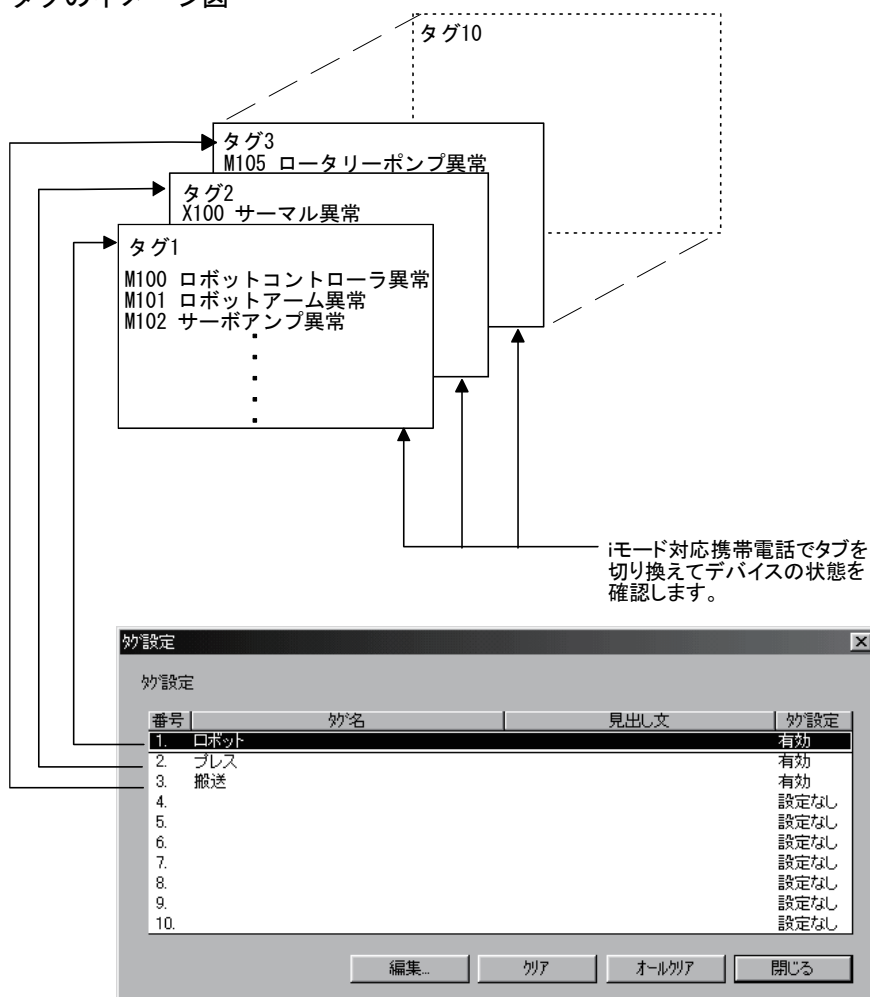
ACPU選択時 (AnU, AnUS, AnUSHCPU)

項 目	内 容												
デバイス	デバイス+デバイスNo. で設定してください。												
点数	1点, 16点, 32点, 64点, 128点, 256点のいずれかを設定してください。												
プログラム名	T/Cをモニタする場合のプログラム名を設定します。												
対象メモリ	<p>Qn (H) CPU, QnACPUを設定している場合, 下記のメモリの中から選択してください。 Qn (H) CPU, QnACPU以外のPCシリーズを設定している場合は, 設定できません。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Qn (H) CPU</th><th>QnACPU</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プログラム/デバイスメモリ</td><td>内蔵 RAM/デバイスメモリ</td></tr> <tr> <td>メモリカード (RAM)</td><td>ICメモリカードA (RAM)</td></tr> <tr> <td>メモリカード (ROM)</td><td>ICメモリカードA (ROM)</td></tr> <tr> <td>標準RAM</td><td>ICメモリカードB (RAM)</td></tr> <tr> <td>標準ROM</td><td>ICメモリカードB (ROM)</td></tr> </tbody> </table>	Qn (H) CPU	QnACPU	プログラム/デバイスメモリ	内蔵 RAM/デバイスメモリ	メモリカード (RAM)	ICメモリカードA (RAM)	メモリカード (ROM)	ICメモリカードA (ROM)	標準RAM	ICメモリカードB (RAM)	標準ROM	ICメモリカードB (ROM)
Qn (H) CPU	QnACPU												
プログラム/デバイスメモリ	内蔵 RAM/デバイスメモリ												
メモリカード (RAM)	ICメモリカードA (RAM)												
メモリカード (ROM)	ICメモリカードA (ROM)												
標準RAM	ICメモリカードB (RAM)												
標準ROM	ICメモリカードB (ROM)												
コメントデータ	<p>i モード対応携帯電話で表示, 検索するコメントデータ名を設定します。 Qn (H) CPU, QnACPU以外のPCシリーズを設定している場合は, “COMMENT” 固定になります。</p>												
コメント種別	<p>i モード対応携帯電話で表示, 検索するコメントデータ名を設定します。 PCシリーズでQn (H) CPU, QnACPUを設定している場合は設定不要です。</p>												

6.3.7 タグ設定

タグを設定すると、読み出したい異なる種類のデバイス（最大10種類）をまとめてiモード対応携帯電話に表示できます。

タグのイメージ図



項 目	内 容																																																							
タグ名	半角1～16文字以内で設定してください。																																																							
見出し文	半角0～64文字以内で設定してください。																																																							
タグ設定	タグの設定状態を表示します。																																																							
“編集” ボタン	<div><div>タグ詳細設定 1/10</div><div><div>タグ名</div><div>生産ラインの状態</div></div><div><div>見出し文</div><div>Aライン</div></div><div><input checked="" type="checkbox"/> タグ設定有効</div><table><thead><tr><th></th><th>デバイス名</th><th>表示形式</th><th>表示名称</th><th>プログラム名</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>D0</td><td>10進</td><td>生産個数</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>D2</td><td>10進</td><td>温度</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>T100</td><td>10進</td><td>監視タイマ</td><td>MAIN</td></tr><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table><div><div>設定終了</div><div>キャンセル</div></div></div>		デバイス名	表示形式	表示名称	プログラム名	1	D0	10進	生産個数		2	D2	10進	温度		3	T100	10進	監視タイマ	MAIN	4					5					6					7					8					9					10				
	デバイス名	表示形式	表示名称	プログラム名																																																				
1	D0	10進	生産個数																																																					
2	D2	10進	温度																																																					
3	T100	10進	監視タイマ	MAIN																																																				
4																																																								
5																																																								
6																																																								
7																																																								
8																																																								
9																																																								
10																																																								
	<table><thead><tr><th>項 目</th><th>内 容</th></tr></thead><tbody><tr><td>タグ名</td><td>半角1～16文字以内で設定してください。</td></tr><tr><td>見出し文</td><td>半角0～64文字以内で設定してください。</td></tr><tr><td>タグ設定</td><td>タグ機能を有効にする場合はチェックしてください。</td></tr><tr><td>デバイス名</td><td>デバイス+デバイスNo. で設定してください。</td></tr><tr><td>表示形式</td><td>10/16進数を設定してください。 ビットデバイスは設定できません。</td></tr><tr><td>表示名称</td><td>i モード対応携帯電話で表示するデバイス名称を設定します。 半角1～32文字以内で設定してください。</td></tr><tr><td>プログラム名</td><td>デバイス名にT/Cを設定した場合、参照するプログラム名を設定してください。</td></tr></tbody></table>	項 目	内 容	タグ名	半角1～16文字以内で設定してください。	見出し文	半角0～64文字以内で設定してください。	タグ設定	タグ機能を有効にする場合はチェックしてください。	デバイス名	デバイス+デバイスNo. で設定してください。	表示形式	10/16進数を設定してください。 ビットデバイスは設定できません。	表示名称	i モード対応携帯電話で表示するデバイス名称を設定します。 半角1～32文字以内で設定してください。	プログラム名	デバイス名にT/Cを設定した場合、参照するプログラム名を設定してください。																																							
項 目	内 容																																																							
タグ名	半角1～16文字以内で設定してください。																																																							
見出し文	半角0～64文字以内で設定してください。																																																							
タグ設定	タグ機能を有効にする場合はチェックしてください。																																																							
デバイス名	デバイス+デバイスNo. で設定してください。																																																							
表示形式	10/16進数を設定してください。 ビットデバイスは設定できません。																																																							
表示名称	i モード対応携帯電話で表示するデバイス名称を設定します。 半角1～32文字以内で設定してください。																																																							
プログラム名	デバイス名にT/Cを設定した場合、参照するプログラム名を設定してください。																																																							
“クリア” ボタン	選択しているタグをクリアします。																																																							
“オールクリア” ボタン	タグをすべてクリアします。																																																							

6.3.8 自動運転設定

自動運転をする場合、電子メールを送るトリガ条件の設定や電子メールのメッセージなどを設定します。

自動運転設定

モニタ時間間隔 30 秒

番号	見出し文	監視設定
1.	A工場 Aライン	監視する
2.	A工場 Bライン	監視する
3.		設定なし
4.		設定なし
5.		設定なし
6.		設定なし
7.		設定なし
8.		設定なし
9.		設定なし
10.		設定なし

番号が若いほど優先度が高くなります。

編集... クリア オールクリア 閉じる

項 目	内 容																																																																																				
モニタ間隔時間	30～9999秒の範囲で設定してください。																																																																																				
見出し文	半角0～64文字以内で設定してください。																																																																																				
監視設定	監視設定の設定状態を表示します。																																																																																				
“編集” ボタン	<div><div>自動運転設定詳細 1/10</div><div><div><div><div><input checked="" type="checkbox"/> 監視する</div><div>見出し文</div><div>A工場 Aライン</div></div><div><div>送信先設定...</div></div></div><div><div>トリガ条件</div><div><div><div><input type="radio"/> ワードデバイス</div><div>M</div><div>1000</div><div>ON</div></div><div><div><input checked="" type="radio"/> ビットデバイス</div><div>値</div><div>103進</div><div></div></div></div></div><div><div>メッセージの件名</div><div>ロボットに異常発生</div></div><div><div>メッセージの本文</div><div>Aラインのロボットに異常が発生しました。 システムの確認をしてください。</div></div></div><div><table><tr><th></th><th>メール</th><th>送信先電子メールアドレス</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td><input type="checkbox"/></td><td>aaa@bbb.co.jp</td><td>A社 A氏</td></tr><tr><td>2</td><td><input type="checkbox"/></td><td>bbb@bbb.co.jp</td><td>A社 B氏</td></tr><tr><td>3</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>6</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>8</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>9</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>10</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>11</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>12</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>13</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>14</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>15</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>16</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>17</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>18</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>19</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr><tr><td>20</td><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr></table><div><div>設定終了</div><div>キャンセル</div></div></div></div>		メール	送信先電子メールアドレス	備考	1	<input type="checkbox"/>	aaa@bbb.co.jp	A社 A氏	2	<input type="checkbox"/>	bbb@bbb.co.jp	A社 B氏	3	<input type="checkbox"/>			4	<input type="checkbox"/>			5	<input type="checkbox"/>			6	<input type="checkbox"/>			7	<input type="checkbox"/>			8	<input type="checkbox"/>			9	<input type="checkbox"/>			10	<input type="checkbox"/>			11	<input type="checkbox"/>			12	<input type="checkbox"/>			13	<input type="checkbox"/>			14	<input type="checkbox"/>			15	<input type="checkbox"/>			16	<input type="checkbox"/>			17	<input type="checkbox"/>			18	<input type="checkbox"/>			19	<input type="checkbox"/>			20	<input type="checkbox"/>		
	メール	送信先電子メールアドレス	備考																																																																																		
1	<input type="checkbox"/>	aaa@bbb.co.jp	A社 A氏																																																																																		
2	<input type="checkbox"/>	bbb@bbb.co.jp	A社 B氏																																																																																		
3	<input type="checkbox"/>																																																																																				
4	<input type="checkbox"/>																																																																																				
5	<input type="checkbox"/>																																																																																				
6	<input type="checkbox"/>																																																																																				
7	<input type="checkbox"/>																																																																																				
8	<input type="checkbox"/>																																																																																				
9	<input type="checkbox"/>																																																																																				
10	<input type="checkbox"/>																																																																																				
11	<input type="checkbox"/>																																																																																				
12	<input type="checkbox"/>																																																																																				
13	<input type="checkbox"/>																																																																																				
14	<input type="checkbox"/>																																																																																				
15	<input type="checkbox"/>																																																																																				
16	<input type="checkbox"/>																																																																																				
17	<input type="checkbox"/>																																																																																				
18	<input type="checkbox"/>																																																																																				
19	<input type="checkbox"/>																																																																																				
20	<input type="checkbox"/>																																																																																				

(次ページへつづく)

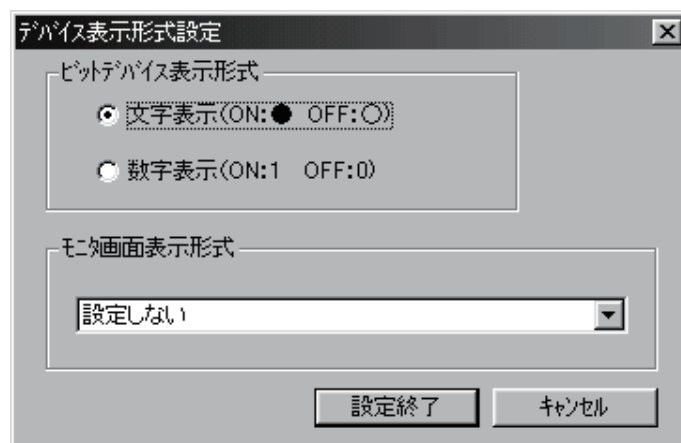
(前ページより)

項 目	内 容																										
“編集” ボタン	<table border="1"> <tr> <th>項 目</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>監視する</td><td>監視する場合はチェックしてください。</td></tr> <tr> <td>見出し文</td><td>1～64文字で設定します。</td></tr> <tr> <td>トリガ条件</td><td> ビットデバイス、ワードデバイスのトリガ条件を設定します。 D33の現在値が100の場合の条件成立例を示します。 <table border="1"> <tr> <th>表 示</th><th>説 明</th></tr> <tr> <td>=</td><td>100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><</td><td>～99のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>></td><td>101～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><=</td><td>～100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>>=</td><td>100～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><></td><td>100以外のときに条件成立</td></tr> </table> </td></tr> <tr> <td>メッセージの件名</td><td rowspan="3">6. 3. 2項を参照してください。</td></tr> <tr> <td>メッセージの本文</td></tr> <tr> <td>“送信先設定” ボタン</td></tr> </table>	項 目	内 容	監視する	監視する場合はチェックしてください。	見出し文	1～64文字で設定します。	トリガ条件	ビットデバイス、ワードデバイスのトリガ条件を設定します。 D33の現在値が100の場合の条件成立例を示します。 <table border="1"> <tr> <th>表 示</th><th>説 明</th></tr> <tr> <td>=</td><td>100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><</td><td>～99のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>></td><td>101～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><=</td><td>～100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>>=</td><td>100～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><></td><td>100以外のときに条件成立</td></tr> </table>	表 示	説 明	=	100のときに条件成立	<	～99のときに条件成立	>	101～のときに条件成立	<=	～100のときに条件成立	>=	100～のときに条件成立	<>	100以外のときに条件成立	メッセージの件名	6. 3. 2項を参照してください。	メッセージの本文	“送信先設定” ボタン
項 目	内 容																										
監視する	監視する場合はチェックしてください。																										
見出し文	1～64文字で設定します。																										
トリガ条件	ビットデバイス、ワードデバイスのトリガ条件を設定します。 D33の現在値が100の場合の条件成立例を示します。 <table border="1"> <tr> <th>表 示</th><th>説 明</th></tr> <tr> <td>=</td><td>100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><</td><td>～99のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>></td><td>101～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><=</td><td>～100のときに条件成立</td></tr> <tr> <td>>=</td><td>100～のときに条件成立</td></tr> <tr> <td><></td><td>100以外のときに条件成立</td></tr> </table>	表 示	説 明	=	100のときに条件成立	<	～99のときに条件成立	>	101～のときに条件成立	<=	～100のときに条件成立	>=	100～のときに条件成立	<>	100以外のときに条件成立												
表 示	説 明																										
=	100のときに条件成立																										
<	～99のときに条件成立																										
>	101～のときに条件成立																										
<=	～100のときに条件成立																										
>=	100～のときに条件成立																										
<>	100以外のときに条件成立																										
メッセージの件名	6. 3. 2項を参照してください。																										
メッセージの本文																											
“送信先設定” ボタン																											
“クリア” ボタン	選択した常時監視設定を削除します。																										
“オールクリア”ボタン	すべての常時監視設定を削除します。																										

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> 自動運転を開始する前に、トリガ条件で設定したデバイスが既に条件成立している場合は、自動運転を開始した直後に電子メールを送信します。 電子メールの送信は、トリガ条件で設定したデバイスの状態が、OFF→ON時に送信します。 一度電子メールを送信するとデバイスの状態がON→OFF→ONと変化するまで次の電子メールが送信されませんのでご注意ください。 自動運転中は、自動運転設定のモニタ時間間隔ごとに、トリガ条件のデバイスをモニタします。 トリガ条件の対象となるデバイスは、モニタ時間間隔以上経過後に状態が変化するようになっています。 (ビットデバイスのON/OFF, ワードデバイスの値の変化)

6.3.9 デバイス表示形式設定

i モード対応携帯電話でデバイスを読み出したとき、表示する形式を設定します。



項 目	内 容
ビットデバイス 表示形式	ビットデバイスの表示形式を選択してください。
モニタ画面表示形式	文字色と背景色の組み合わせを選択してください。

7. iモード対応携帯電話について

iモード対応携帯電話での設定項目、表示方法について説明します。

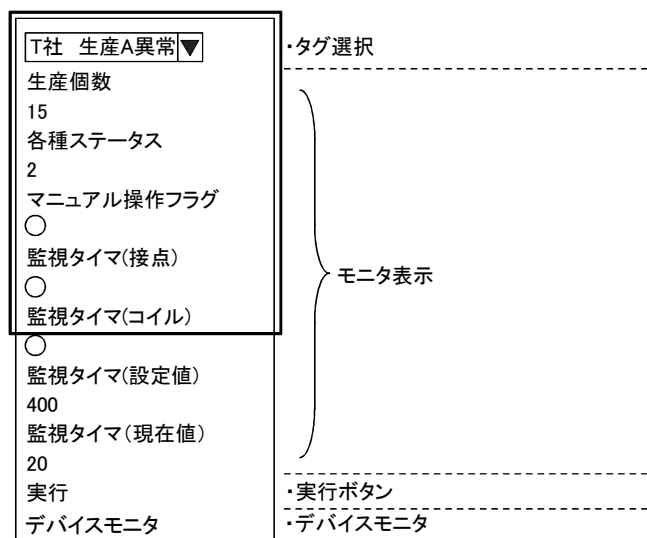
7.1 iモード対応携帯電話の設定項目一覧

電子メールに付加されるアドレスにアクセスすると、下記画面が表示されます。

接続先指定に戻る	・PCシリーズ、パソコン側I/F、PC側I/F、他局指定の設定をします。
サーバ側の回線接続設定を行う	・iモード対応携帯電話から回線を切る時間設定を行います。
シリアル通信CPUユニット経由シリアルコミュニケーション接続	・サーバ(パソコン)とシーケンサ間との接続形態を表示します。
パソコン側I/F	
COMポート	・サーバ(パソコン)で使用するポート、ボードの詳細設定をします。
<input type="text"/>	
ボーレート	
<input type="text"/>	
PC側 I/F	
C24詳細設定	
局番 <input type="text"/>	・シーケンサ側で使用するユニットの詳細設定をします。 (左記画面はシリアルコミュニケーションの画面例です。)
パリティ	
○ 奇数	
○ 偶数	
◎ なし	
他局指定	
交信タイムチェック	・交信タイムチェック: 1～9999の範囲で設定してください。
(秒) <input type="text"/>	・リトライ回数 : 0～5の範囲で設定してください。
リトライ回数 <input type="text"/>	
ネットワーク通信経路	・ユニットの先頭I/ONo., 局番, ネットワークNo.を設定します。
先頭 I/O <input type="text"/>	・PC側I/Fで選択するユニットによって設定項目が異なります。
局番 <input type="text"/>	
号機指定	
◎ なし	・マルチCPUを構成している場合、アクセスする号機No.を指定します。
○ 1	
○ 2	
○ 3	
○ 4	
表示形式	
◎ ワード多点10進	・iモード対応携帯電話で表示する形式を選択します。
○ ワード多点16進	
○ ビット多点	
○ コメント付10進	
○ コメント付16進	
○ コメント付2進	
デバイス	・読み出すデバイスと点数を設定します。
点数	
デバイスコメント検索	・デバイスコメントの検索キーワードを設定します。(32文字以内)
<input type="text"/>	
○ 上へ移動してモニタ	・読み出すデバイス範囲を再設定することなく表示する値を前後に切り換えます。
◎ 設定値でモニタ	
○ 下へ移動してモニタ	
実行	・実行するとシーケンサにアクセスします。

7.2 タグ表示をする

タグ表示画面について説明します。



項 目	内 容
タグ選択	タグの一覧から表示させたい選択します。
実行	タグ選択で選んだデバイスの一覧をモニタします。 なお、デバイスの読み出しは実行をクリックした状態を、i モード対応携帯電話に読み出します。 注：読み出したデバイスはリアルタイムに変化しません。
モニタ表示	TCの場合は、表示名称に(接点)，(コイル)，(設定値)，(現在値)が付加され表示されます。
デバイスモニタ	デバイスモニタのページに移動します。

7.3 デバイスをモニタする

デバイスの表示形式について説明します。

遠隔デバイスモニタ機能使用時のWebブラウザと携帯電話の表示例を下記に示します。

(a) ワード多点10進

<Webブラウザ>

CPU:Q25H D0-D15								
デバイス	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7
D0	19	124	101	87	0	0	1589	0
D8	12	0	25	0	0	65	0	0

<携帯電話>

CPU Q25H D0-D15		TOP		デバイスの値を表示	
D0	19	124		+0	+1
	101	87		+2	+3
	0	0		+4	+5
	1589	0		⋮	⋮
	12	0			
D10			TOP		
	25	0			
	0	65			

(b) ワード多点16進

<Webブラウザ>

CPU:Q00J D0-D15								
デバイス	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7
D0	0007	FFFF	0000	1234	0100	3CED	003E	EEFE
D8	0040	0002	0007	FFFF	0000	1234	0000	0000

<携帯電話>

CPU Q00J D0-D15		TOP	
D0	0007	FFFF	
	0000	1234	
	0100	3CED	
	003E	EEFE	
	0040	0002	
D10			TOP
	0007	FFFF	
	0000	1234	

● : デバイスON時 ○ : デバイスOFF時

(c) ビット多点

<Webブラウザ>

CPU:Q25H X0-XF				
デバイス	FEDC	BA98	7654	3210
X0	○○○○	○○○○	○○○○	○●●●

<携帯電話>

CPU Q25H X0-XF		TOP	
X0	○○○○○○○○		
	○○○○○○○○	●●●●	

● : デバイスON時 ○ : デバイスOFF時

(d) コメント付き10進

<Webブラウザ>

CPU:Q25H D0-D15		
デバイス	現在値	コメント
D0	19	Aライン生産状況
D1	124	Bライン生産状況
D2	101	Cライン生産状況
D3	87	Dライン生産状況
D4	0	
D5	0	
D6	1589	
D7	0	
D8	12	数量1
D9	0	数量2
D10	25	数量3
D11	0	数量4
D12	0	
D13	65	
D14	0	
D15	0	

<携帯電話>

CPU Q25H D0-D15		
D0	19	IOP
Aライン生産状況		
D1	124	IOP
Bライン生産状況		
D2	101	IOP
Cライン生産状況		
D3	87	IOP
Dライン生産状況		
D4	0	IOP

(e) コメント付き16進

<Webブラウザ>

CPU:Q00J D0-D15		
デバイス	現在値	コメント
D0	0013	Aライン生産状況
D1	007C	Bライン生産状況
D2	0065	Cライン生産状況
D3	0061	Dライン生産状況
D4	0000	
D5	0000	
D6	0000	
D7	0000	
D8	0000	
D9	0000	
D10	0000	
D11	0000	
D12	0000	
D13	0000	
D14	0000	
D15	0000	

● : デバイスON時 ○ : デバイスOFF時

<携帯電話>

CPU Q00J D0-D15		
D0	0013	IOP
Aライン生産状況		
D1	007C	IOP
Bライン生産状況		
D2	0065	IOP
Cライン生産状況		
D3	0061	IOP
Dライン生産状況		
D4	0000	IOP

(f) コメント付き2進

<Webブラウザ>

CPU:Q00J D0-D15					
デバイス	FEDC	BA98	7654	3210	コメント
D0	○○○○	○●●○	○●●○	○○●○	Aライン生産状況
D1	○○○○	○●●○	○●●○	○○●○	Bライン生産状況
D2	○○○○	○●●○	○●●○	○○●○	Cライン生産状況
D3	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	Dライン生産状況
D4	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D5	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D6	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D7	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D8	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D9	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D10	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D11	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D12	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D13	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D14	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
D15	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	

● : デバイスON時 ○ : デバイスOFF時

<携帯電話>

CPU Q00J D0-D15		
D0		IOP
Aライン生産状況		
D1		IOP
Bライン生産状況		
D2		IOP

7.4 サーバ（パソコン）の回線接続設定

i モード対応携帯電話にてサーバ（パソコン）の回線切断タイマの設定、回線の切断に説明します。

サーバー側の回線設定
回線切断までの時間 99:59:59

回線切断までの時間設定

時間 (0~99)

分 (0~59)

[接続先指定に戻る](#)

[サーバー側のダイヤルアップ切断の実行](#)

項 目	内 容
サーバ側の回線切断タイマ	回線切断までの時間を設定します。 本設定を実行する場合は、あらかじめダイヤルアップ設定画面で“クライアント側によるダイヤルアップ切断タイマ設定を許可する”を設定してください。
サーバ側のダイヤルアップ切断の実行	ダイヤルアップを切断します。

メ 毛

[illegible]

8. GX RemoteService-Iをまず使ってみよう! (Web機能)

ここでは8.1節で提示した条件を元にサーバ (パソコン) にGX RemoteService-Iの機能を設定して、iモード対応携帯電話でタグ表示、デバイス表示が確認できるまでの説明をしています。

8.1節は、GX RemoteService-Iの設定を説明します。

8.2節は、監視デバイスを変化させて、電子メールが届くまでの説明をします。

8.3節は、電子メールが届いてからサーバ (パソコン) を見る操作について説明します。

8.1 サーバ(パソコン)にGX RemoteService-Iを設定する

設定例の概要

(1) 電子メールを送信する条件の設定について

トリガ条件が成立したら、2人に対して電子メールを送信する設定をします。

- ・ M1000=ONで、「ロボット」の異常をA氏に通知する。
- ・ M1001=ONで、「プレス」の異常をB氏に通知する。

(2) iモード対応携帯電話で読み出すデバイスの設定について

- ・ システムの状態を確認するためのタグ設定(3件)を設定します。
- ・ システムの異常状態を確認するためのアナンシェータ (F) を最初に読み出しする設定としています。

条件

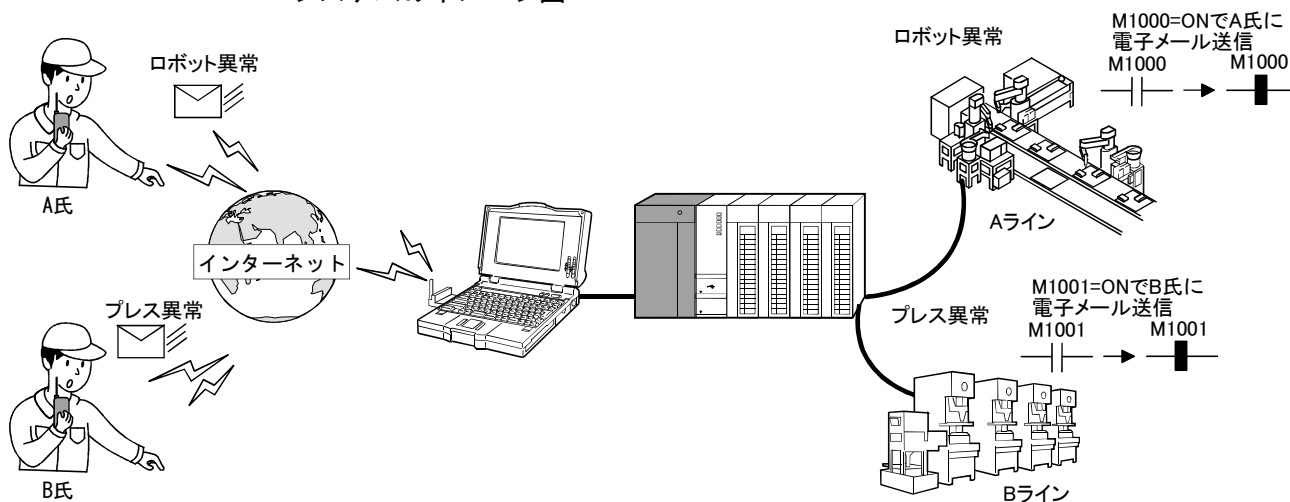
設定項目		設定
運転モード		自動運転モード
セキュリティ設定		なし
電子メール設定	送信メール(SMTP)サーバ	プロバイダから送付される「ご利用内容」などを参照して設定してください。
	受信メール(POP3)サーバ	
	アカウント名	
	パスワード	
	電子メールアドレス	
ネットワーク設定		接続名: LAN接続 回線再接続時のメール再通知: 実施しない
PCタイプ		QCPU(Qモード), Qn(H) CPU
接続先指定		シーケンサ直結
デバイス範囲設定	デバイス	F0 注: F0のコメントはあらかじめGX Developerで設定しシーケンサCPUに書き込んでおいてください。
	点数	16点
	プログラム名	MAIN
	対象メモリ	プログラムメモリ/デバイスメモリ
	コメントデータ名	COMMENT

(次ページへつづく)

(前ページより)

設定項目			設 定			
タグ設定			タグ名	デバイス名	表示形式	表示名称
			ロボット (タグ1)	M100	—	ロボットコントローラ異常
				M101	—	ロボットアーム異常
				M102	—	サーボアンプ異常
			プレス (タグ2)	X100	—	サーマル異常
				D100	10進数	冷却水圧力低下
				X130	—	金型異常
			搬送 (タグ3)	M105	—	ロータリーポンプ異常
				X150	—	ストッカーシリンダー異常
				D110	10進数	搬送モータ回転数
自動運転設定	1	見出し文	A工場 Aライン			
		トリガ条件	M1000 が ON			
		メッセージの件名	ロボットに異常発生			
		メッセージの本文	Aラインロボットに異常が発生しました。 システムを確認してください。			
		メール送信先	A氏 aaa@***.co.jp			
	2	見出し文	A工場 Bライン			
		トリガ条件	M1001 が ON			
		メッセージの件名	プレスに異常が発生			
		メッセージの本文	Bラインのロボットに異常が発生しました。 システムを確認してください。			
		メール送信先	B氏 bbb@***.ne.jp			
デバイス表示形式設定			文字表示 (ON:● OFF:○)			

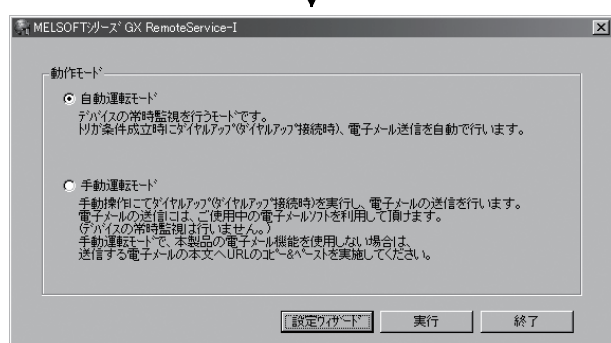
システムのイメージ図



(開始)



- ① GX RemoteService-Iを起動します。



- ② 自動運転モードを選択し、**設定ウィザード** ボタンをクリックします。



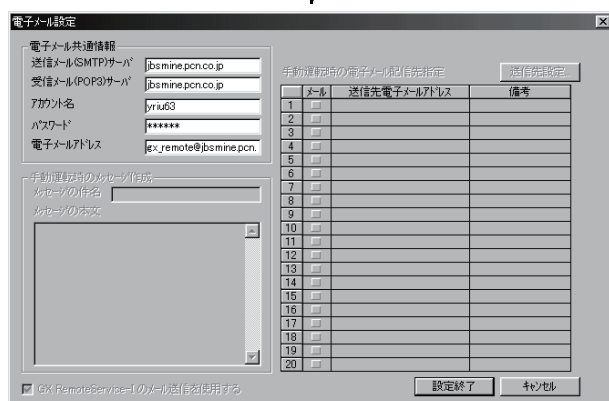
- ③ サーバへの不正アクセスを防止するためにセキュリティ設定を行います。
今回、セキュリティ設定は行いませんので、**次へ** ボタンをクリックします。



- ④ i モード対応携帯電話に報知するための電子メールの設定を行います。
電子メール設定 ボタンをクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)

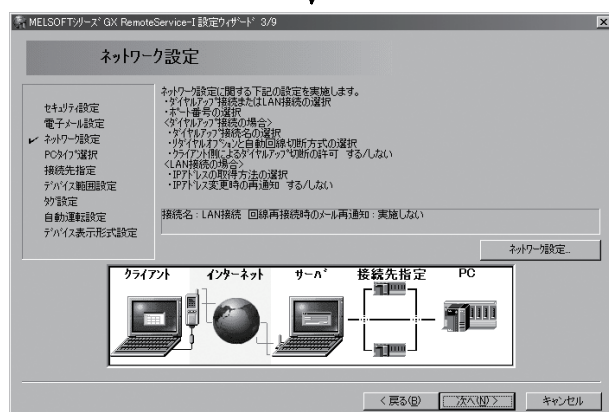


- ⑤ 電子メール共通情報を設定してください。
設定内容は、契約しているプロバイダの下記
内容を設定してください。
- ・送信メール(SMTP)サーバ ・アカウント名
 - ・受信メール(POP3)サーバ ・パスワード
 - ・電子メールアドレス

設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。

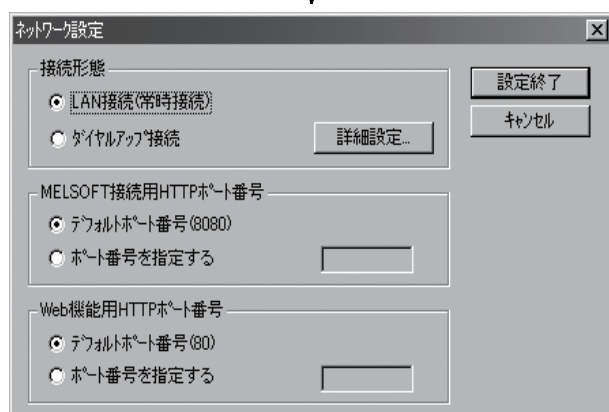
備 考

設定内容は、プロバイダから送付される「ご利用内容」などを見て設定してください。



- ⑥ ネットワークの設定を行います。

ネットワーク設定 ボタンをクリックします。



- ⑦ 接続形態/MELSOFT接続用HTTPポート番号/ Web機能用HTTPポート番号を設定します。

今回、LAN接続（常時接続）を選択して、**設定終了** ボタンをクリックします。

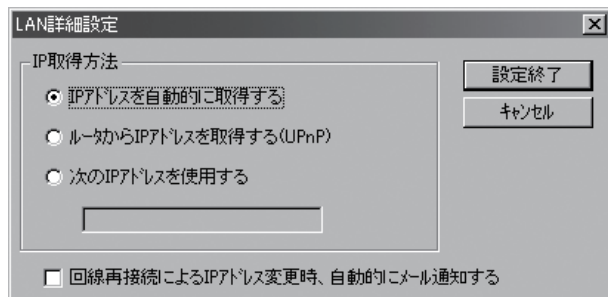
次ページに**詳細設定** ボタンをクリックした後の動作について説明します。

(次ページへ)

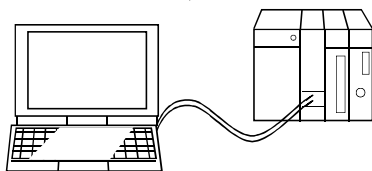
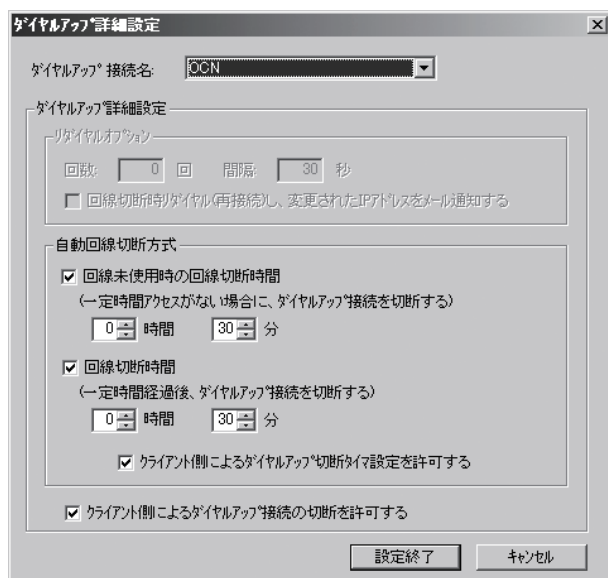
(前ページから)



- ・LAN接続(常時接続)を選択して、**詳細設定** ボタンをクリックした場合



- ・ダイヤルアップ接続を選択して、**詳細設定** ボタンをクリックした場合



(次ページへ)

IPアドレスの取得方法を選択します。

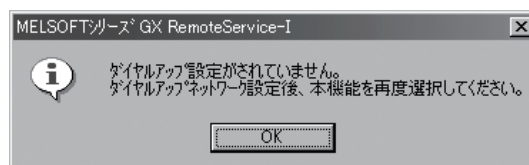
設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。
ネットワーク設定画面に戻ります。

ダイヤルアップの接続先名、回線の切断方式を設定します。

設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。
ネットワーク設定画面に戻ります。

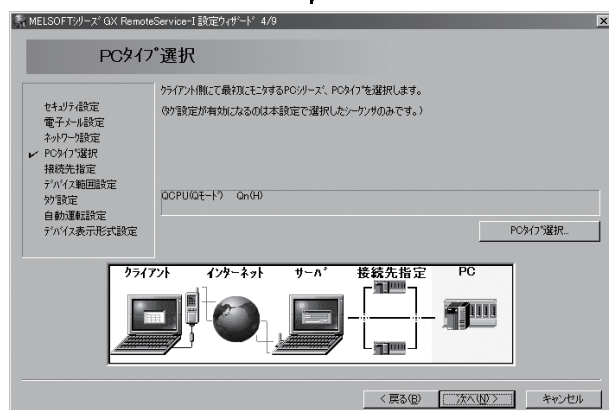
備 考

ダイヤルアップ接続の詳細設定を行うには、事前にWindows® のダイヤルアップ設定を必ず行ってください。設定されていない場合、下記画面が表示され、本製品のダイヤルアップ設定画面は開けません。



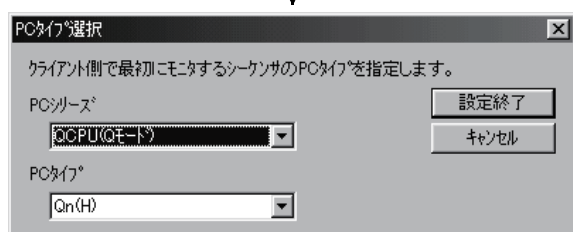
- ⑧ サーバ (パソコン) とシーケンサCPUを接続します。
シーケンサCPUには、M1000, M1001がONできるプログラムをあらかじめ用意しておいてください。

(前ページから)



⑨ i モード対応携帯電話で最初にアクセスするシーケンサCPUのPCシリーズ、PCタイプを設定します。

PCタイプ選択 ボタンをクリックします。



⑩ サーバ（パソコン）に接続するシーケンサCPUのPCシリーズ、PCタイプを選択します。

設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。



⑪ サーバ (パソコン) からシーケンサCPUまでの
接続経路を設定します。

接続先指定 ボタンをクリックします。



⑫ サーバ（パソコン）とシーケンサCPUを接続する経路を設定します。

設定が終わったら、**通信テスト** ボタンをクリックして通信テストを行ってください。
正常に通信が行われるとCPU形名表示欄にCPU形名が表示されます。

設定が終わったら **OK** ボタンをクリックします。

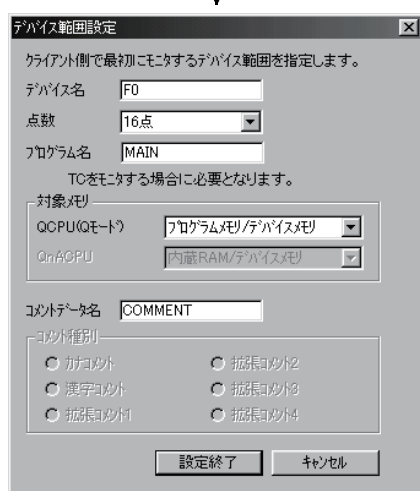
(次ページへ)

(前ページから)



- ⑬ i モード対応携帯電話でシーケンサCPUにアクセスしたときの最初に読み出すデバイス、点数、プログラム名を設定します。

デバイス範囲設定 ボタンをクリックします。



- ⑭ デバイス名 (F0)、点数 (16点)、プログラム名、(MAIN) を設定します。
対象メモリ、コメントについての詳細説明は 6.3.6項を参照してください。

設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。

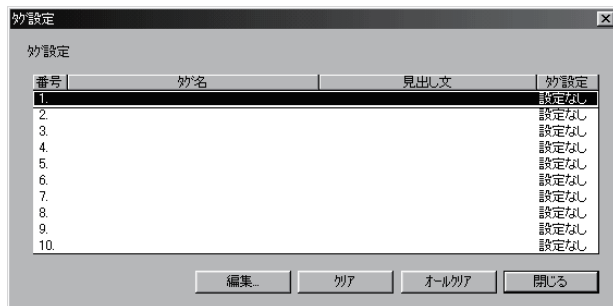


- ⑮ 異なる種類のデバイス (最大10種類) をまとめて i モード対応携帯電話に読み出せる設定をします。

タグ設定 ボタンをクリックします。

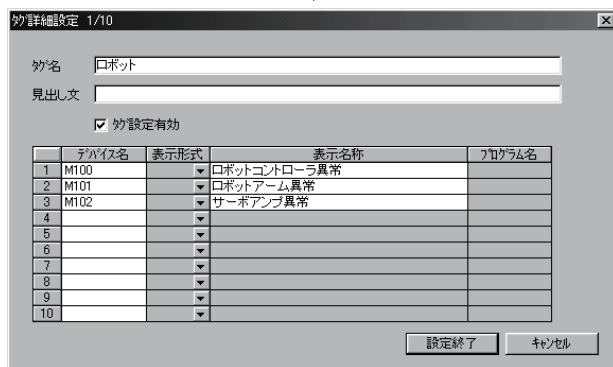
(次ページへ)

(前ページから)



- ⑩ 番号1を選択し **編集** ボタンをクリックします。

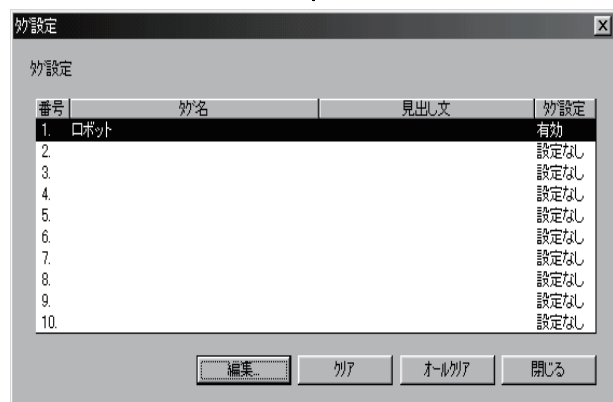
設定するタグは3つありますが、ここでの説明はタグ1の説明のみします。



- ⑪ タグ名、デバイス名、表示名称を設定してください。

設定が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。

(タグ2、タグ3は同じ要領で設定してください。)



- ⑫ タグ2、タグ3を編集する場合は、カーソルを番号2、3に移動させ **編集** ボタンをクリックします。

終了する場合は **閉じる** ボタンをクリックしてください。



- ⑬ システムを自動監視するための設定をします。

自動運転設定 ボタンをクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)

自動運転設定

モーター時間間隔 30 秒

番号	見出し文	監視設定
1.		設定なし
2.		設定なし
3.		設定なし
4.		設定なし
5.		設定なし
6.		設定なし
7.		設定なし
8.		設定なし
9.		設定なし
10.		設定なし

番号が若いほど優先度が高くなります。

編集... グリッド オールクリア 閉じる

- ②① 番号1を選択し **編集** ボタンをクリックします。

自動運転設定詳細 1/10

☒ 監視する 見出し文 A工場 Aライン

トリガ条件
☐ クラックデバイス M 1000 ON
☒ ビットデバイス 1000

メッセージの件名 ロボットに異常発生

メッセージの本文
 Aラインのロボットに異常が発生しました。
 システムの確認をお願いします。

メール	送信先電子メールアドレス	備考
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

設定終了 キャンセル

- ②② 監視, 見出し文, トリガ条件(M1000), メッセージの件名, メッセージの本文を設定します。
送信先設定 ボタンをクリックしてください。

送信先設定

送信先電子メールアドレス	備考	メール	監視1	監視2	監視3	監視4	監視5
1 aaa@***.co.jp							
2 bbb@***.ne.jp							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

行先へ 行先へ 行先へ 全て削除 設定終了 キャンセル

- ②③ 送信先電子メールアドレスを設定します。
 監視1にA氏を設定します。
 設定が終わったら, **設定終了** ボタンをクリックします。

自動運転設定詳細 1/10

☒ 監視する 見出し文 A工場 Aライン

トリガ条件
☐ クラックデバイス M 1000 ON
☒ ビットデバイス 1000

メッセージの件名 A工場 Aライン

メッセージの本文
 Aラインのロボットに異常が発生しました。
 システムの確認をお願いします。

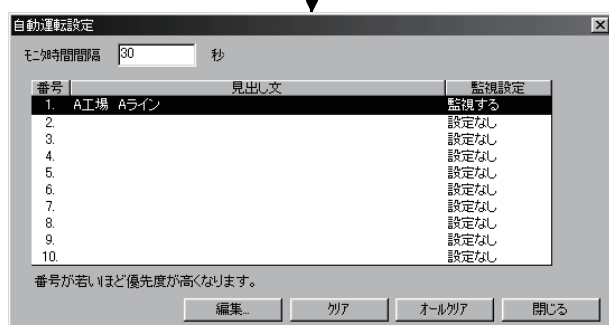
メール	送信先電子メールアドレス	備考
1	aaa@bbb.co.jp	
2	bbb@bbb.co.jp	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

設定終了 キャンセル

- ②④ **設定終了** ボタンをクリックします。

(次ページへ)

(前ページから)

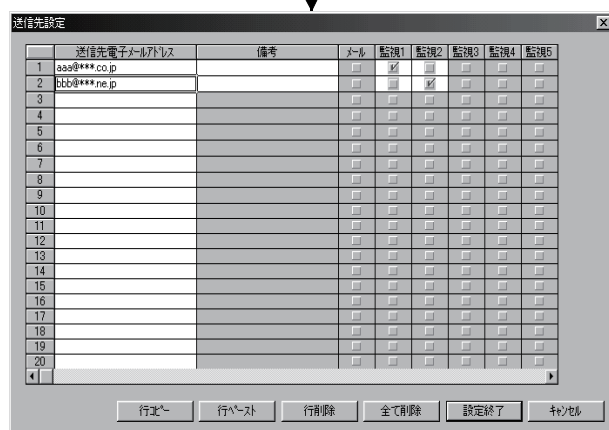


- ②④ 番号2にカーソルを移動し、**編集** ボタンをクリックします。



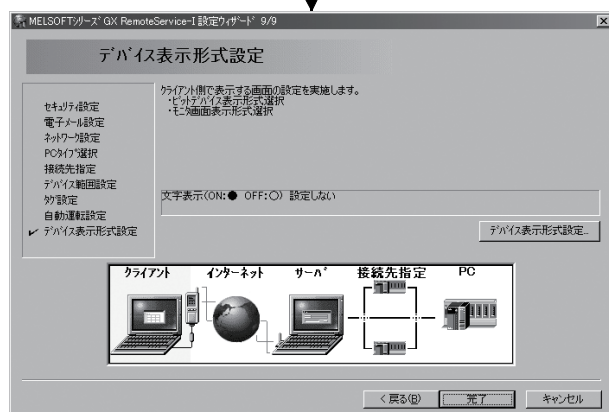
- ②⑤ 監視, 見出し文, トリガ条件(M1001), メッセージの件名, メッセージの本文を設定します。
“メール”の2をチェックします。

送信先設定 ボタンをクリックしてください。



- ②⑥ 左記画面で電子メールを送信する組み合わせが確認できます。

確認が終わったら、**設定終了** ボタンをクリックします。



- ②⑦ i モード対応携帯電話で表示される画面の表示形式を設定します。

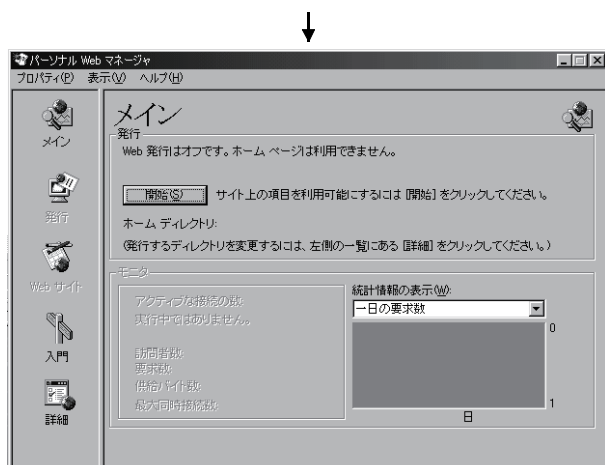
デバイス表示形式設定 ボタンをクリックします。

(次ページへ)

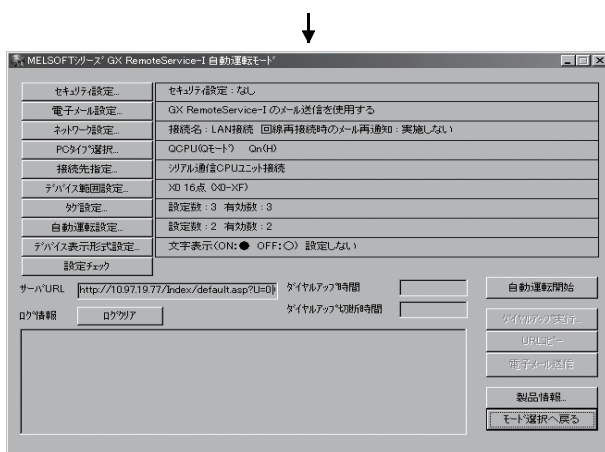
(前ページから)



- ②⑧ 文字表示 (ON: ● OFF: ○) を選択し、**設定終了** ボタンをクリックします。



- ②⑨ Webサーバソフトウェアを起動し、**開始** ボタンをクリックします。
Webサーバソフトウェアの起動は、5章を参照してください。



- ③⑩ **自動運転開始** ボタンをクリックします。

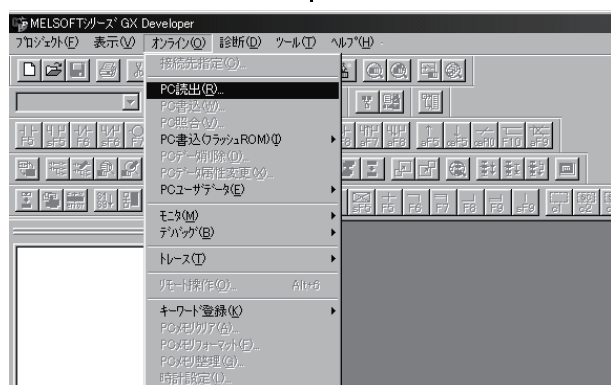
(終了)

8.2 監視デバイスを変化させ電子メールが届くまで

GX Developerのデバイステスト機能よりGX RemoteService-Iで設定した監視デバイスを変化させて、電子メールが届くことを確認します。

サーバ（パソコン）にあらかじめGX Developerをインストールしておいてください。

(開始)



- ① サーバ（パソコン）にインストールされているGX Developerを起動します。
[オンライン]-[PC読み出し]からシーケンサのプログラムを読み出します。

プログラムの読み出し操作は、GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください。

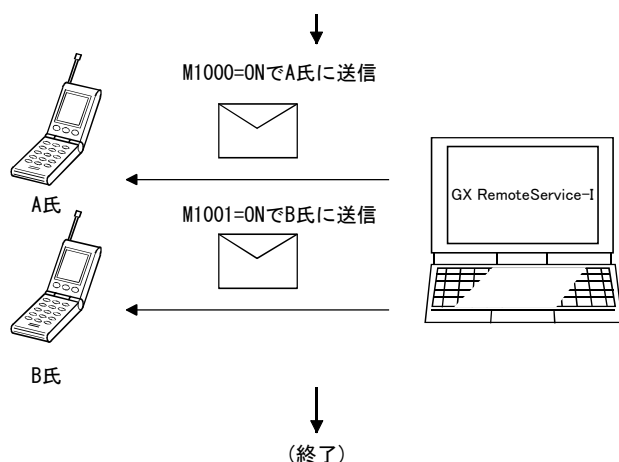


- ② GX Developerからプログラムのモニタ開始後、[オンライン]-[デバッグ]-[デバイステスト]を選択して左記画面でM1000を“ON”，M1001を“ON”に設定します。

M1000を“ON”にするとA氏に電子メールが送信されます。

M1001を“ON”にするとB氏に電子メールが送信されます。

GX Developerの操作は、GX Developerオペレーティングマニュアルを参照してください。



- ③ GX RemoteService-Iより電子メールが送信され、iモード対応携帯電話に通知します。

8.3 携帯電話で電子メールを受信してからデバイスを見るまで

GX RemoteService-Iより送信された電子メールを確認して、タグ表示、デバイス表示の確認ができるまでの操作方法を説明します。

8.3.1 タグを見るまで

操作の概要

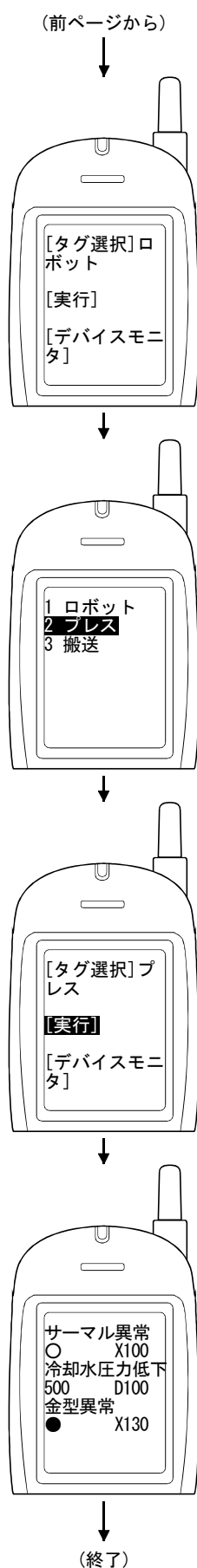
電子メールを受信後、タグ2（プレス）を選択してシステムの動作状態を確認する操作例を説明します。



- ① GX RemoteService-Iより送信された電子メールを受信します。
受信した電子メールを確認します。

- ② メッセージ本文が表示されます。
画面を下にスクロールすると、“タグ参照”，“デバイス参照”を選択できます。

- ③ 電子メールに付加されているタグ参照のアドレスを選択し実行します。



④ 左記画面が表示されます。
[タグ選択]を実行します。

⑤ タグ名の一覧が表示されますので、“2プレス”を選択します。

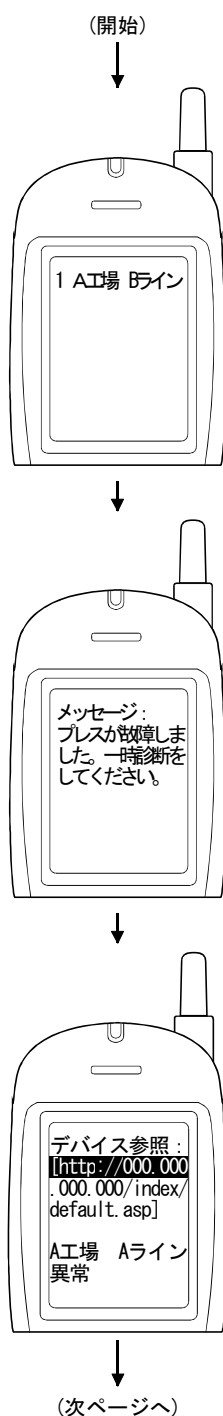
⑥ [実行]を選択します。

⑦ プレスで設定されているデバイスが読み出されます。

8.3.2 デバイスを見るまで

操作の概要

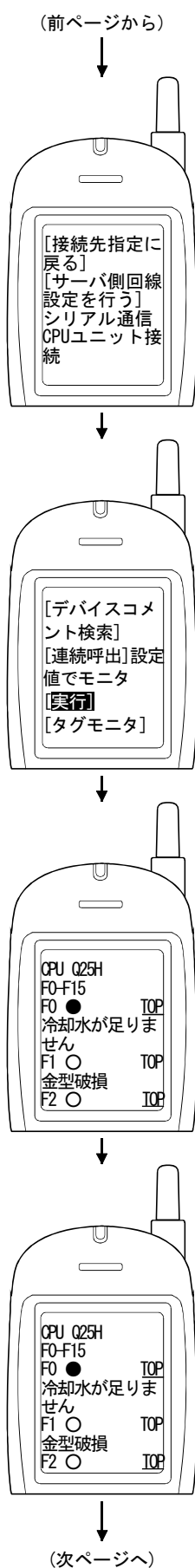
8.3.1項の操作に引き続き、“デバイス参照”でデバイス(F)をモニタして異常状態の詳細を確認します。また、モニタするデバイスをデータレジスタ(D)に変更してモニタする操作例を説明します。

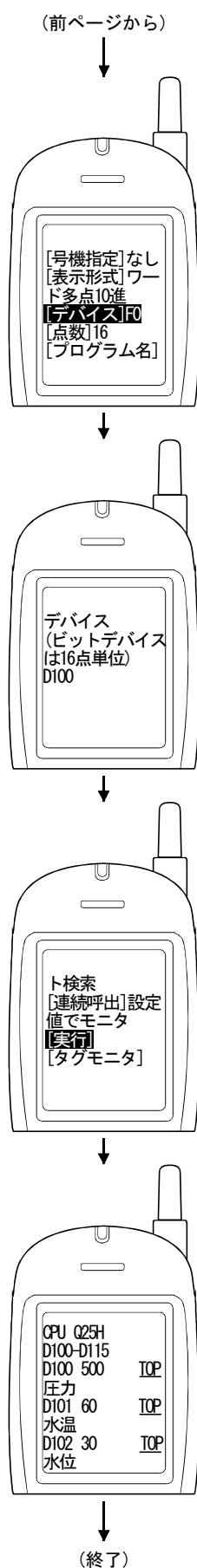


- ① GX RemoteService-Iより送信された電子メールを受信します。
受信した電子メールを選択します。

- ② メッセージ本文が表示されます。
画面を下にスクロールすると、“タグ参照”，
“デバイス参照”を選択できます。

- ③ 電子メールに付加されているデバイス参照の
アドレスを選択し実行します。





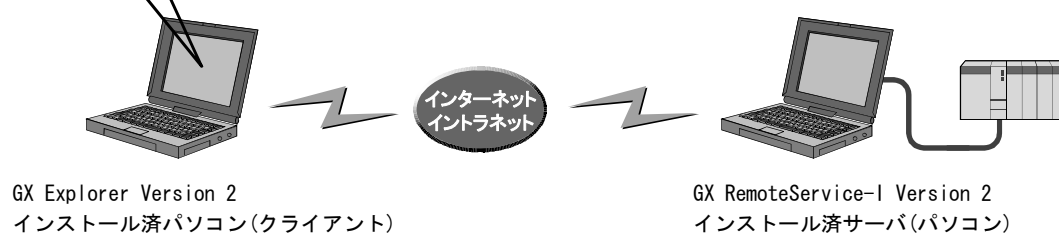
9. MELSOFT接続機能について

MELSOFT接続機能とは、クライアント側のソフトウェアパッケージ(MELSOFT)を使って、インターネット・イントラネット経由でシーケンサCPUへアクセスするための機能です。

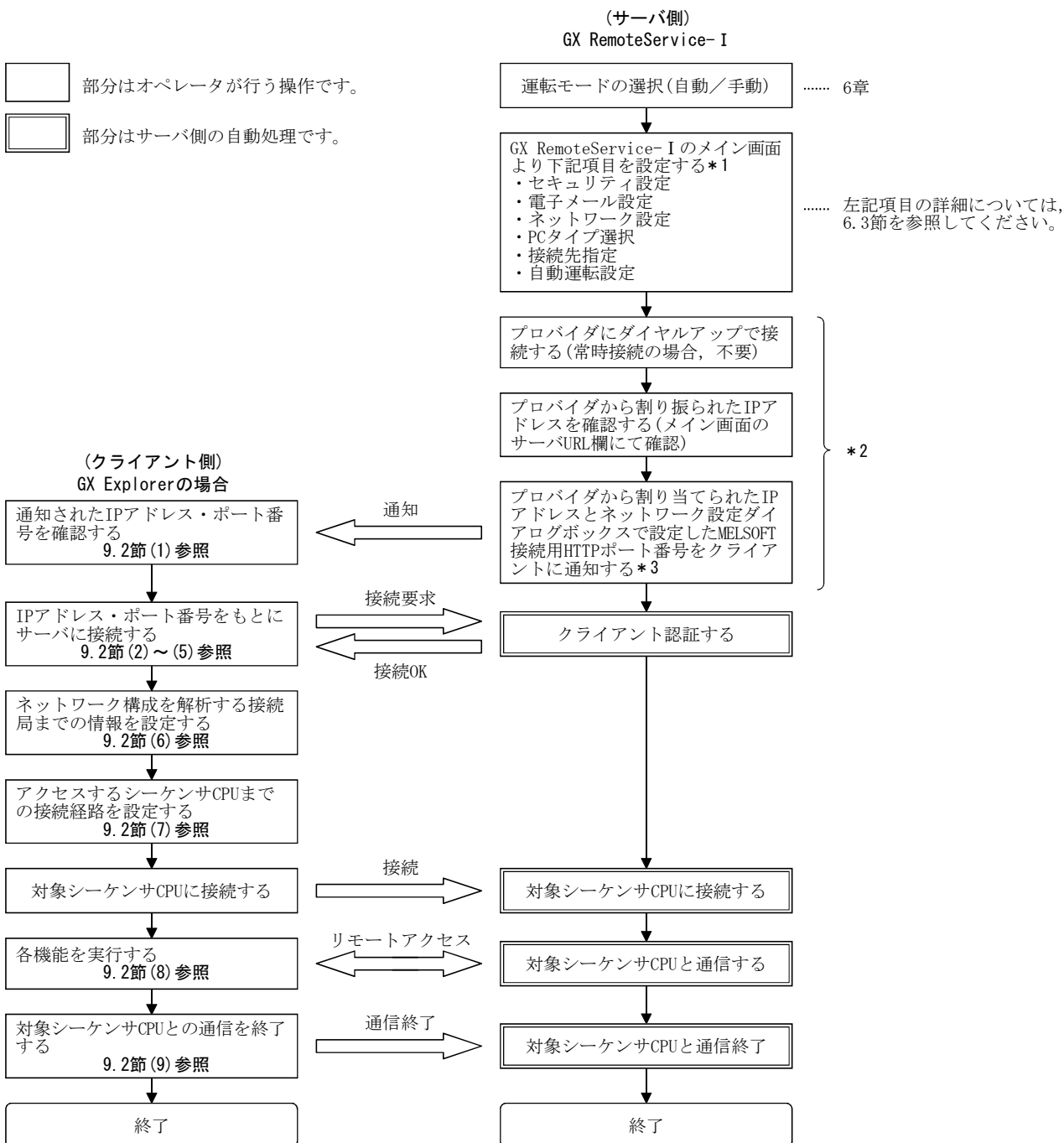
9.1 MELSOFT接続機能の使い方について

9.1.1 サーバがパソコン／パソコンCPUユニットの場合

ここでは、パソコン/パソコンCPUユニットを介してシーケンサCPUにアクセスする手順を説明します。



・ リモートアクセスの操作手順



※1：MELSOFT接続機能を使ってクライアント側からシーケンサCPUにアクセスするために、サーバ側のGX RemoteService-Iに対して設定が必要な項目を下記に示します。

設定項目	運転モード		内容
	自動	手動	
セキュリティ設定	△	△	クライアントがサーバへ接続するときに、サーバがクライアント認証を行うために設定します。
電子メール設定	○	△	GX RemoteService-Iのメール機能を使用するために設定します。 手動運転モード時、Microsoft® Outlook Expressなどのメールソフトを使用する場合は設定不要です。
ネットワーク設定	○	○	サーバのネットワークへの接続形態を設定します。
PCタイプ選択	○	○	クライアントから最初にアクセスするシーケンサCPUのPCシリーズ、PCタイプを設定します。
接続先指定	○	○	サーバとシーケンサCPU間の接続先指定を設定します。
自動運転設定	○	—	自動運転モードを使用する場合に、電子メールを送るトリガ条件の設定や電子メールのメッセージなどを設定します。

○：設定必須 △：設定任意 —：設定不要

※2：手動運転モードの場合：オペレータによる手動操作で実行します。（6.2節参照）

自動運転モードの場合：トリガ条件（自動運転設定にて設定）が成立したとき、自動で実行します。


※3：自動運転モードで使用する場合は、電子メール設定と自動運転設定を設定します。この設定により自動運転設定にて設定したトリガ条件が成立したとき、サーバのIPアドレスとMELSOFT接続用HTTPポート番号を含むメールをクライアント側へ自動的に送信します。


9.1.2 サーバがWebサーバユニットの場合

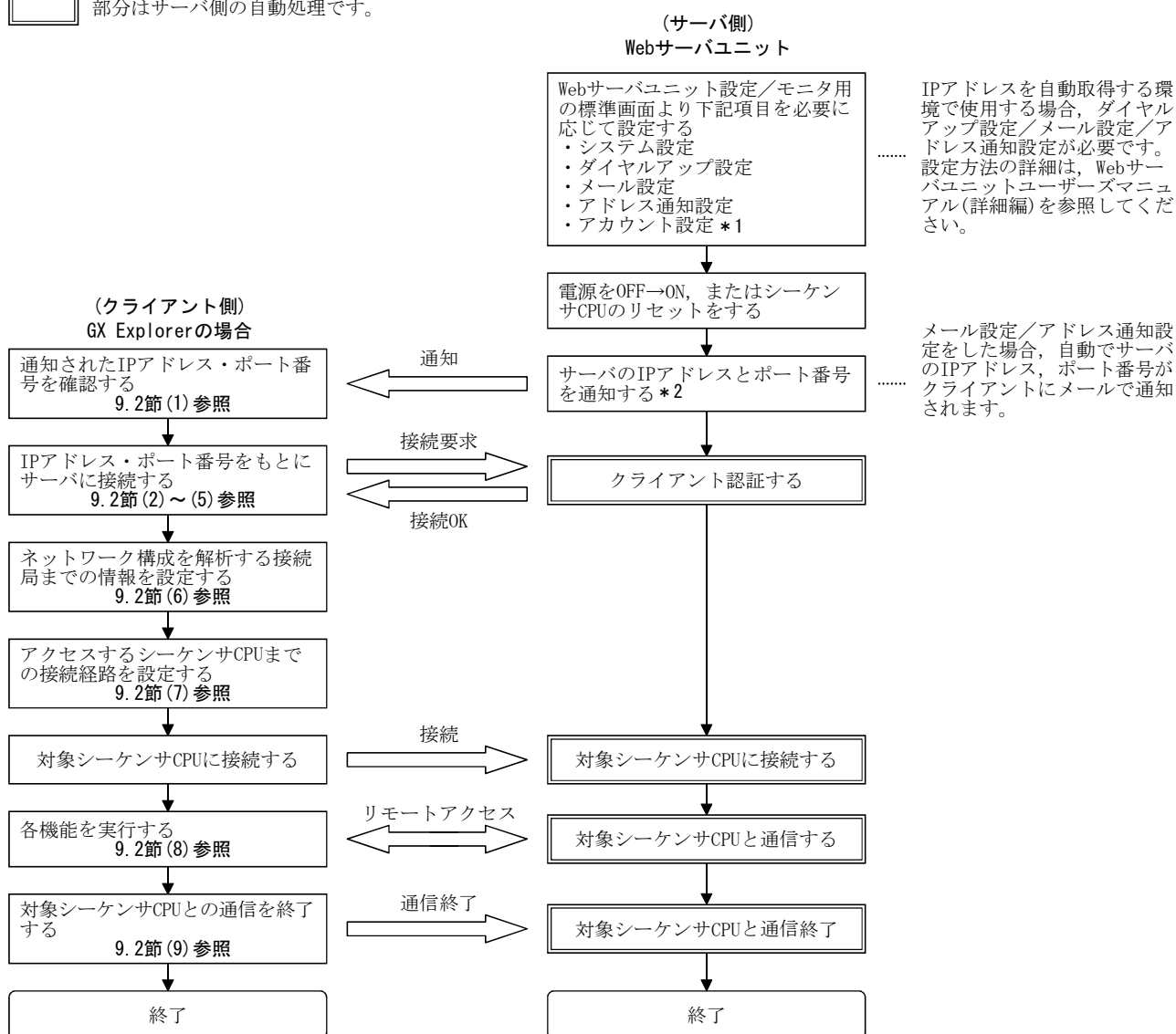
ここでは、Webサーバユニットを介してシーケンサCPUにアクセスする流れの一例をGX Explorer Version 2を使用して説明します。

Webサーバユニットをサーバとして使用する場合は、GX RemoteService-IをインストールしたコンパクトフラッシュカードをWebサーバユニットに装着してください。

・リモートアクセスの操作手順

 部分はオペレータが行う操作です。

 部分はサーバ側の自動処理です。



*1：アカウント設定は必要に応じて設定してください。

*2：電子メールを使用できない環境の場合は、GX DeveloperにてWebサーバユニットのネットワークへの接続状態をバッファメモリで確認してください。操作方法の詳細は、GX Developer Version 8 オペレーティングマニュアルを参照してください。

9.2 MELSOFT接続機能の使用例

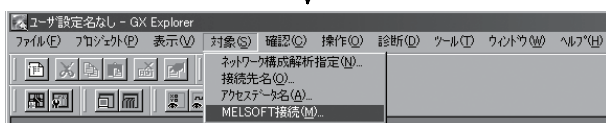
ここでは、メールで送られてきたサーバ情報をもとにサーバに接続し、サーバを介してのシーケンサCPUへのリモートアクセスからシーケンサCPUとの通信を終了するまでの操作をGX Explorer Version 2を使用して説明します。

(開始)

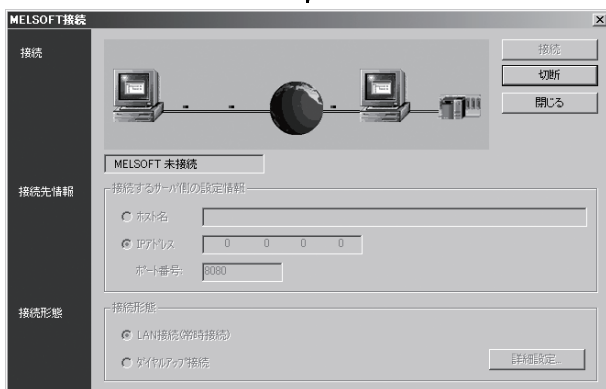
(メールの受信例)

日付: 2003/10/15
時間: 14:47:52
デバイス参照:
<http://0.0.0.0/index/default.asp>
ポート番号:
8080
メッセージ:
サーバ情報
・ IPアドレス
・ MELSOFT接続用HTTPポート番号

- (1) サーバから送られてきたメールにより、サーバの情報 (IPアドレス・MELSOFT接続用HTTPポート番号) を取得します。
IPアドレスは、[http://](http://0.0.0.0/index/default.asp)の後の部分です。
(左記メッセージ例の0.0.0.0の部分。)



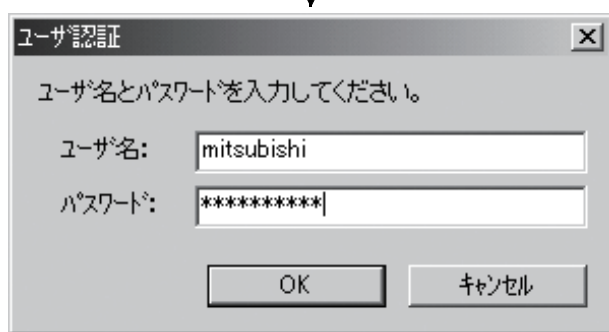
- (2) クライアントにインストールされているGX Explorer Version 2を起動します。
メニューから[対象]－[MELSOFT接続]を選択して、MELSOFT接続ダイアログボックスを表示します。



- (3) 接続対象のサーバを、ホスト名またはIPアドレスとポート番号で指定し、**接続** ボタンをクリックします。

(次のページへ)

(前ページから)

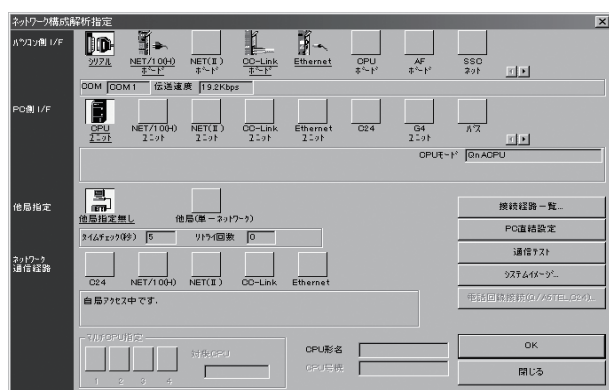
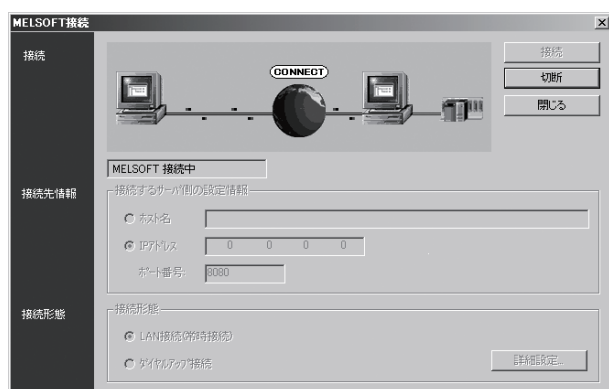


(4) GX RemoteService-I側でセキュリティ設定がされている場合、左記のダイアログボックスが表示されますので、設定されているユーザー名およびパスワードを入力して **OK** ボタンをクリックしてください。

サーバがWebサーバユニットの場合、ネットワークパスワードの入力ダイアログボックスが表示されます。

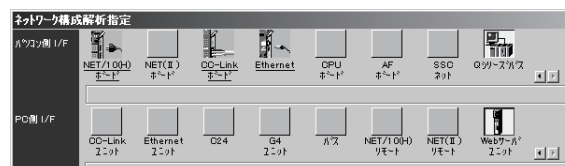
詳細は、Webサーバユニットユーザズマニュアル(詳細編)を参照してください。

(5) 接続に成功すると左記のようになります。



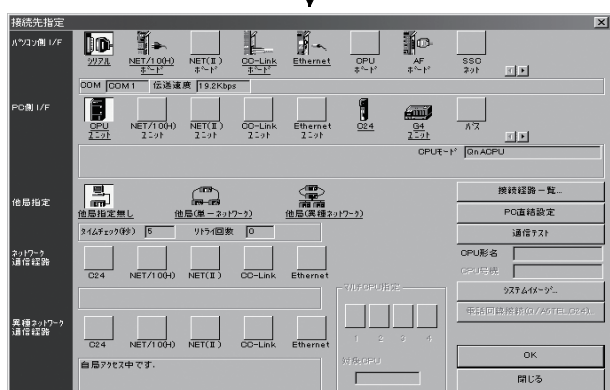
(6) サーバからネットワーク構成を解析する接続局までの情報を設定します。設定方法の詳細は、GX Explorer Version 2 オペレーティングマニュアルの“ネットワーク構成解析指定”を参照してください。

サーバがWebサーバユニットの場合、パソコン側I/Fに“Qシリーズバス”，PC側I/Fに“Webサーバユニット”を設定します。



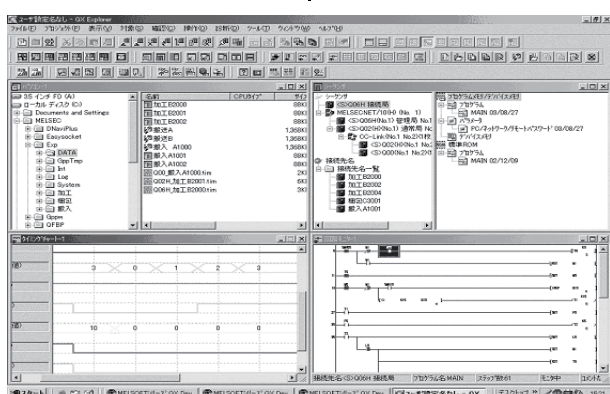
(次のページへ)

(前ページから)

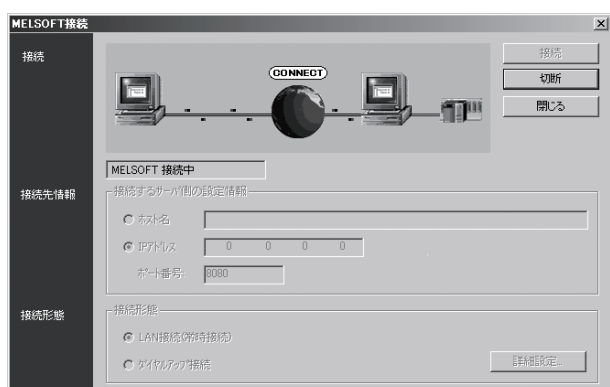


- (7) サーバからアクセスするシーケンサCPUまでの接続経路の情報を設定します。設定方法の詳細は、GX Explorer Version 2 オペレーティングマニュアルの“接続対象を設定する”を参照してください。

サーバがWebサーバユニットの場合、パソコン側I/F、PC側I/Fに設定する項目は、前述の(6)と同様になります。



- (8) 対象シーケンサCPUにリモートアクセスして、GX Explorer Version 2の各機能を実行することができます。



- (9) リモートアクセスしているシーケンサCPUとの通信を終了したい場合は、MELSOFT接続ダイアログボックスの「切断」ボタンをクリックして、サーバとの接続を切断します。

(終了)

10. トラブルシューティング

サーバ（パソコン）についてのトラブルシューティングについて説明します。

現 象	チェック内容	処置方法
ダイヤルアップネットワークからプロバイダに接続できない。	ダイヤルアップネットワークがインストールされているか。	コントロールパネルにダイヤルアップネットワークが存在するか確認する。
	ダイヤルアップネットワークの「接続」が設定されているか。	コントロールパネルのダイヤルアップネットワークの中に接続先が登録されていることを確認する。
	モデムドライバがインストールされているか。	コントロールパネルのモデムのプロパティに使用しているモデムが表示されていることを確認する。
	モデムがダイヤルしない。	コントロールパネルのダイヤルネットワークの中の接続先のアイコンをクリックして確認する。
	ダイヤルするがホストに接続できない。	コントロールパネルのダイヤルネットワークの中の接続先のアイコンをクリックして確認する。
	回線は接続したがLOGINできない。	コントロールパネルのダイヤルネットワークの中の接続先のアイコンをクリックして確認する。
ダイヤルアップ接続が不安定な場合。 (接続できない場合がある)	モバイルで電波の弱い場所から接続している。または、構内回線を利用している。	ダイヤルアップ接続は、電話番号の前に「, (ポーズ)」を入力する。
GX RemoteService-Iからメール送信できない。	GX RemoteService-Iの電子メールが設定されているか確認する。	GX RemoteService-Iの電子メール設定に正しい値が設定されているか確認する。
	・市販の電子メールから指定先にメールが送れるか確認する。 ・ソフトウェアが送信できるか確認する。	設定内容に誤りがないか確認する。 プロバイダに確認する。
	SMTP, POP3サーバの設定は正しいか確認する。	・設定した文字列が間違えていないか確認する。(全角入力, ピリオドとコロンなど) ・プロバイダから提供されたSMTP, POP3サーバの設定を確認する。
	アカウント名, パスワードの設定がされているか。	プロバイダから提供されたアカウント名とパスワードを確認する。

i モード対応携帯電話についてのトラブルシューティングの説明をします。

現 象		チェック内容	処置方法
i モード	i モード対応携帯電話よりアクセス時「接続障害指定されたサイトは存在しません (DNS) XXX. XXX. XXX. XXX (IPアドレス)」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
		Webサーバソフトウェアが起動されているか確認する。	Webサーバソフトウェアを起動する。
	i モード対応携帯電話よりアクセス時「指定されたサイトは非常に込みあっています。しばらくしてから接続し直して下さい。XXX. XXX. XXX. XXX (IPアドレス)」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
		IISが起動されているか確認する。	IISを起動する。
J-スカイ	i モード対応携帯電話よりアクセス時「1ページの最大サイズを超えたので、中断しました。」が表示される。	携帯電話が持っているメモリを超えていないか確認する。	デバイス範囲を減らす。 コメント表示を止める。
	J-スカイ対応携帯電話よりアクセス時「HTTPエラー500が発生しました。このページはSkyWebでは表示できません。」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
		Webサーバソフトウェアが起動されているか確認する。	Webサーバソフトウェアを起動する。
	J-スカイ対応携帯電話よりアクセス時「HTTPエラー404が発生しました。このページはSkyWebでは表示できません。」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
EZweb	J-スカイ対応携帯電話よりアクセス時「サイズがおおきすぎるため、このページはSkyWebでは表示できません。(REP379)」が表示される。	IISが起動されているか確認する。	IISを起動する。
		携帯電話が持っているメモリを超えていないか確認する。	デバイス範囲を減らす。 コメント表示を止める。
	EZweb対応携帯電話よりアクセス時「Webサービス障害：詳細をご覧ください。詳細：1012:サイトに接続できません。」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
		Webサーバソフトウェアが起動されているか確認する。	Webサーバソフトウェアを起動する。
クライアント共通	EZweb対応携帯電話よりアクセス時「Error The system cannot find the file specified.」が表示される。	GX RemoteService-Iが起動されていることを確認する。	GX RemoteService-Iを起動する。
		IISが起動されているか確認する。	IISを起動する。
	EZweb対応携帯電話よりアクセス時「Webサービス障害：詳細をご覧ください。詳細：1044:HTTP応答が制限を越えました。」が表示される。	携帯電話が持っているメモリを超えていないか確認する。	デバイス範囲を減らす。 コメント表示を止める。
	コメント付きのモニターでエラーが表示される。	シーケンサCPUにデバイスコメントが書き込まれているか確認する。	GX Developer を用いてデバイスコメントが書き込まれているか確認する。
		デバイスコメント名が間違っていないか確認する。	サーバ (パソコン) のデバイス設定画面を表示して登録されていてデバイスコメント名を確認する。
	T/Cデバイスのモニターでエラーが表示される。	プログラム名が間違っていないか確認する。	サーバ (パソコン) のデバイス設定画面を表示して登録されていてプログラム名を確認する。
	タグ名での表示ができない。	サーバ (パソコン) にタグ設定がされているか確認する。	サーバ (パソコン) のタグ設定画面を表示して登録され、設定が有効になっていることを確認する。

(次ページへつづく)

(前ページより)

現 象		チェック内容	処置方法
クライアント共通	回線切断ができない。	サーバ（パソコン）で i モード対応携帯電話からの切断が許可されているか確認する。	サーバ（パソコン）のダイヤルアップ設定画面を表示して「クライアント側によるダイヤルアップ切断タイム設定を許可する」がチェックされていることを確認する。
	ダイヤルアップ切断タイマの設定ができない。	サーバ（パソコン）で i モード対応携帯電話からダイヤルアップ切断タイマの設定が許可されているか確認する。	サーバ（パソコン）のダイヤルアップ設定画面を表示して「クライアント側によるダイヤルアップ切断タイム設定を許可する」がチェックされていることを確認する。
	デバイス、コメントの表示をすると頻繁にタイムアウトが発生してブラウザに表示できない。	サーバ（パソコン）でスクリプトのタイムアウト時間を確認する。	スクリプトのタイムアウト時間を変更する。 変更方法は備考を参照。
	PCと交信できない。 01802001 01802002 01802005 010*4030 010*4031 010*4032 (*:0～Fが入る。)	使用できないデバイス名や範囲が使用されている。	シーケンサマニュアルでデバイス名、範囲を確認する。

備 考

スクリプトのタイム時間変更方法を下記に示します。

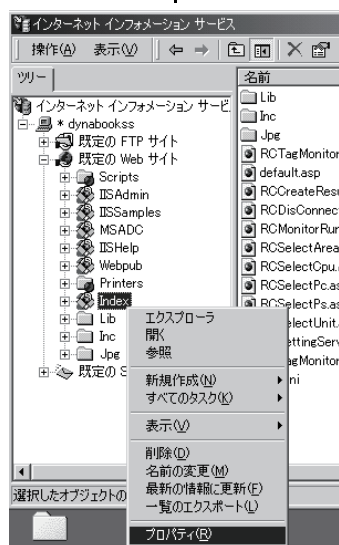
(開始)



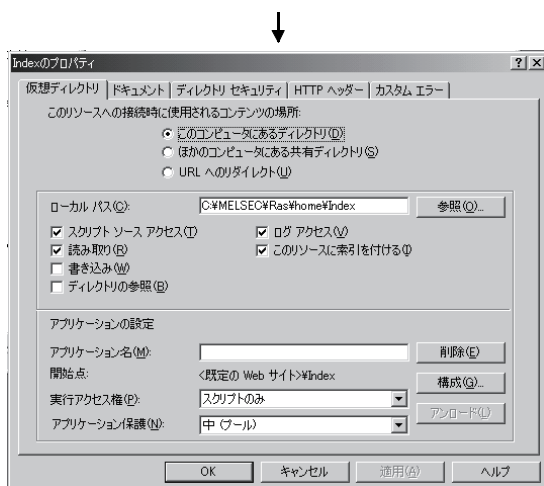
- ① インターネットインフォメーションサービスを起動します。

(次ページへ)

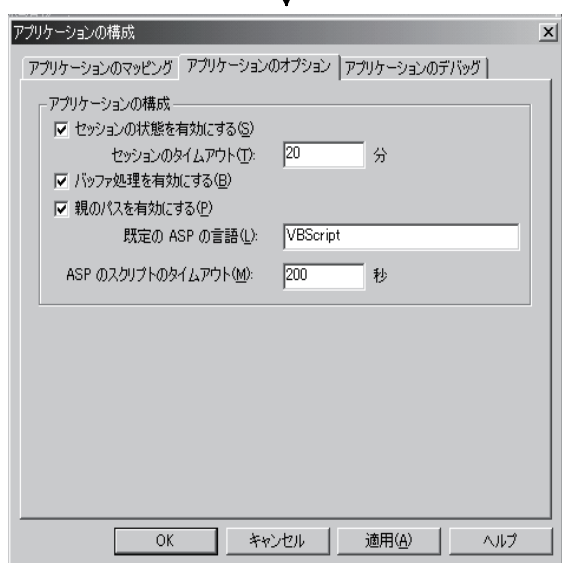
(前ページから)



- ② GX RemoteService-Iの仮想ディレクトリ
「Index」を右クリックし, [プロパティ]を選択します。



- ③ 《仮想ディレクトリ》タブ内にある **構成** ボタンをクリックします。



- ④ 《アプリケーションのオプション》タブ内の
[ASPスクリプトのタイムアウト]を200秒程度
に変更し, **OK** ボタンをクリックします。

(終了)

付 録

付1 制約事項

GX RemoteService-Iを使用する上での制約事項を下記に示します。

項 目	制約事項
モニタ表示	回線状況により、モニタ表示など（パソコンに対する問い合わせ）が遅くなる場合や、モニタ表示で通信のタイムアウトエラーが発生する場合があります。
検索	回線状況により、iモード対応携帯電話でのコメント検索ができない場合があります。
Webサーバユニット	本パッケージを使用できるWebサーバユニットは、シリアル番号の上5桁が05112以降です。
MELSOFT接続機能	MELSOFT接続する場合は、サーバ側の動作環境にInternet Explorer 6.0以降をインストールしてください。（Windows® XPは、デフォルトでインストールされています。）
接続設定	ダイヤルアップルータのIPアドレスは、グローバルIPのみ使用可能です。 （IPマスカレードはサポートしません。）
Web機能	WindowsパソコンとパソコンCPUユニットのみWeb機能を実行することができます。 Webサーバユニットを使用の場合は、ユニットに標準添付の機能を使用してください。
性能（通信速度）	回線状況により、リモートアクセス時クライアント側で更新が遅くなる場合や、通信のタイムアウトエラーが発生する場合があります。
サーバ接続	ダイヤルアップ接続する場合、接続のたびにクライアント側にサーバ側のIPアドレスなどを通知する必要があります。（IPアドレス、HTTPポート番号。）
LAN接続	DHCPサーバからIPアドレスを取得する場合、定期的にIPアドレスが変更されるため、LAN接続でのIPアドレスの取得では“自動的に取得”をサポートしません。
接続サーバ数	1クライアントから複数箇所のサーバ（パソコン）への同時接続はサポートしません。
最大接続数	接続数（クライアント数）は、実行環境により異なるため、クライアントからの接続が多い場合、エラーを示すダイアログボックスが表示されます。 その場合は、不要な接続を切断するか、時間をおいてから再度接続を実行してください。
モニタ可能オブジェクト数	サーバ（パソコン）に接続してモニタすることが可能なオブジェクト数は20個までです。 （同一クライアントで、2つ以上の接続要求も可能です。オブジェクト単位）
インストール	パソコン、またはパソコンCPUユニットへのインストールは、Administrator属性でログオンしたユーザのみ可能です。
モデム接続	MELSOFT接続する場合、サーバからシーケンサシステムまでの間では、モデム経由の接続経路はサポートしません。（Q6TEL経由、QJ71CM0経由など）
Ethernetボード／カード	複数枚のEthernetボード／カードを使用しているパソコンでは、本パッケージが正常に動作しない場合があります。
IPアドレス	本パッケージをインストールするパソコン／パソコンCPUユニットでは、同一インタフェースに対して、複数のIPアドレスの割付けをサポートしません。

項 目	制約事項
回線接続	サーバ（パソコン）に同時に接続できる i モード対応携帯電話の数は 10 台までです。接続可能数を超えたときは、ブラウザ上に“HTTP エラー 403”が表示されます。
	サーバ（パソコン）用ブラウザから接続する場合、接続している i モード対応携帯電話の台数を 2 としてサーバ（パソコン）はカウントします。
	プロバイダや経由する Internet サーバ間の回線状況などにより、サーバ（パソコン）からの応答が遅れる場合があります。
携帯電話	i モード対応携帯電話に表示されるタグ名、デバイスコメントに半角カナがある場合、i モード対応携帯電話で正しく表示できない場合があります。
	i モード対応携帯電話では「戻る」ボタンで戻ったとき、ネットワーク No. や局番設定がデフォルト値に戻ります。
	機種依存文字が i モード対応携帯電話で正しく表示されない場合があります。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ I II III IV V VI VII VIII IX X ミ リ キ センメー グラ ト アーヘ クリ ッ ツ カ ロ ド センバ ーミ リ ベー mmcmkmmgkgccm ² " // No.KK Tel ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ ≡ ∫ ∫ ∑ √ ⊥ ∠ ⊥ ∠ ∴ ∴ ∩ ∪

メ 毛

[illegible]

索引

【I】

- i モード対応携帯電話
回線接続設定…………… 3- 2, 7- 5

【P】

- PCタイプ設定…………… 6-10

【W】

- Webサーバソフトウェアのインストール
 - Windows® 2000の場合…………… 5- 7
 - WindowsNT® 4.0の場合…………… 5- 4
 - Windows® 98の場合…………… 5- 1
 - Windows® XPの場合…………… 5-11

【き】

- 機能一覧
 - サーバ (パソコン) …………… 3- 1
 - i モード対応携帯電話…………… 3- 2

【さ】

- サーバ (パソコン) 側の構成機器一覧
 - I/Fボードからの接続…………… 2- 9
 - Webサーバユニットからの接続…………… 2-20
 - 使用可能なユニットの形名…………… 2-11
 - シリアル/USBポートからの接続…………… 2- 2
 - パソコンCPUユニットからの接続…………… 2-14

【し】

- 自動運転設定…………… 6-18
- 自動運転モード
 - 自動運転モードについて…………… 1- 5
- 手動運転モード
 - 手動運転モードについて…………… 1- 6

【せ】

- サーバ (パソコン) にGX RemoteService-Iを
設定する…………… 8- 1
- セキュリティ設定…………… 6- 5
- 接続先指定…………… 6-11
- 設定ウィザード…………… 6- 2
- 設定と手順
 - サーバ (パソコン) …………… 4- 2
 - i モード対応携帯電話…………… 4-14

【た】

- タグ設定…………… 6-16
- タグを表示する…………… 7- 2
- タグを見るまで…………… 8-13

【て】

- デバイス・コメントの表示例…………… 7- 3
- デバイス範囲設定…………… 6-15
- デバイス表示形式設定…………… 6-20
- デバイスを見るまで…………… 8-15
- 電子メール設定…………… 6- 6

【と】

- 動作環境
 - i モード対応携帯電話…………… 2-27
 - サーバ (パソコン) …………… 2-24

【ね】

- ネットワーク設定…………… 6- 8
- ネットワークへの接続形態
 - 接続機器構成…………… 2-22
 - 接続構成…………… 2-21

【め】

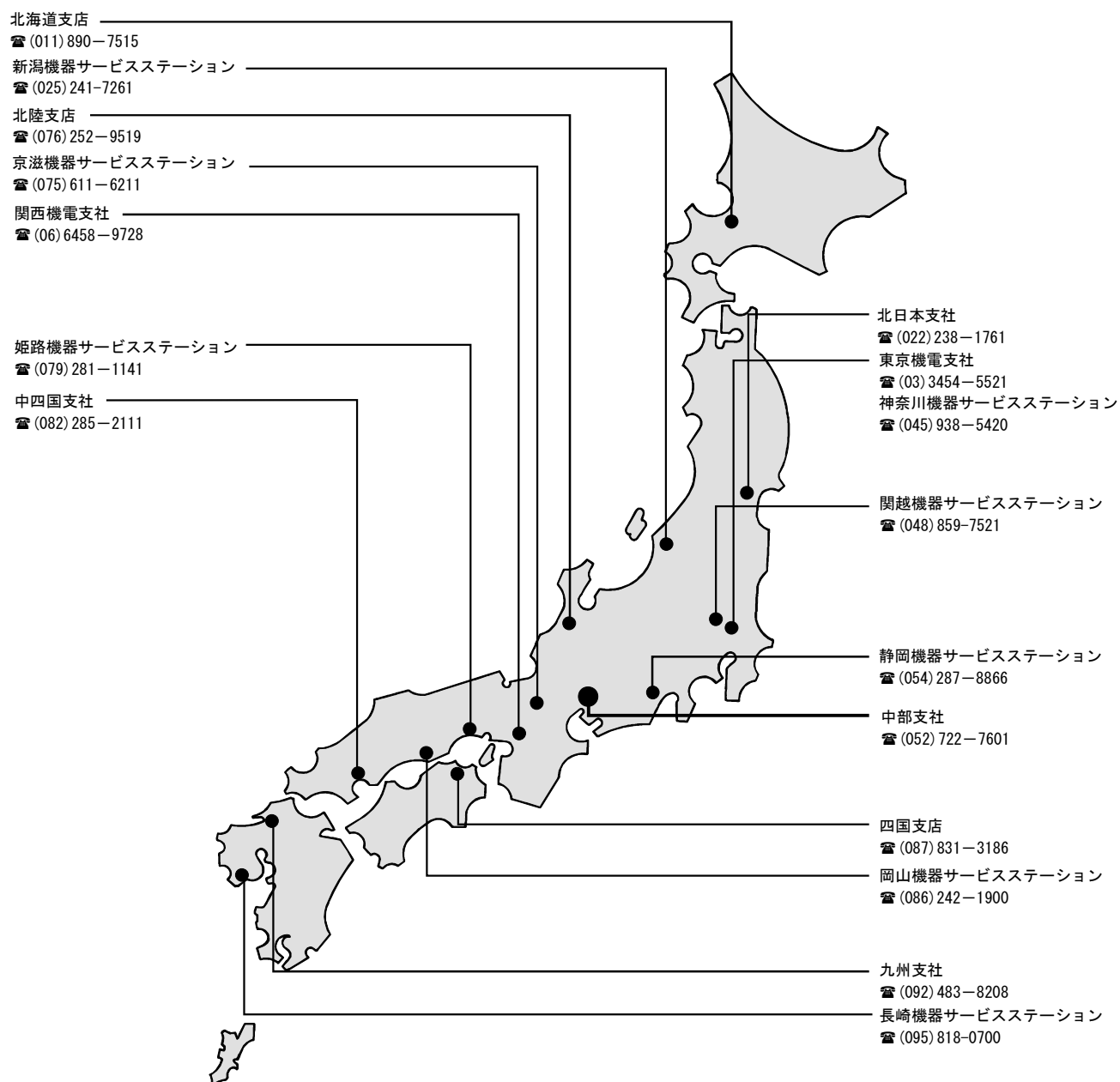
- MELSOFT接続機能
 - MELSOFT接続機能の使い方…………… 9- 1
 - MELSOFT接続機能の使用例…………… 9- 5
- メイン画面…………… 6- 3

✕

毛

[illegible]

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。
Ethernetは、米国Xerox Corporationの商標です。
PC-9800, PC98-NXは、日本電気株式会社の登録商標です。
その他、本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

GX RemoteService-I Version 2

オペレーティングマニュアル



三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)	(03)3218-6760
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011)212-3794
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022)216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル ランド・アクシス・タワー)	(048)600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025)241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045)224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076)233-5502
中部支社	〒450-8522	名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)	(052)565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565)34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06)6347-2771
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル)	(082)248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087)825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ: <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>

MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録(無料)が必要です。

電話技術相談窓口

対 象 機 種		電 話 番 号	受 付 時 間※1	
MELSEC-Q/QnA/A シーケンサ	シーケンサ一般(下記以外)	052-711-5111	月曜～金曜	9:00～19:00
	ネットワーク、リアルコミュニケーションユニット	052-712-2578		
	位置決めユニット ※2	052-712-6607		
	アナログ、温調、温度入力、高速カウンタユニット	052-712-2579	月曜～木曜 金曜	9:00～19:00 9:00～17:00
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/ 高速データロガーユニット	052-712-2370		
MELSOFTシーケンサ プログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ SW□I/D-GPPA/GPPQなど	052-711-0037	月曜～金曜	9:00～19:00
MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど	052-712-2370	月曜～木曜 金曜	9:00～19:00 9:00～17:00
MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど			
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU	052-712-2830		
	二重化CPU			
	MELSOFT PXシリーズ			
MELSEC Safety	安全シーケンサ/安全コントローラ	052-712-3079		
GOT表示器	GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417	月曜～金曜	9:00～19:00
	MELSOFT GTシリーズ			

FAX技術相談窓口

対 象 機 種	F A X 番 号	受 付 時 間※1
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時※3)

※1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日

※2: ACサーボ、モーション窓口にて対応します

※3: 春期・夏期・年末年始の休日を除く

形名	SW2D5-RAS-O-J
形名 コード	13JV78
SH(名)-080437-G(0911)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

この印刷物は2009年11月の発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が附加されますのでご承知をお願いします。

2009年11月作成

標準価格 3,000円